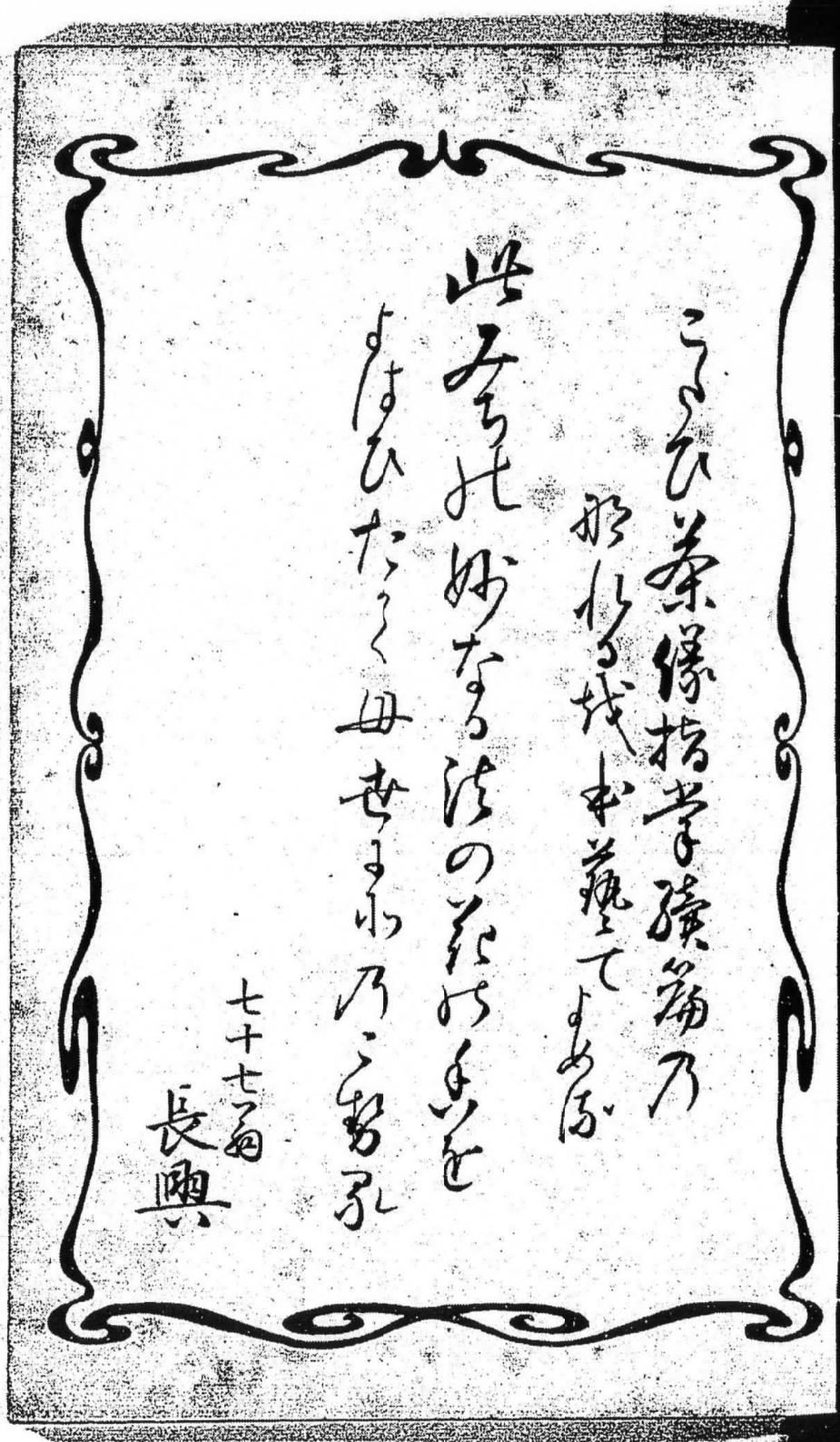
松尾流茶儀指掌 後

275
240

小出良雪編輯
松尾流茶儀指掌
小笠原宗雪義徹

宇和島藩



246-240

此編ハ前編ニ載スル所ノ茶儀ヨリ高尚ナルモノナリ所謂相傳ノ秘奥モ秘セズシテ茲ニ纂輯シ松尾ノ正流ヲ博ク同好ノ諸氏ニ傳ヘンコト是レ拙老ノ深ク望ム所ナリ其文辭ノ如キハ更ニ修飾セズ通俗解シ易キヲ旨トス請フ博雅ノ君子尤ムル勿レ

明治四十三年十月

小出良金識

目錄

風爐左勝手湖茶点之圖並点茶仕樣之事……一丁
風爐丸卓飾圖並湖茶点之事……十一丁
風爐丸卓杓蓋置貳ツ飾湖茶点之事……十五丁
風爐桐小卓杓蓋置飾附湖茶点之事……十九丁
風爐桐小卓飾左勝手湖茶点之事……二十五丁
風爐江岑棚湖茶点之事……二十九丁
風爐紹鷗棚湖茶点……俗ニ紹鷗水指棚トモ云フ……三十六丁
風爐左勝手炭手前之事……四十三丁
風爐右勝手湖茶点之事……四十七丁

一 風爐長板飾薄茶点之事……五十二丁
一 風爐長板疊ッ飾薄茶点之事……五十三丁
但三盆点・備叟点・原叟点之事
一 風爐之次第……六十三丁
一 風爐長板盞子飾薄茶点之事……六十四丁
一 風爐竹盞子薄茶点之事……七十丁
一 風爐しめ飾之事……七十四丁
一 風爐小角盞貴人へ薄茶点之事……七十五丁
一 風爐小角盞清次薄茶点之事……七十九丁
一 風爐左勝手濃茶点之事……八十三丁
一 風爐長板盞子飾濃茶点之事……九十二丁
一 土風爐炭手前並濃茶点之事……九十六丁

一 風爐小角盞貴人へ濃茶点之事……百四丁
一 風爐小角盞清次濃茶点之事……百九丁
一 客へ花所望之事……但廻花並花心得方之事……百十四丁
一 客へ對シテ心得之事……百十八丁
一 外題飾之事……百十九丁
一 軸飾之事……百二十丁
一 茶香ブキノ事……百二十丁
一 花鳥式之事……百三十丁
一 茶巾飾之事……百三十九丁
一 壺飾之事……百四十一丁
一 壺飾ノ圖並壺口切……百四十三丁

一 網撫取緒之事……百四十三丁
一 紹鷗棚点茶之事……百四十八丁
一 自在竹釣釜之事 並鎖自在……百五十二丁
一 堂庫点茶之事……百五十五丁
一 向切炭手前之事……百五十六丁
一 向切薄茶点之事……百五十七丁
一 向切濃茶点之事……百五十九丁
一 名水点之事……百六十二丁
一 和巾真行草之事……悉シトキハ別記第弐號ノ内ニアリ……百六十二丁
一 風爐唐物点之事……百六十三丁
一 風爐盈天目点之事……百六十九丁
一 臺天目茶筅選之事……百七十五丁
一 風爐盆点之事……百七十六丁
一 風爐亂飾……但松尾流沙門点ノ法ニ依リ……百八十五丁

別記

第壹號
一 点茶身ノ居儀格式……一丁
第弐號
一 和巾折方 幷 捌キ及茶入ト茶杓ヲ清メル事(並ニ和巾真行草扱ヒノ事)……四丁

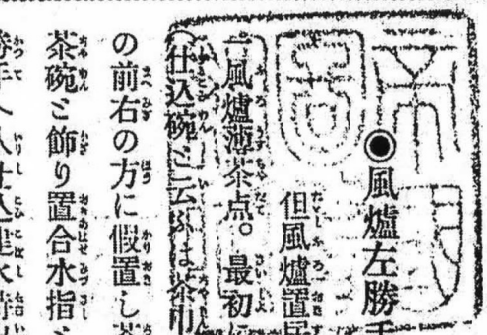
第一參號
一茶巾……十四丁
第四號
一柄杓蓋置取扱之事……十七丁
第五號
一釜取扱之事……二十丁
第六號
一水指ノ蓋取幷置様定座又片口持出水指へ水サシ入ル時其定座之事……二十三丁
第七號
一点茶ノ節水指ヨリ釜へ水ヲ差入ル取扱……三十丁
第八號
一片口持出水指へ水サシ入ル取扱……三十二丁
第九號
一片口持出釜へ水サシ入ル取扱附鬲釜ヲ水ニテ濕ス事……三十三丁
第拾號
一茶入袋ヲ脫方之取扱……三十六丁
第拾壹號
一点茶圖解番號表……三十八丁
第拾貳號
一点茶定例法……三十九丁
第拾參號
一道具棚へ飾長仕廻ニスル時取扱之心得……三十九丁
第拾四號
一小角臺及貴人点取扱之事……四十丁
第拾五號

一風爐置居ル鋪板ノ定座ノ圖又客ヨリ乞タル品差出ス所ノ圖……四十一丁
第拾六號
一客ヨリ両器初メ袋等ヲ見ンコトヲ乞フ時及ヒ茶碗和巾等客へ差出取扱之事四十三丁
第拾七號
一中興仕飾リ戻ノ事……四十四丁
以上

松尾流茶儀指掌（續編）

小出良金編

◉風爐左勝手薄茶点之圖幷点茶仕様の事

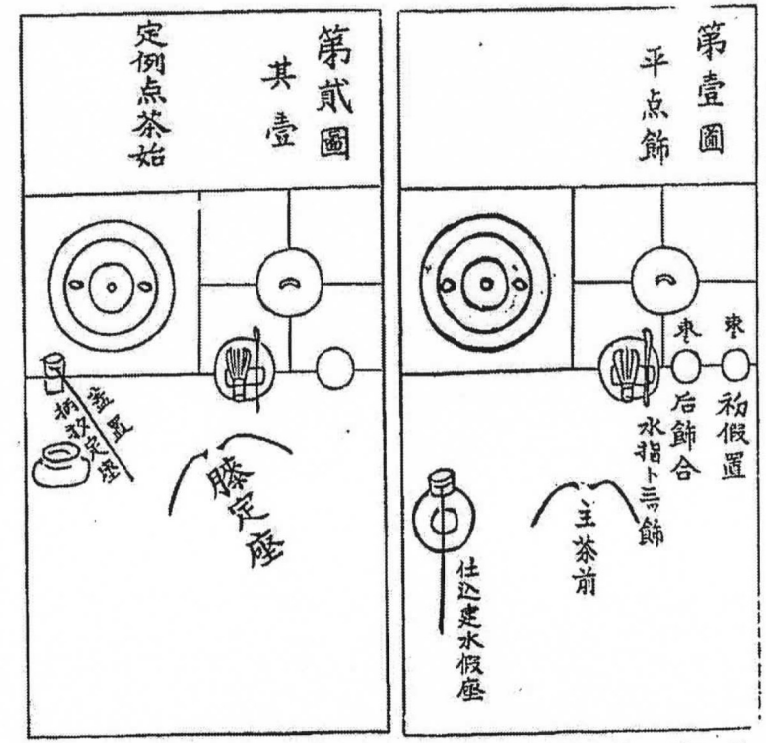


一風爐薄茶点。最初に水指持出圖の所に置。次に棗右手に持仕込碗左に持。仕込碗と云ふは茶巾筅茶杓を碗に仕込たる事）水指の前に居直り。棗は水指の前右の方に假置し茶碗は水指の前左の方に飾り置。右手にて棗取り圖の通茶碗ゟ飾り置合水指ゟ三つ飾にす（此飾りたる姿を三つ飾りゟ號す）

勝手へ入仕込建水持出。（仕込建水と云ふは建水の内へ蓋置入れ其上に柄杓の合を伏て乘せかけ置ことゝ）茶道口明捨。身を茶前（点茶する座なり）に居直り建水假座に置〇第壹圖の如く。柄杓左手に取。右手あしらひ。杓の合を前

◉風爐左勝手薄茶点之圖幷点茶仕様の事

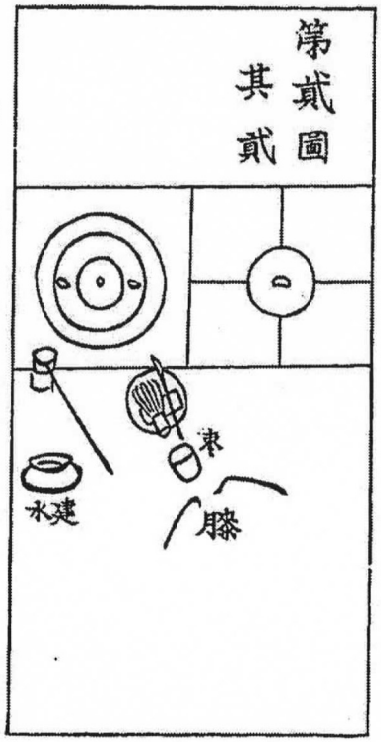
第壹圖
平点飾



第貳圖
其壹
定例点茶始

向にして竪て左手に持ち蓋置右手にて建水の内より取出し。其定座へ置居。柄杓右手へ持ち替へ。蓋置の上へ乗せ柄を斜に引置〇第貳圖其壹の如く。客へ挨拶してより身を少々風爐の方へねじ向ひ熟と居定。建水定座へ直し置〇第貳圖其貳の如く。是れより茶点終り。釜へ水三杓汲入。水指の蓋しめる所迄を薄茶点の定例

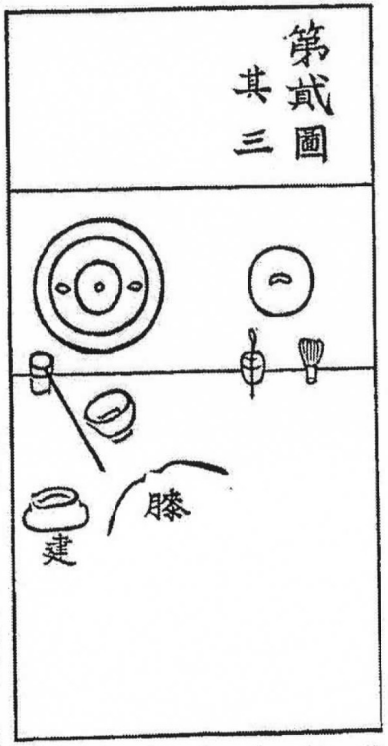
第貳圖
其貳



こ號す〇別記第拾貳號にあり〇第三圖の如く。扱茶碗左手にて取り。右手へ持直し膝前向寄に置棗。右手にて取り膝と茶碗の間に置〇第貳圖其貳の如く。腰に下けある和巾を左手にて取り。右手と出合。しほりさばきして和巾さばき〇別記第貳號にあり。右に持ち（右膝上に一寸休め）棗左手にて。取上け右手の和巾にて二遍に蓋を拭き。其和巾持ちたる儘。右膝上に休め。棗は水指前左の方に置和巾さばき直して左手に受け。茶杓右手に取り（貝先上向にして）三遍上へ横上へと拭上け。棗の蓋の上に置其手にて茶筅を取出し棗の右の方へ置合せ。圖の如く水指と三つ飾にし。右手にて碗少し前へ寄せ置。和巾腰に下る〇第貳

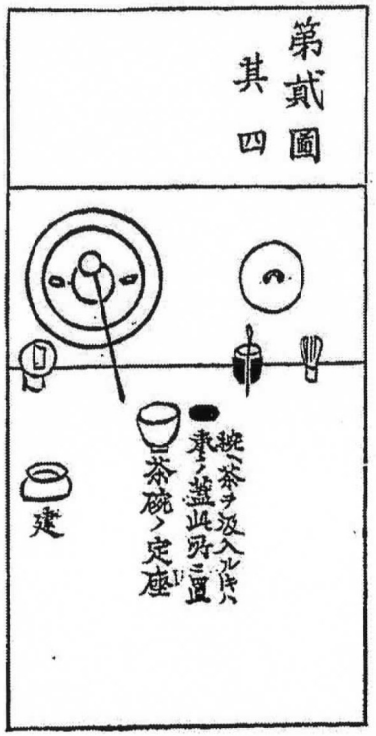
圖其參の如く柄杓右の手に取。左手あしらひ杓の合を前向にして左手に竪て持替。右手にて釜の蓋取り蓋置の上に乘せ置き。茶巾碗より出して釜の蓋のつまみに手なりにして爲持掛置。柄杓右へ持替釜の湯を汲み碗へ入。柄杓其儘釜の上へ持行仰のけて釜に掛置。右手茶筅を取り。碗へ入れ左手碗に添。茶筅三度とうして元座へ戻置。碗右手にて取り上。左手に受け三遍廻して。碗拭其巾碗へ入膝前に置茶巾出して釜蓋の上つまみに客付より爲持掛置。右手茶杓を取。左り手棗を取。膝前上に持居り。右手茶杓持ながら棗の蓋を取。左棗の胴は左膝上へ引休る。右棗の蓋は茶碗の右へ並へ圖の所に假置して。左手棗の胴は茶碗の上

第貳圖
其三



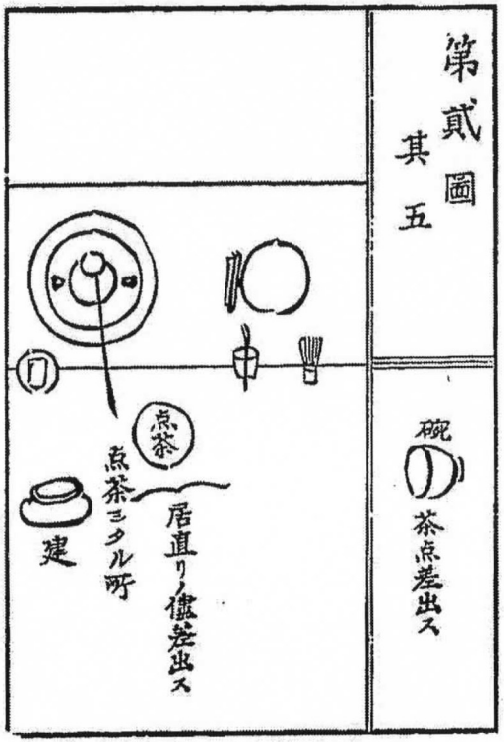
へ持出右手の茶杓は茶を汲。二杓目を汲上けるこ。左棗の胴は左膝上に一寸休め。右手汲上けたる茶は碗の中へ入る。茶杓にて茶をさばき。其杓碗の縁にて一寸打拂ひ。杓を持ながら棗の蓋を取る。左手は其胴を持出右の手と出合。棗の蓋をしめ其茶杓は右膝上へ引休。左手の棗元座へ戻す。右手の茶杓は手の内にて繰出して其蓋の上へ戻置○第貳圖其四の如く扨水指の蓋。右にて取り。筅の客付を通り。左に持替建水の上にて蓋横に竪て。蓋の雫を右手にてぬぐひ。其手に持替。碗に茶を汲み入る時は茶碗と棗の間を通り。水指の勝手付に立掛置。（蓋の表を客付へして）柄杓右にて取り。左手あしらひさばき右に持。水一杓

第貳圖
其四



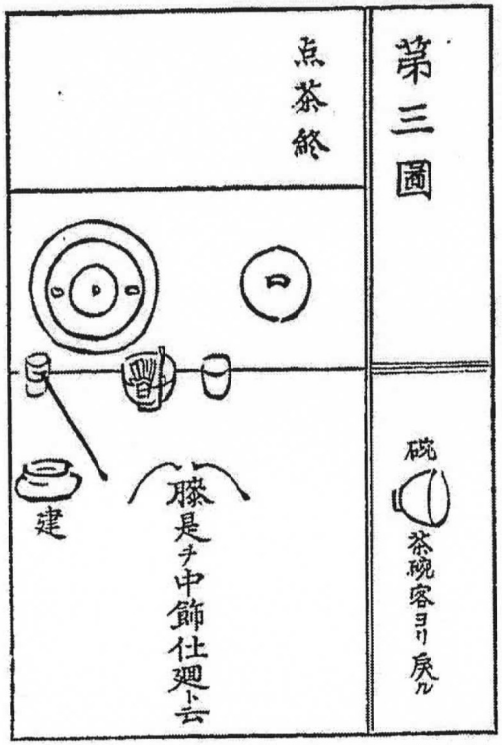
汲み釜へさし入。直に湯を汲み碗へよき程入れ。殘湯釜へ戻し入。其柄杓釜の上に乘せ置。其の柄に添て手を引（是れを引柄杓と云）柄杓取扱〇別記第四號にあり。直に其手茶筅を取り左手は茶碗に添。同時に茶を点て筅元座へ戻置。〇第貳圖其五の如し。茶碗右にて取り。左手に受て茶の色を見て。碗の手前を向へ廻して。身居直りの儘客へ差出〇第貳圖其五の如く上客は次客へ挨拶して。又主人へ一禮して身を進み。茶碗右手に取り膝前へ繰引し身を下り又茶碗引寄せ元座へ居直り。碗取左手に受ていたゞきて呑む。主

第貳圖
其五



は釜の火加減湯の加減により。釜へ水差入ること隨意なり。客茶呑終り其碗主人へ圖の所へ戻す。主人受取。碗呑口改め向へ廻して膝前に置。湯半杓汲入て碗湯いすきし。碗一度廻して其湯建水へ捨。茶巾取碗ふき上げ挽茶を入れ点茶すること前の通。再服より点茶の湯汲入る前に。釜へ水差加へる事無。初服点茶の時一度に限なり。幾服点るも作舞替る事なし。点茶終て茶碗すゝぎ。湯建水へ捨。客へ再服及御湯にても可進哉の挨拶をして。茶碗膝前に置一禮す扨右にて柄杓を取さばき。水一杓汲碗へ入。其柄杓釜上に置。右にて筅を取。左手碗に添筅水。すゝぎ三遍茶筅打貳度して直に元座へ戻し置。其手にて碗取上げ左手へ持替すゝぎ水建水へ捨。右手にて碗の雫をぬぐひ。直に其手に持替膝前にをろし置。茶巾右にて取碗へ入。茶筅取り碗へ入。茶杓取右膝に一寸休め。左手和巾を取。膝眞へ持出同時に右茶杓を持ながら出合和巾さばきて左手に受け。茶杓一度拭其杓伏せて碗に掛け。直に其碗右にて取左手へ移す。左手は和巾持ながら受取。風爐と水指の間眞割て左の方へ飾

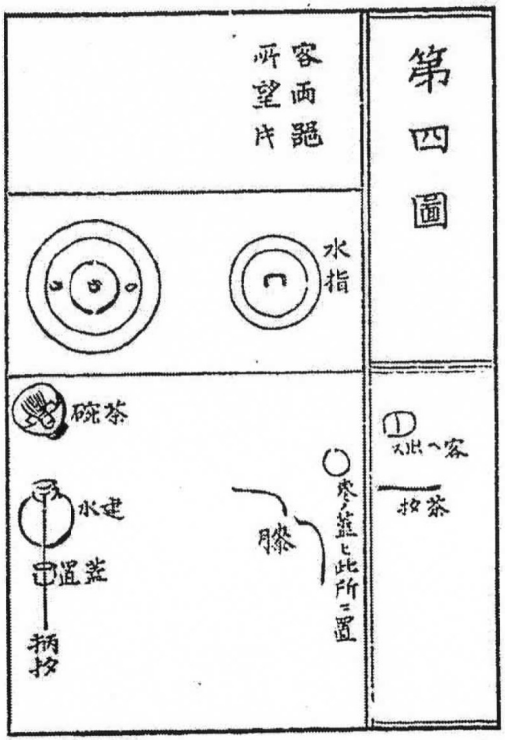
り置。右にて棗を取。碗の右の方へ飾り置合せ（是れを中飾仕廻ひと云ふ）左手の和巾建水の上へ持行。右手にて拂ひ膝の上にて和巾引分けさはきして腰に付る○第參圖の内に見ゆ。右にて柄杓取さはきて釜へ水三杓汲入。杓左へ持替釜の蓋右にて取。釜へしめ置（蓋少々向の方切置）柄杓右手へ戻して蓋置の上に圖の如く飾り置。水指の蓋右にて取左手あしらひ右手にてしめ置○第參圖の如し。客より両器見度旨所望すれは此所にて乞ふへし。末に記す。（但風爐にて点茶するに平点は始めに仕込碗と棗を置合せ飾る所は水



指と三つ飾にす○第壹圖の如く定法なり。又点茶終り。仕舞には茶碗と棗等飾り置所は風爐と水指の間。眞にして○第參圖の如く客付に茶器を飾り。勝手付に仕込碗を置。是れを中飾り仕舞と云ふ定法なり。然るに丸卓等小棚に至りては。最初棗と碗を持出棚前に居直り水指と三つ飾格好に置居。点茶の終り仕廻には棗碗とも始の如く棚前に飾り戻すか定法なり）扨右手にて柄杓取り。左りあしらひ杓の合を仰向て熟と持かため。左手にて蓋置取。右手の柄杓に持添。建水左に持たちて勝手へ入り。又出て右に棗左に碗持勝手へ入次に水指の腹へ右手左手と出し抱へ持ち。勝手付へ斜に寄せ置。右手にて水指取りたる跡の疊を拭。又右左と両手を出し水指持抱へ水屋へ入置。身茶道口敷内に居直り客へ挨拶するなり

一客より両器見度旨所望するなれは。○第參圖の如く主水指の蓋しめる時。客より御両器拜見致度と所望す。主諾して（第三圖を用ゆる）建水少々下け柄杓右にて取り左手あしらひ建水の上にて雫を切て。左手に持建水の上に柄

第四圖



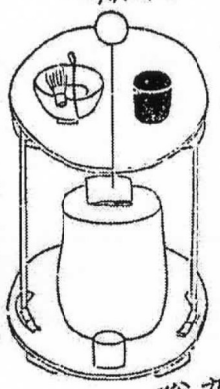
杓の合を伏て○第四圖の如く乘置。蓋置右にて取り左手へ持替。建水の後ろ柄杓の柄の下へ入れ置茶碗左手にて取右手へ持替建水の向に少々斜に置○第四圖の如く棗右手に取。左手に受。客の方へ少々廻て膝前に置。和巾左にて取。左手と出合。膝前にてさばき（しぼりさばき）右に持。棗左にて取り。蓋を二の字に拭て。其和巾右手に握り込みながら。棗の蓋取。返して裏を見て膝前に置。左手の棗の縁を。右手の和巾にてつまみ拭して其和巾は懐中へ入れ。其手にて蓋を取しめて右あしらひ左手に受て棗の手前を向へ廻て客へ差出し方小譯圖○別記第拾五號にあり（風爐は身を居直りの儘）左手にて茶杓を取り。其貝先を手前へ返し仰向にして右手へ取。客の方棗に置合して差出す○第四圖の如し。身を定座へ廻り戻。柄杓左にて取り右へ持替。蓋置左にて取り右手柄杓に持添。建水左に持勝手へ入。又出て身を中隅に茶碗に向ひて居直り。右にて取左りに受抱へ。勝手へ入又出て水指前に居直り。右手左手ご出水指の腹持抱へて勝手付へ斜に寄置。水指の跡疊を右手に二の文字にぬぐひ。又右手左手ご出し。水指持抱へて勝手へ入。建付柱に斜に向ひて居直り。膝前に水指を置。茶道口の戸をしめる。水指持行水屋を仕舞。客より両器の戻る頃を見計ひ。茶道口の戸を開き出て受取。若し両器未だ出さゝる時は茶道口内に居直り。客より差戻す迄相待受取持入る事

一風爐薄茶点鐵風爐に舗瓦を用ゆる事は勿論平点薄茶に藥罐を水指に代用するは不苦

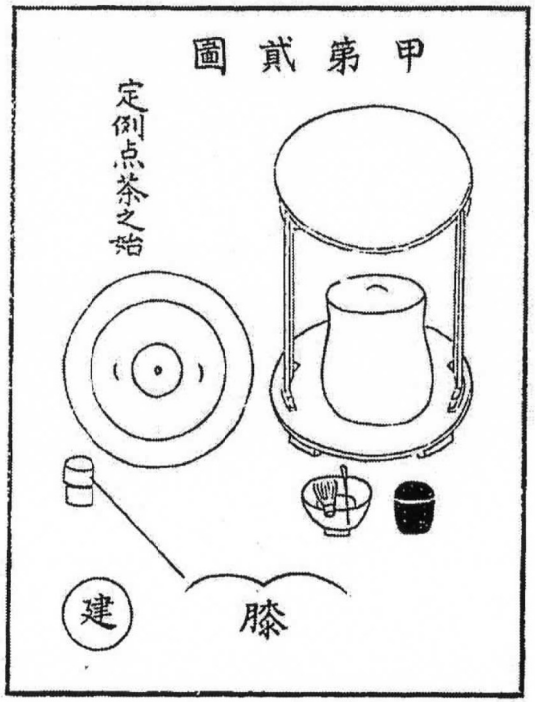
◉丸卓飾圖并風爐薄茶点之事

一丸卓飾りは。卓の天井客付に棗勝手付に茶碗（茶巾茶筅茶杓を仕込み）眞中に柄杓のかうを伏せ。天井の向へ少し出し。柄を眞直に引き飾り置く。地板の上に。水指を置き其前眞に蓋置を飾り。和巾は疊みて茶入の上に置く。水指塗蓋なれは。水指の上に圖の如く置（和巾杜に結付ても置なり）飾付取崩点茶の始め建水持出て。茶前に居直り。建水假置。身を棚前に寄り。和巾取り腰に下け。棗右にて取り。茶碗左りにとり。右の棗。水指の前客付に假置し。左碗勝手付に飾る。右手にて蓋置取り。碗の左りを通り左手に受け茶前へ戻り。其蓋置取り定座に置居。其手にて柄杓取り。左手あしらひ。蓋置に乘せ。柄を引き置く。客へ一禮して身を熟と居定め。建水定座へ直し置く○第貳圖の通。是れより先つ点茶。

甲第壹圖



甲第貳圖



定例法の如く。水指の蓋しめる迄の仕様常と替る事なし。此薄茶点定例法と云ふは○別記第拾貳號にあり水指の蓋取りたるときは○別記第六號の内第貳圖水指の勝手付腹へ立掛け置。又道具棚へ飾り戻し。仕舞にする時は。○別記第拾參號にあり。其の内。丸卓飾り戻しには。茶碗水すゝきして。水を拾碗の中能く茶巾にて拭上け。其巾しぼり。ふくだめて碗へ入れ

置事

一棚へ柄杓飾り戻し置くときは。柄杓湯返しするこゝ。此心得にて○第貳圖を用ひ。点茶定例法を以て。点茶終りて水指の蓋しめる○第參圖こなる。取崩点終るなり。扨此○第參圖を以て第壹圖の丸卓飾りに飾り戻す事

一丸卓飾に飾り戻は。柄杓を取り卓天井の上へ。杓のかうを。うつむけて上け。蓋置取り。左手へ移し受け。身を卓前へ向ひ。地板の上。水指の前に飾り置。右手にて棗を取り。左手に碗を取り。持ち揃へ。天井客付の方へ棗假置。碗勝手付へ飾置く。又棗取り碗ゝ飾り合せ置く。則ち○第壹圖の如くなる。建水持ち立て勝手に入る。片口持出。○別記第八號の如く。水指に居向ひ水をさし入る事

甲第參圖

此圖は現形第貳圖と同圖に付此參圖は前甲第貳圖を以乘用して見るなり

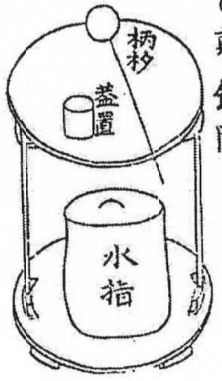
一片口能くしめして水を入。茶巾しぼりふくだめて。蓋の上に置。片口の手を左りに持ち。口の通りの底を。右手にかゝへ持ち出て水指の前に居向ひ。膝の左りに假置。丸卓四方棚の類二本柱の物故。其儘水を次くなり。水をさし仕廻ひ。片口を下に置さまに。口をかゝへたる水巾を。したよりすぐに上へぬぐふように上け露を取。片口の蓋の上へ戻し置。水指の蓋をしめ。片口勝手へ持ち入る（但し片口の替り藥鑵を代用するときは。卓より水指をおろして。疊の上に置き水をさし入るなり）

◉丸卓杓蓋置貳つ飾風爐薄茶点の事

一丸卓に杓蓋置二つ飾りは。卓天井向ふの眞中に柄杓のこうを仰むけて。柄を右の方へ斜に引置き。蓋置を圖の所に置き。地板の上に。水指を置。点茶の始め。棗右手に持仕込碗左りに持ち出て。卓前に居向ひ。水指の前右の方に棗假置。左りの方に。茶碗飾り置。右手にて棗取り。碗ゝ置合せ。三つ飾

にす。卓上の蓋置を取り膝前に假置柄杓右にて取り蓋置持ち添へ。勝手へ入りすぐに建水に仕込み持出茶前に居直り。建水假座に置く。○第壹圖の如く左の手にて柄杓を取り。右手あしらひ左りに持。蓋置右手に取り。定座に置。其手にて。直に杓を取り。左手あしらひ。右に持ち蓋置の上に乘せ。柄を引置てから。客へ一禮して身を熟と居定め。建水定座へ直し（二つ飾り取崩すみ）前丸卓飾の○第貳圖と同し。是れより先き薄茶点定例仕樣○別記第拾貳號の通り。常と替ることなし。但し總て棚へ飾り戻す柄杓は湯返しのこと。点茶終り。水指の蓋しめ。則ち○第三圖となる（丸卓飾り第三圖と同し）右手にて柄杓を取り。左手あしらひ。右に持卓天井の上へ上げ。其手にて蓋置をとり。左手に受け。身棚前へ寄り○第壹圖の如く。上げ置。

乙第壹圖

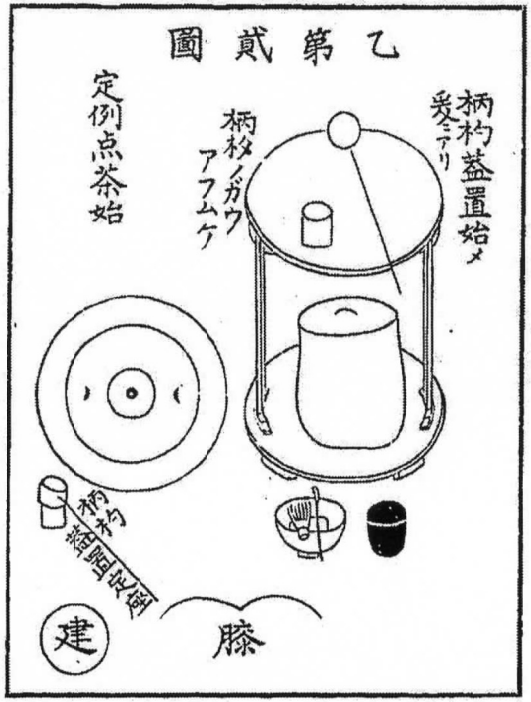


乙貳ツ飾圖

身茶前へ戻り建水を持。勝手へ入。次に右手に棗を取り。左手に仕込碗を持ち入る。水指へ水を差入る事は○別記第八號の通り。左手にて片口の手を持ち右手にて水巾を持ちながら。片口をかゝへ水をさし仕廻。片口を下に置さまに。口をかゝへたる水巾を。したよりすぐに。上へぬぐふやうに上げ。露を取。片口の蓋の上へ戻し置。水指の蓋をしめて。片口勝手へ持入る。再ひ茶道口に出挨拶するなり。但道具所望に依り。客へ差出しある時は。片口勝手へ持ち入る時。襖閉置再ひ茶道口の襖

乙第貳圖

定例点茶始



乙第參圖

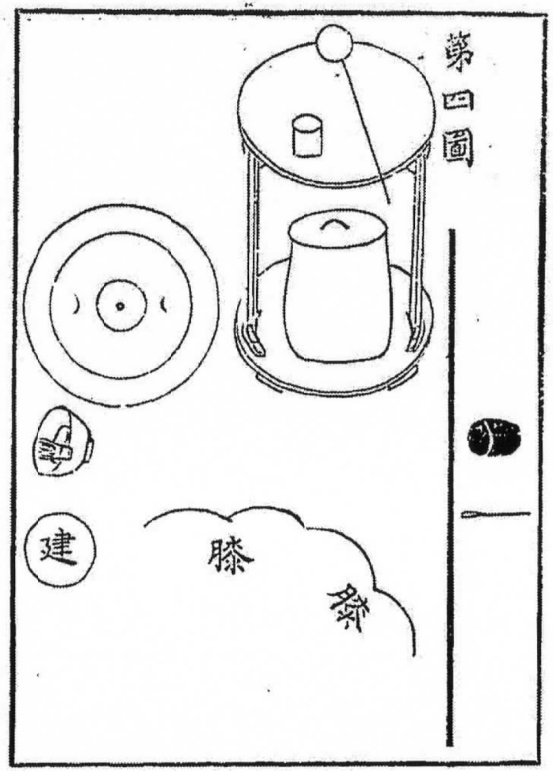
此圖は現形乙第貳圖と同圖に付前乙第貳圖を以兼用して見るなり

を引明け出て道具受取持入る。又出て挨拶するなり

両器所望により差出す事

一点茶終り。水指の蓋しめるとき両器所望あれば。諾して建水少々跡へ引。柄杓取り卓天井へ上げ。蓋置も○第四圖の如く上げ。茶碗左りにて取り。右に持ち替へ。建水の向に。少々斜にして置き。褁右にて取り。左りに受け。客の方へ廻り。膝前に置き和巾取り。しぼりさばき。右に持褁左手に取り。蓋を二の字に拭ひて。其和巾右に。握り込みながら。褁の蓋取返して。裏も見て○第四圖の通り膝前に置き。左手の褁の縁を。右手の和巾にてつまみ拭て其和巾は懐中へ入れ。其手にて蓋を取り。褁にしめ。あしらひ。左手に受け。褁の手前を向へ廻して客の方。圖の所へ差出し。左手にて茶杓を取り。其貝先を。手前へ返し。仰向にして右手へ取り。客の方。褁に並へ置て差出す○第四圖の如し。身を卓前へ戻り。建水左りに持ち勝手へ入る。又出て身を中隅に居向。茶碗右にて取り左りに受け抱へ。勝手へ入る。片口持出て。水指へ水を差入ること。定例の通。

第四圖

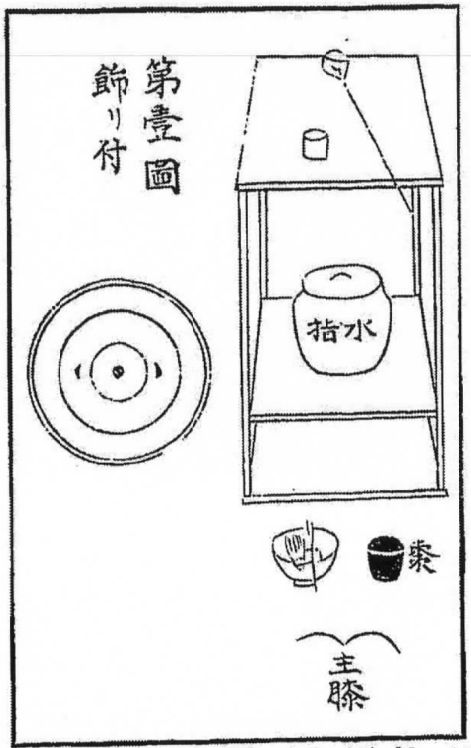


片口持入る。茶道口しめ。客より両器戻れは。受取勝手へ持入る

◉桐小卓杓蓋置飾附風爐薄茶点の事

但茶碗棚へ上る時点仕廻に碗ふき上けて飾るなり

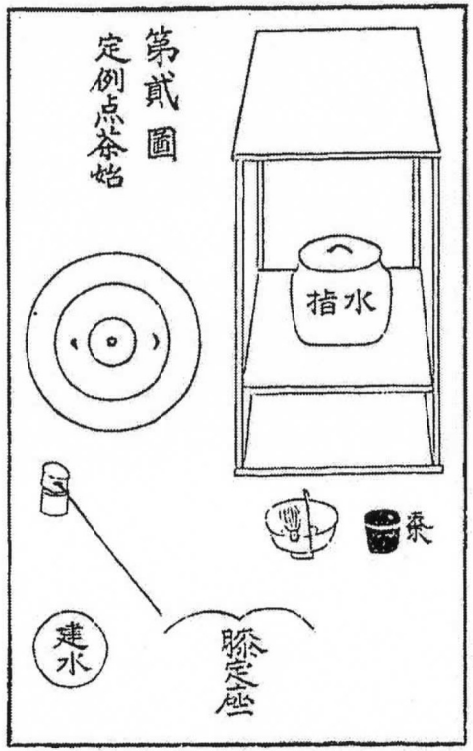
最初棚天井に柄杓蓋置中棚に水指飾り如圖あり。始め棗こ仕込碗持出。卓前に居直り。水指こ三つ飾恰好に置。第壹圖の如。



第壹圖
飾り付

卓の上の蓋置右にて取り左に受。又右にて膝前に置。柄杓右にて取り。其手へ蓋置左にて取り。持添させ。勝手へ持ち入り。清め建水に仕込持出。茶前に居直り。建水假置。

右にて蓋置取。左手あしらひ。右にて其蓋置を定座に置。柄杓取り蓋置の上に乘せ。柄を引置き客へ一禮して建水置直。身を備へ。第貳圖のごとく。是より点茶仕様常之通替る事なし



第貳圖
定例点茶始

一水指の蓋取時は。右手にて取茶筅の右客付を通り。左手あしらひ。右に持。勝手附より卓前柱に表を客付にして爲持懸置。仕廻に蓋しめる時は。右手に取。左手あしらひ。右に持棗の客付を通りてしめ置。又棚に飾る。柄杓は湯返しをするなり

○点茶終りて杓蓋置貳つ飾に莊戻之事

但し点茶終りたる圖は第三圖なり

一さて柄杓を右手にて取。卓天井へ上げ。亦蓋置もとり第壹圖の如く上げ置。建水持勝手へ入。亦出卓前に居直り。棄右に取。茶碗左手に持。勝手へ入り。片口持出。卓前に居向ひ。水指両手に抱へ引出し片口にて水をさし水指戻入る事定例の如し。

定例点茶終り

一第三圖

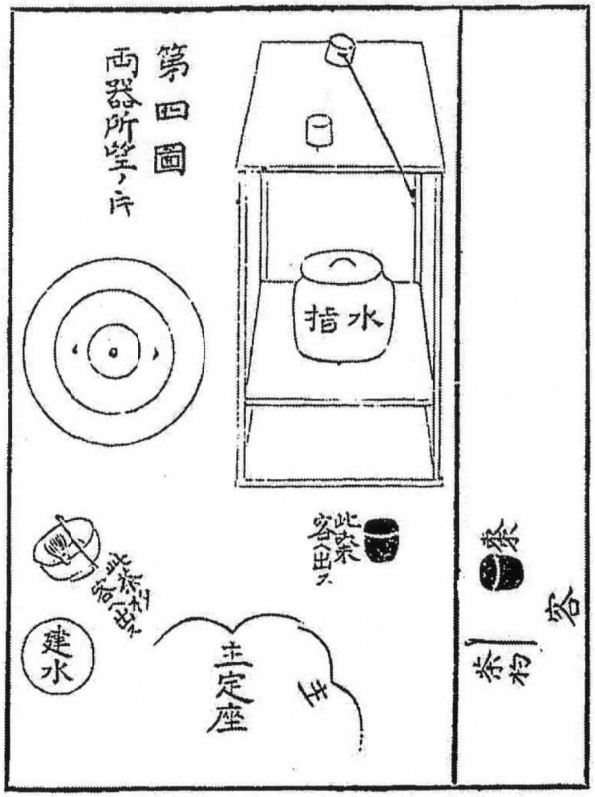
但此圖は現形第貳圖と同圖に付乗用して前貳圖見るなり

片口持勝手へ入（茶道口明切）杓蓋置貳つ莊りに成る

○客より両器棄こ茶杓所望之事

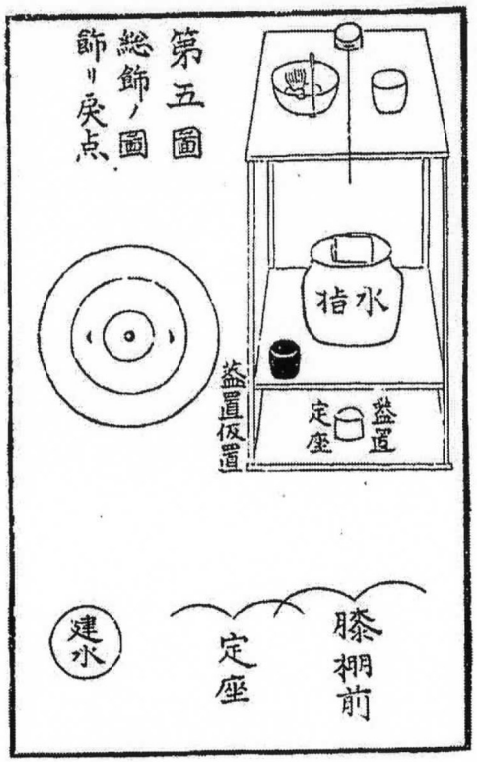
但両器拝見の後杓蓋置貳つ飾に飾戻の習

一点茶終り釜へ水三杓汲入。柄杓湯返して釜の蓋しめ。水指の蓋をしめる時客より所望あるべし。されは建水少々後へ下け。柄杓取。（第四圖の内）卓天井へ上け。蓋置も右にて取。左手あしらひ。右手にて上け飾る（第四圖の内）仕込茶碗左にて取。右へ持替。建水の向に手なりに假置して棄右にて取。左手に受け。客に向ひ追振の通。両器差出し置。身を定座へ戻る。第四圖の如し。建水持入。茶碗も持入。片口持出水指へ水をさし入るを追例の通。客より両器戻れは受取持入。扨風爐にても客へ道具差出し有時は水指へ水を差添。片口持入たる跡。茶道口を壹度しめる。其後は明捨る棚は杓蓋置貳つ飾に莊戻しと成る



第四圖
両器所望ノ序

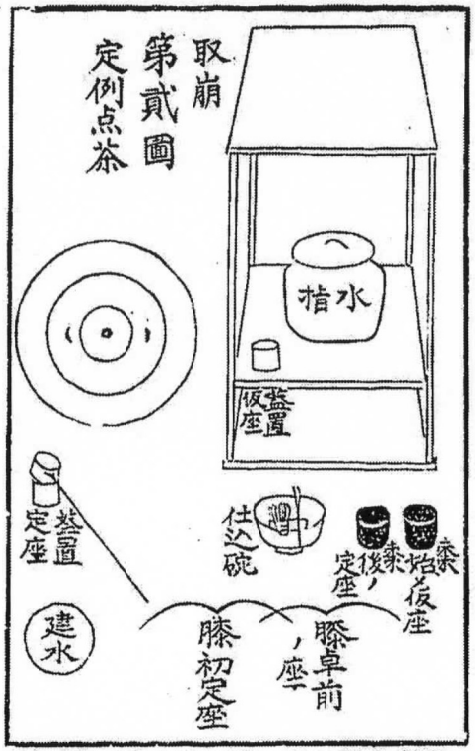
○点茶終りて總飾に莊り戻之事



一扨定例点茶の終り第五圖を用ひ。柄杓取。卓天井圖の所に上げ。蓋置を取。左手あしらひ。右にて中棚。圖の所へ假置し。右に棄取。左にて碗取持。卓天井右の方に棄假置。左にて。碗上に飾り。右手にて棄取。碗と並へ。飾り合。第五圖の通り。蓋置取て地板の眞中へ入置。身を定座へ寄戻り。建水持勝手へ入。片口持出

棚前に向ひ。水指引出。其蓋は勝手附卓前柱に外より立掛置。定例之通。水指へ水指入。和巾は水指の蓋の上に乘置。片口持勝手へ入（茶道口は道具出あらざる時は明け切）亦出て挨拶如常

◉桐小卓總飾風爐左勝手薄茶点の事



一桐小卓總飾の圖は前記第五圖を乘用す

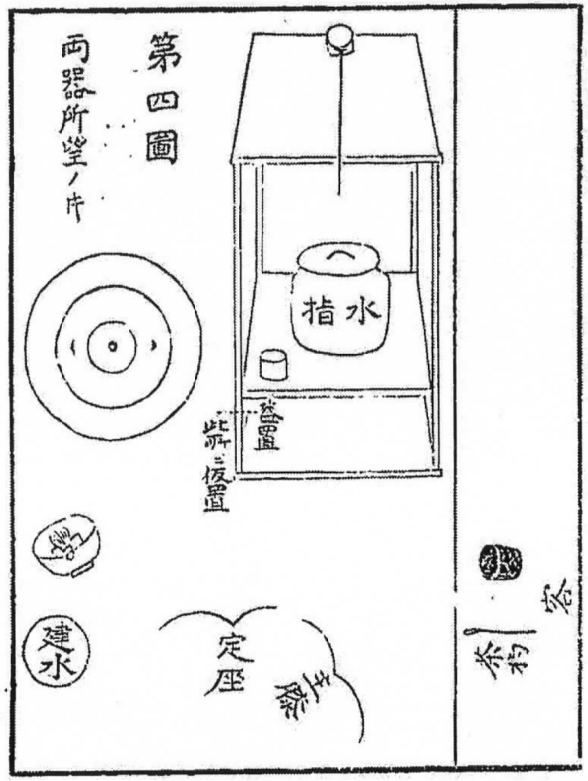
始建水持出。茶前に居直り。建水假置して卓前に寄り。和巾取。腰にさけ。右にて蓋置取り。中棚勝手附前柱と水指の間に假置。如圖棄右にて取。碗左にて取る。卓前右の方

に裏假置し。碗圖の所に飾り置。裏右にて取。碗と飾り合。水指と三つ飾恰好に置く。蓋置右にて取り。茶碗の左を通りて左手に受け。身定座へ寄。其蓋置の定座へ置居。柄杓右にて取。左手あしらい。蓋置の上に載せ。其柄を引て客に一禮す。第貳圖のごとし是より点茶の仕様。常ご替る事なし。（但水指蓋取。亦しめるは前に記）○亦点茶終りて水指の蓋しめる時客より両器所望あり（此度は再度に付。両器拝見の後）惣飾に並り戻し仕廻ひの習ひ（但總飾に並り戻すときは点茶の末。茶碗水すゝぎのとき碗ふき上げて茶巾しぼりふくため置事なり）一扨定例点茶終り。第三圖ご引續。建水後しろへ引下け。柄杓右にて取。左手あしらひ卓天井の眞中に柄を眞直に引置蓋置を取。中棚勝手附前柱ご水指

第三圖

此圖は原形第貳圖と同圖に付
乘用して前第貳圖を見るべし

この間に假置し。茶碗左にて取。右手へ持替。其手にて建水の向に假置し。裏を取。左手に受けながら客の方へ向ひ追振之通。和巾にてふき清め。客へ差出し。茶杓も取。差出置。第四圖如。身を定座へ戻。茶碗を右にて取。左手へ持替。天井勝手附へ上け。右にて柄杓の柄の先を右へ寄。其手にて建水持入。すぐ片口蓋置を取。地板の眞中前の方へ入置。第四圖其二の如。

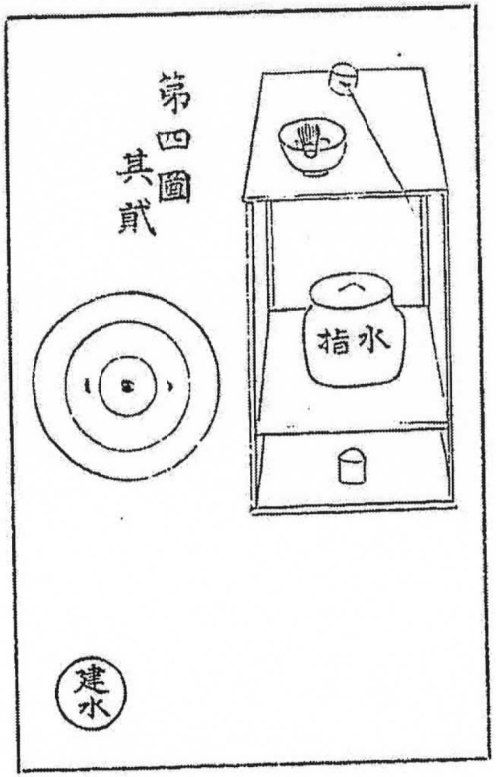


第四圖

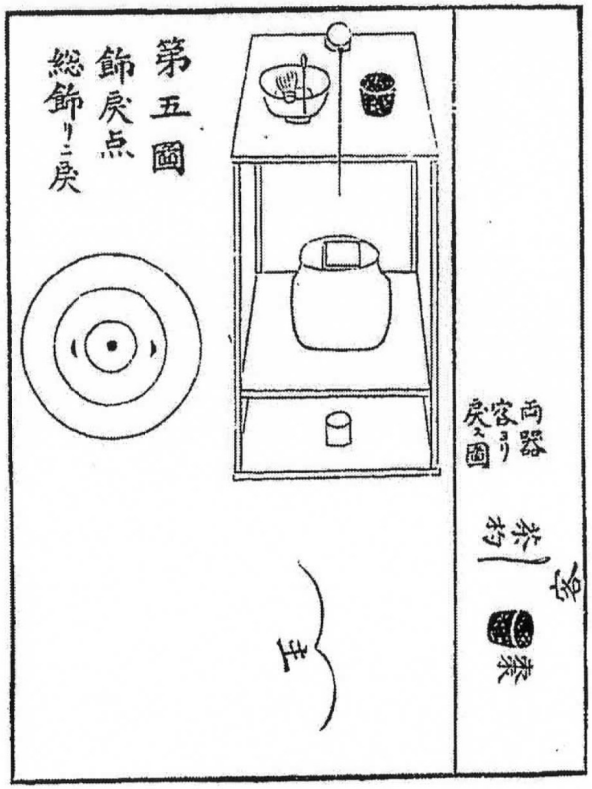
両器所望ノ片

持出。卓に向ひ居直り。水指少々引出片口より水を差加へる事。追振之通。片口持入。（客へ道具見せる時は。風爐にても茶道口さす。道具戻り持入たれは茶道口の戸明捨。）茶道口しめる。客より両器戻る頃を見計ひ。茶道口明け。主出て受取。棚前へ向ひ。茶杓は膝前眞に置。蓋は右膝前に假置。天井柄杓の柄先を眞直に引置。蓋を取。天井右の方へ飾り。茶杓を右手に取。持ながら左手和巾さばきて。茶杓碗の上に載置。和巾さばき改て水指蓋の上に乗せ置。第五圖の如し。總飾りに戻る

第四圖
其貳



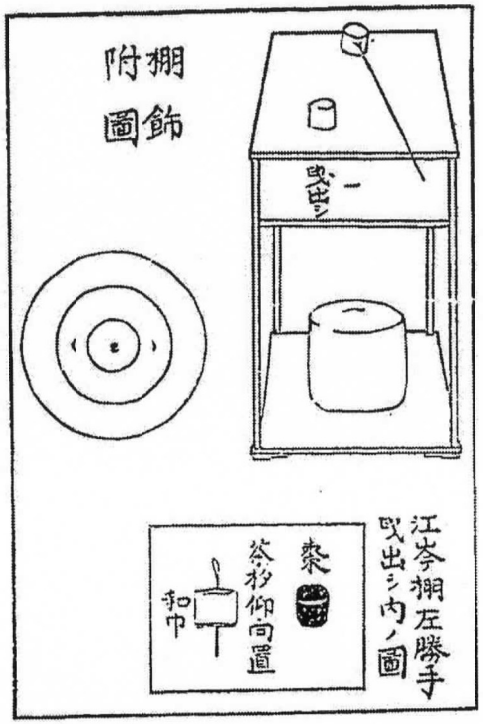
第五圖
飾戻点
総飾リニ戻



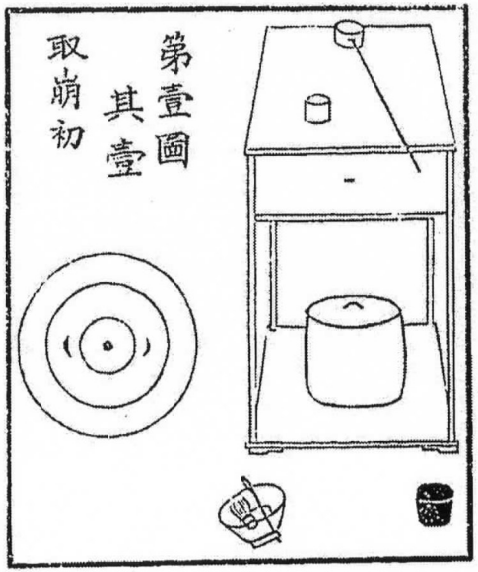
◎江岑棚風爐左勝手薄茶点事

一此棚は天井に柄杓蓋置引出し。其内に棗茶杓和巾を入置。（右の方に棗左の

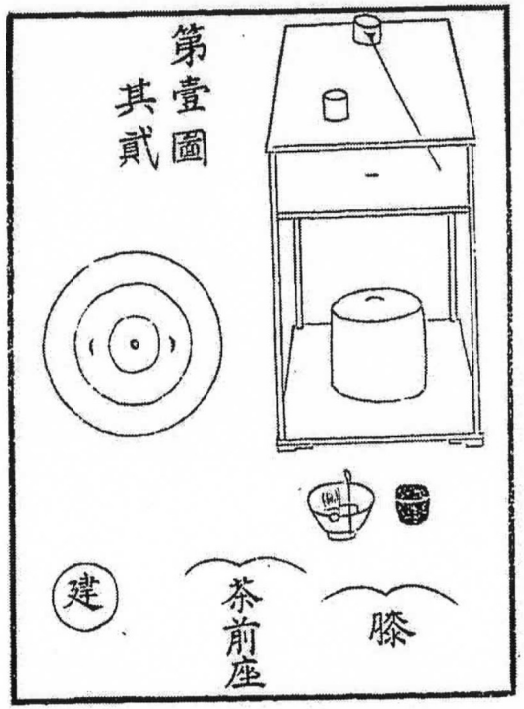
方に茶杓其上に和巾置）圖如地板に水指置く
一如圖飾附。最初仕込碗右手にて持ち左手に受て。（茶杓はなし）棚前に居向
ひ。碗右に持。手なり
に膝先勝手の方に假置
棚の曳出を右手にて引
出し（三分の弐位ひ）
和巾右手にて取。左手
に持替。腰に下げ。棗
右にて取。棚前に假置
し。茶杓右にて取。左
手あしらひ。杓を伏て
碗に懸。曳出しを右手
にて元へ押戻す。第壹圖如く假置の碗右手にて取。左手へ持替。水指前眞割

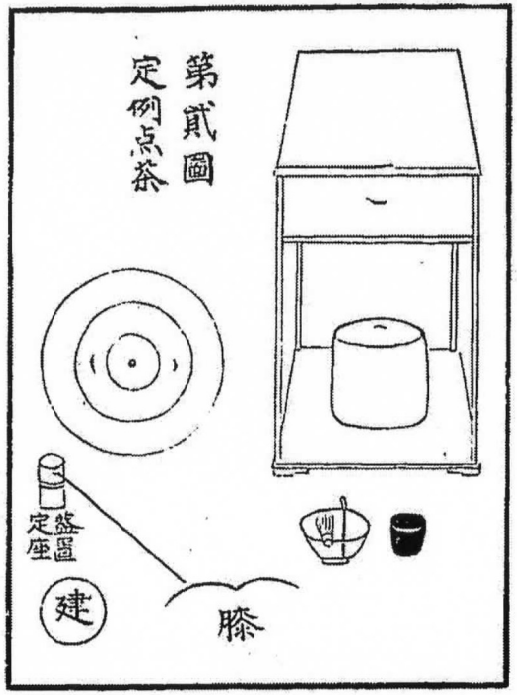


て左の方に置。棗右手に取。茶碗と置合せ。水指と三つ飾りにして。身を勝
手へ入。建水持出勝手口明切。茶前に居直。建水假置。第壹圖其弐の如。右
にて蓋置を取。左手あしらひ。右手
にて蓋置を定座に置。柄杓右にて取
蓋置の上に乘。柄を引置。第弐圖の
如し。客一同へ一禮して建水定座へ
直す。是より後。点茶定例の通替る
てなし。追々点茶終り。釜へ水三杓
汲入。直に柄杓湯返して。釜の蓋し
め。柄杓蓋置へ乘置。水指の蓋しめ
る。第參圖の如し。
此時客より道具見度旨所望あれは諾
して差出す。（作廻は後〇印の所に記）拠柄杓を右の手に取。其手にて棚天井



に如圖飾。蓋置右手に取。左手あしらひ。天井へ（三つ割竪横の割）右手にて飾置。建水持勝手へ入。又出て棚に居向ひ。茶碗左にて取。右へ持替。膝先勝手付へ手なりに假置し。棚の引出しを（三分の貳位ひ）右手にて曳出し。其手にて棗を取。左手あしらひ。右手にて曳出しの内。客付へ入其手にて茶杓取杓仰向けて曳出しの内。勝手付へ左手にて入。棗ご置合。和巾取さはきて茶杓の上に右手にて乗置。（若道具客へ見せ差出し有る時は。和巾は腰に下げ置。道具戻たる時共に曳出しへ入る。曳出しを押戻。第參圖其貳如。仕込碗右手に取。左手に受け。右にて抱へ勝手へ入。片口持出棚前に居向ひ水指出し水を水指へさし入る事定例の如く

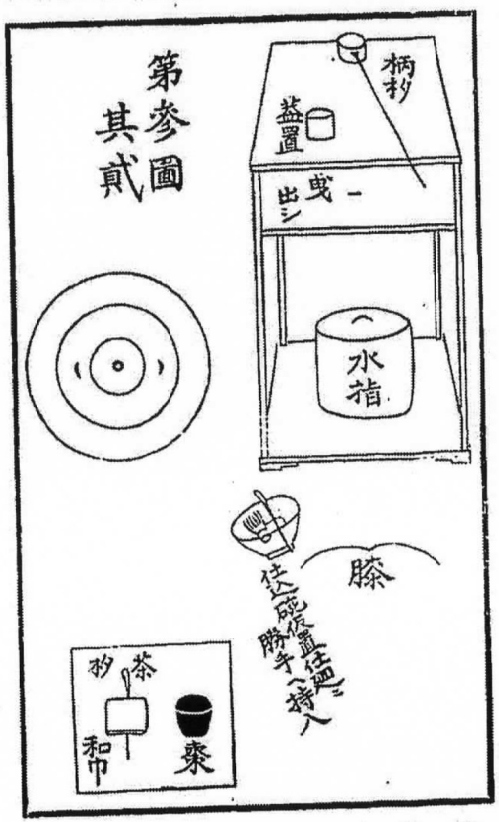




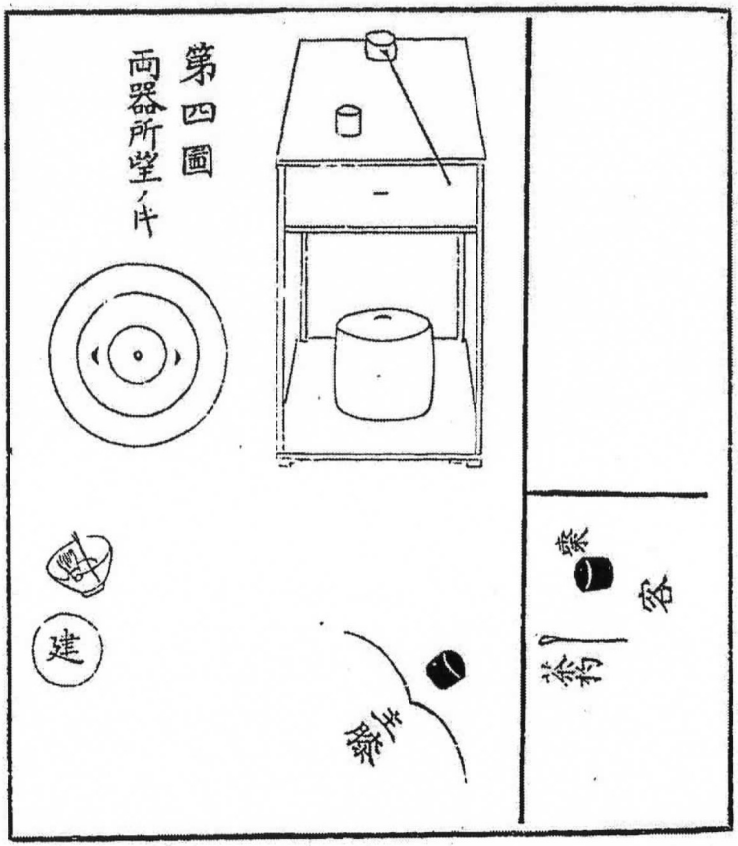
一第參圖
点茶終

此圖は前第貳圖と同圖に付略して右圖を乘用して見る

前記○印に續く　御両器拜見は第參圖より起る



一客より両器見皮旨所望ある時は一禮を受け。建水左手にて少々後へ下げ。柄杓右手に取。棚の天井へ上げ。蓋置も右手にて天井に飾。如圖茶碗左にて取り。右手へ持替。建水の向へ手なりに假置。棗和巾さばき棗取。拭右手に取左手に受け。客前へ廻り。膝前に置定例の通。上げ。客へ差出又茶杓も取り差出。第四圖如。身茶前へ寄戻り。建水左に持。



勝手へ入。亦出て斜に居向。茶碗取持。左手に受。勝手へ入。片口持出。棚前に居向。片口膝左脇に置。水指を客付勝手付と両手にて抱へ前へ引出し（片口の水つき入るに能程に引出置）水指の蓋右手にて取。左に持替。勝手附棚前柱

に外より立懸置。片口取り。水巾持添。両手にて水指へ水差入。水指の蓋もしめて水指元座へ押入。片口持入。茶道口しめる（風爐にても客へ両器見せ差出し有時は。茶道口しめ切）客より両器戻る頃を見計ひ。茶道口の戸を開き出て。両器受取客一同より時宜あれは是を受。尋あれは答へし始め棗より右手に取。左りへ移し受け。茶杓右手に取り。持なから棚前に寄り向ひ。茶杓膝眞前に置。棗右膝前に置。棚曳出しを引出し。棗右手にて取。左手あしらひ。右にて曳出しの内客付へ入。其手にて茶杓を取。左手へ持替。曳引の内勝手付へ杓をあを向けて左手にて入。和巾さはき改て。茶杓の上に右手にて載せ入れ。曳出しを元の通しめ。始め飾り付圖面之通りになる

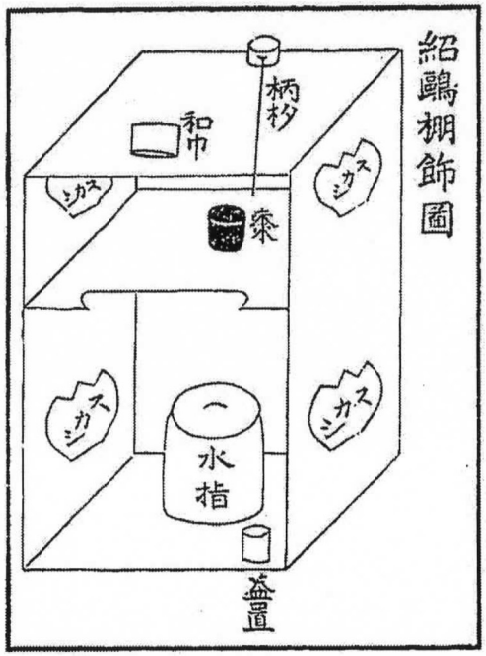
◉紹鷗棚風爐薄茶点

但爐風爐に用ふ俗に紹鷗水指棚共言ふ
此棚は点茶惣飾はなし

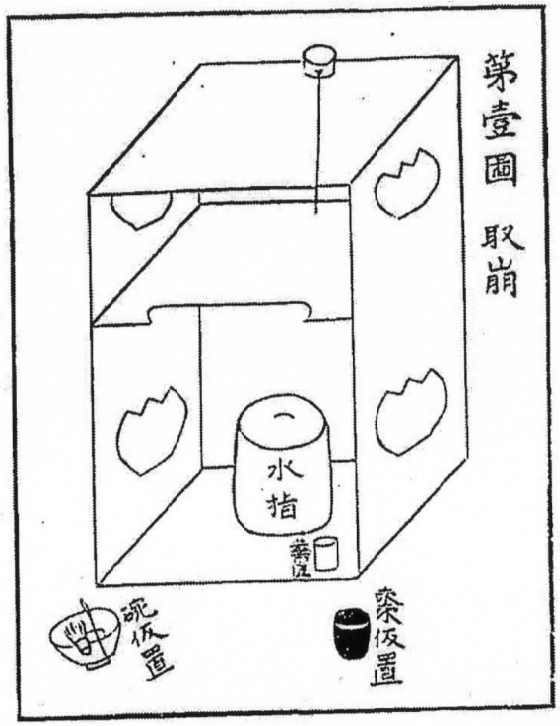
一此棚は天井に柄杓と和巾中棚に棗地板水指と蓋置

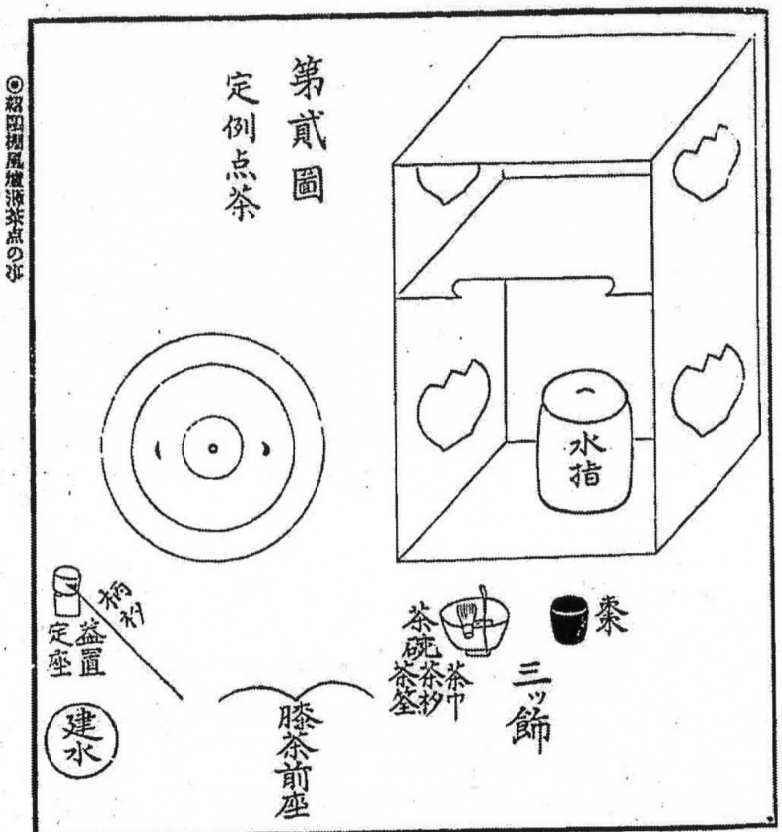
一紹鷗棚風爐薄茶点。最初茶碗持出棚前に居直り。茶碗右手に持。左膝先に手なりに假置。天井に有る和巾右手にて取。腰に下け。棗取り。右膝先に假置し。〇第壹圖如。其手にて碗を取。左手へ移。水指前眞割て左の方疊の上に置。棗右にて取。水指と三つ飾に置合。棚の蓋置取り。膝前に置き。柄杓右にて取り。左手あしらひ。右に持ち。蓋置左に取り。右に持ち添ゐ。身勝手へ入り。柄杓蓋置清めて。建水ゐ仕込持出。勝手口明切。茶

紹鷗棚飾圖



前に居直り建水假置。左手にて柄杓取り。右手にて蓋置取り。定座に置き。右手にて柄杓取。其上に乗。柄を引置。客へ一禮す○第貳圖の如し。是より。薄茶点定例の如く。水指の蓋は取扱。○別記第六號の内第六圖の如し点茶仕廻ひ。釜へ水三杓汲入。直く其杓湯返して釜の蓋しめ。柄杓を蓋置の上に乗せ。水指の蓋しめる（客両器見るなれは此時主へ所望するなり）○第三圖其貳の如。柄杓取棚天井の上眞中に置。柄



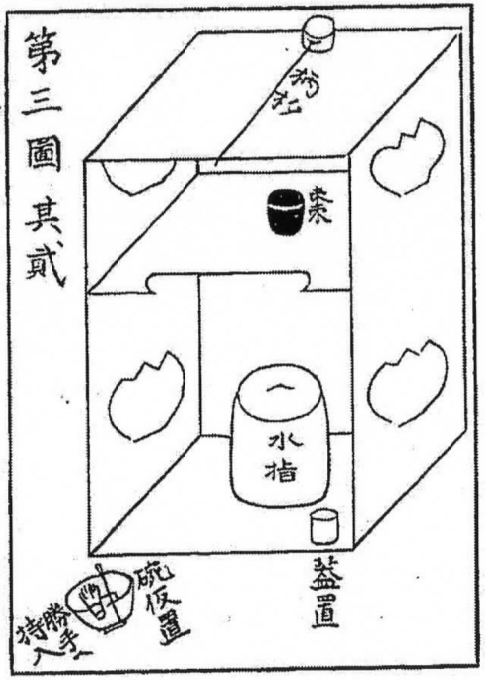


を眞直に引置き。蓋置を取。地板の上。右の方手前に置居。建水持勝手へ入。亦出て棚前に居直り。茶碗を左にて取。右手へ持替。左膝前に手なりに假置。棗を取り。棚中段に壹つ飾置○第三圖其二の如。茶碗持勝手へ入。片口持出

右にて蓋置取。棚前右の方疊の上に假置し。水指右左両手に抱へ。地板の少々外へ引出し。水指の蓋右手にて取。左手へ持替蓋。四分通り前へ出し。棚

第三圖
点茶の終

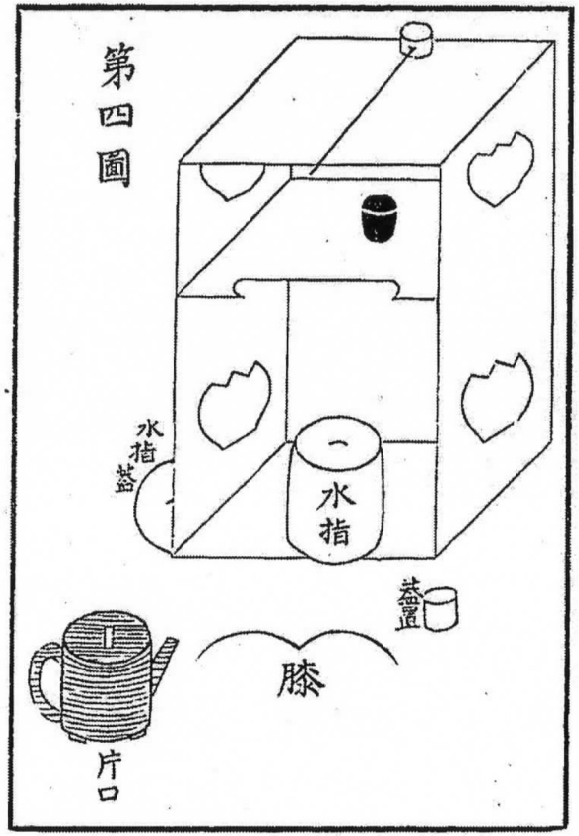
此圖は前第貳圖と同圖に付是を略して右貳圖を兼用して見るべし



勝手付外疊の上ゟ〇第四圖の如く棚へ持たせかけ置き。片口にて水指へ水さし入。水指の蓋しめ元の座へ押戻。蓋置取第壹圖の如く。地板の右の所へ上置。腰の和巾を取さはきて左手に持。右手にて天井に飾有る柄杓の柄を右の方へ四分の一寄せ和巾飾付の圖の如く右手にて上置。片口持勝手へ入。棚の飾りは飾付の圖之通。

客より両器所望の時取扱之事

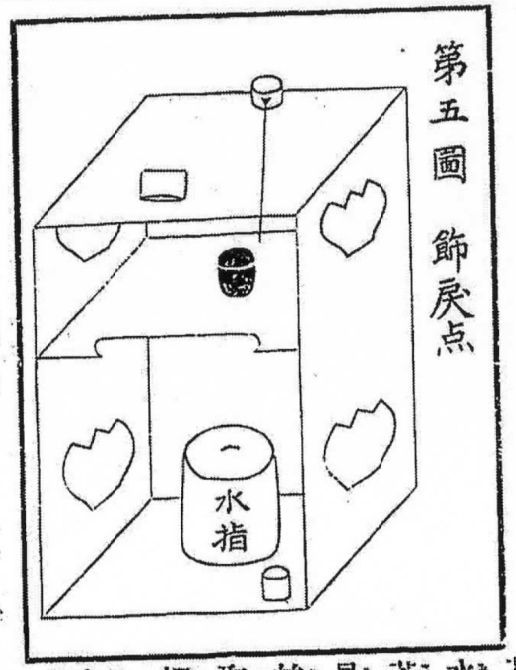
一前記点茶中客より道具見度旨所望あれは主諾して定めの如く。建水少々後へ下け。柄杓取前記の通。棚天井へ假置し。蓋置も地



置。

板の上客付前に置。左にて茶碗取。右手へ持替。建水の向へ假置し。棗取左手に受。客前へ廻り。追振の通棗茶杓差出置き。身棚前へ戻り寄。建水持入茶碗持入片口持出。前記の通。水を差加へ。片口持勝手へ入。茶道口しめる。扨両器の戻る頃見計ひ。茶道口開き出。客より挨拶あれは。これを受て。棗を取左りに受け。茶杓右手に持。棚前へ寄向ひ。茶杓膝前左の方に手なりに假置して棗右の手に取持。中棚に壹つ飾りに置。膝の和巾を取さはき。左手に持。右手にて天井の柄杓の柄先を四分の一右へ寄（杓の合は棚の向眞中にあり其柄先を棚の前四分の一を右へ寄る）置。○第五圖の如し茶杓を持勝手へ入なり

第五圖　飾戻点



㉓風爐左勝手炭手前之事

但四疊半大目点て向点て座鋪にても同し

一炭斗に炭仕組入組合左之通

炭　枝炭　火箸　鍬　釜鋪（但懐中紙釜鋪を用ゐるときは除く）

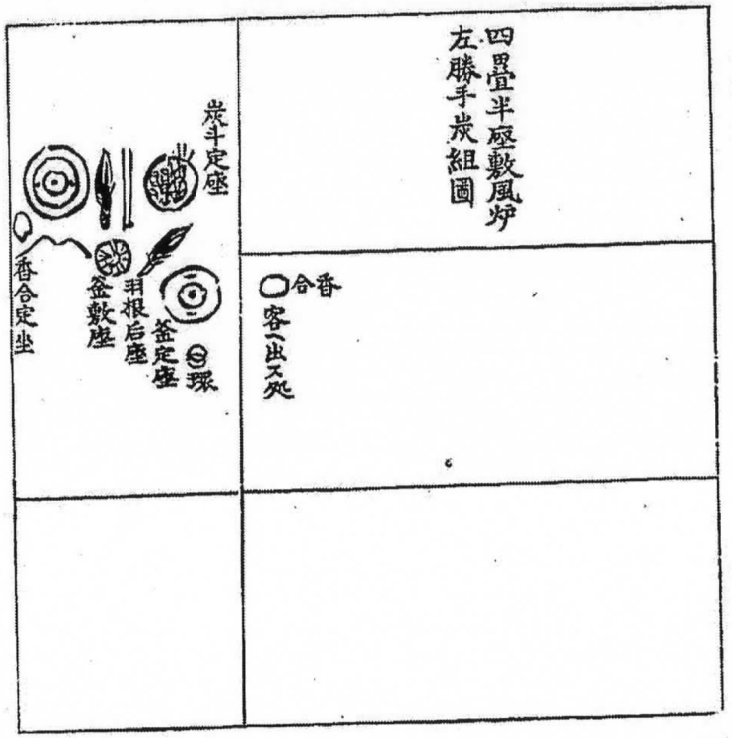
羽根　香合（都て棚に飾り有ときは不組入）炭斗に炭多くは悪し一度に用る程入れるかよし且濃茶懐石等之節は延時するに付炭澤山胴炭も組込心得有るて

一四疊半座鋪疊は如圖鋪なり（大目点て向点てともに用る）

但此圖は○別記第拾五號に有り

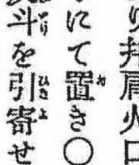
一扨炭斗を持出定座に置。風爐前へ寄。居直り釜の蓋を右手にてしめ。其手

四畳半壓敷風炉
左勝手炭組圖



にて○風爐の鐶客付より おろし。左手にて勝手付 もおろし。○三つ羽右手 に取。風爐と炭斗の間に 置。右手○鐶を取。左手 へ移し持ち。膝先に休め （但平炭斗なれは其儘鐶 は入置（○火箸右手に取 り。三つ羽と炭斗の間に 置き（但平炭斗は火箸不 出其儘入置）○鐶両手に 分け持ち。釜に右左と掛 け○釜鋪を右手にて取出

し。左手あしらひ右手にて右膝先に置き○釜を右手左手と持上けなから身を 廻り。釜鋪の上に置（但女子は釜鋪の上へ釜を乗てから身を廻る）○釜鋪の 上へ載か不載かを。客付より見て釜上け置直し。右手左手と出し持ち定座へ 引移し置き。○釜に向ひ鐶を客付より右左とはづし合せて釜の客付へ右手に て置く（但鐶の切目を手前へして置也○風爐に向香合右手にて取出し。左あ しらひ定座へ右手にて移し置き。○三つ羽を右手に取り。風爐のこしき客付 より并肩火口等も掃き。（弊幣記に見ゆ）終りて。釜と炭斗の間に手なりに右 手にて置き○火箸を右手にて取。下火を直し其火箸左手へ移し持。右手にて 炭斗を引寄せる（但女子は火箸を炭斗へ入て両手に抱持寄せる）○火箸右手 へ取持炭組をする。終りて火箸炭斗へ戻入炭斗も定座へ其手にて戻す○三つ 羽右手に取。風爐の客付よりこしき并肩火口等掃（但五徳居なれは爪も如圖 拂ふなり）



掃終りて風爐と炭斗の間に其手にて置きて○身を少し下 り右手香合を取左手に受け蓋を取膝の前に置き香を焚く此時客香

合を所望あれは〇身を廻り。釜の向へ右手にて差出す所望なき時は。炭斗へ右手にて戻入て。身を廻り釜に向ひ鍛を右手に取。右左りと釜に掛け風爐際へ寄。身を風爐に向ひ。釜客付の鍛より右左りと持上げ掛け置て。直に釜舗を右手にて取り。左あしらひ右手にて炭斗へ戻入。釜を眞直にして鍛を右左こはづし合せて右手にて炭斗の火箸へ掛る（但平炭斗は鍛を炭斗へ入る）身を下りて。三つ羽右手に取炭斗へ戻入。其手にて風爐の鍛を右左こあけて。身を炭斗の方へ寄向ひ持取勝手へ入直に座箒を持出。座を掃込みて茶道口の内に居直り。座箒を膝前に一文字に置き襖をしめる。拠水屋を作りてから茶道口を明け三つ羽を持出風爐に向ひ直りて釜の蓋を拂ひ口蓋を切此際客へ香合見せあれは戻し有に付羽根持なから香合の方へ寄受取。客より挨拶あれば是を受て勝手へ持入。客より香合戻無之時は羽根持入。再受取に出て。香合左手に受て。右手を添持勝手へ入。

是より点茶する事なり

但唐金蓋は和巾共蓋は羽根にて釜の蓋を拂ふ又唐金蓋は羽根にて拂も不苦

◉風爐右勝手薄茶点の圖幷に点茶仕様之事

但茶入の蓋何に不限碗の前に置事は右勝手計り也

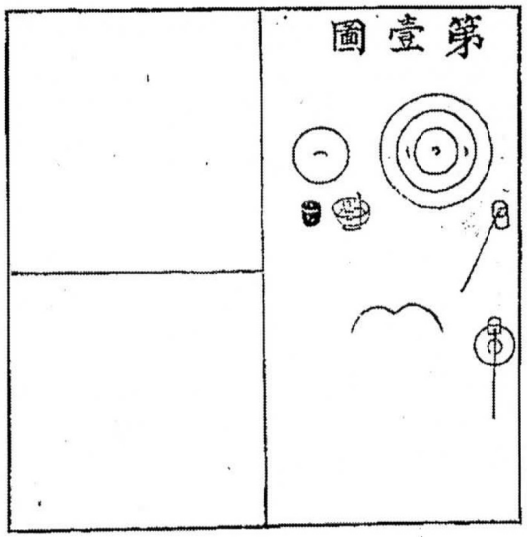
一点茶して碗出し置所正客

一和巾は右の腰にはさむ

一仕廻の飾り付は左勝手とは違ひ水指前へ飾り戻すなり

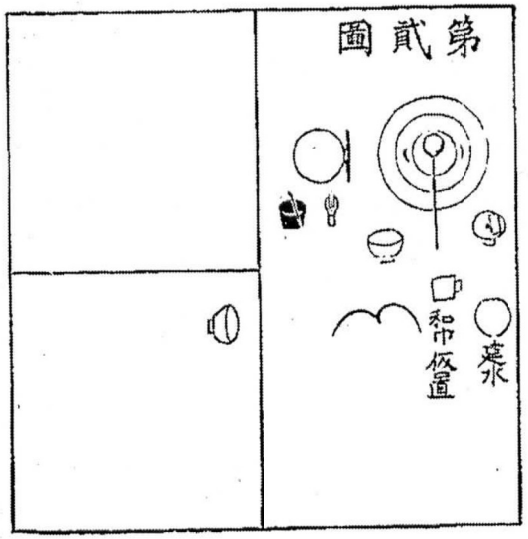
一風爐右勝手薄茶点。初に水指持出風爐客付眞に置。次に棗右に持仕込碗左に持。水指の前に居直り棗は水指の前客付に假置左の茶碗右手へ持替勝手付に飾り棗左にて取飾合せ。水指と三つ飾。次に仕込建水右に持出膝と壁の間に置。柄杓右にて取り左にもたせ建水の中にある蓋置右にて取出し定座に置柄杓右手あしらひ左にて蓋置に乗せ。柄を斜に引置〇第壹圖の如し客へ挨拶して左膝少々後ろへ引建水少し前へ進め（身は風爐と水指の間に向ひ）碗右

第壹圖



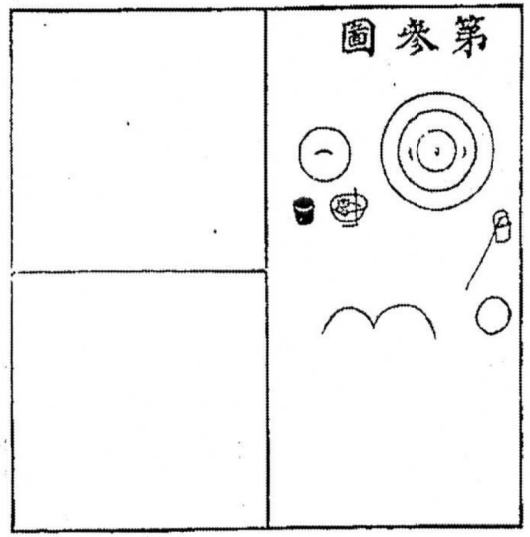
にて取り左手あしらひ膝前に置き棗右にて取り碗と膝の間に置。和巾右にて取り左手へ移し。右膝先にて和巾定例の通りさばきたゝみて右手に握り込み膝先に休め。棗左りに取双方膝前に出逢ひ。常の通り拭上げ水指の前

第貳圖

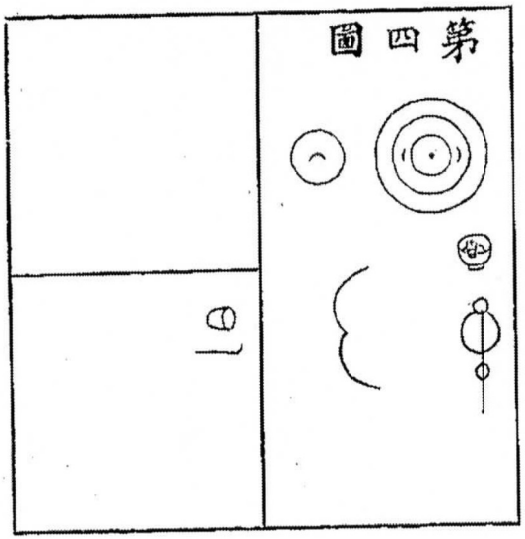


流し飾客付の方に置和巾直して茶杓拭ひ棗の上斜に置茶筅出して水指の前員に棗と流し飾りに置。碗右にて少し前へ引き和巾腰にはさむ（女子は和巾右に持ながら柄杓の柄をあしらひ。柄杓左手にて柄の先よりこき込み取右手あしらひ左に持右にて釜の蓋を取蓋置へ乗せ其上へ茶巾を載（女子は釜の蓋を和巾にて取膝先に假置）柄杓右手へ移し。湯を汲み碗へ入れ茶筅ごうし定例の通り碗右手に取り左あしらひ。湯右にて捨碗其儘持膝眞向へ持廻る。又左手も左の方より出逢ひ。碗の向ふを取り廻し候得は湯の明け口右の方へ廻る。右手茶巾取り碗の露をぬぐひ中へ入れ拭上げ右手に

第參圖



て膝前に置き茶巾出し釜の蓋の上に乗せ。其手にて茶枘取り左に棗持ち茶汲み入て元座へ飾り戻す（棗の蓋取り碗と膝との間に置即ち右勝手計りなり）水指蓋右にて取り。茶碗の勝手付を通り。左手あしらひ右に持ち。建水の上へ持行雫を落し左にて露をぬぐひ其手にて蓋表を客付にして水指の勝手付腹へ持せ掛け〇第貳圖の如し柄杓右にて取りさばき。水一杓汲み釜へ入れ直ちに湯を汲み碗へよき程入れ殘湯釜へ戻し入れ。点茶する事定例の如し。碗右手に取り客へ左手にて差出す（女子は和巾腰に付る）客茶を呑み終り。其碗主人へ戻す。主人受取碗左に取り右あしらひ。呑口改め。向ふへ廻して膝前に置。湯汲み碗へ入。追振の通りすゝぎて碗右にて持建水へ捨。其碗右手に持ちたる儘向ふへ廻し出す。左手も左の方より又向へ出し碗渡し受け。膝前へ扣取候得は。碗の湯明け口の所。勝手付右の方になる。右手にて碗の雫を拭ひ碗下に置客へ挨拶して。水一杓汲み碗へ入。茶筅をすゝぎ。水右にて捨（すゝぎ湯捨たる通なり）茶碗向ふへ廻して左に持。右手にてぬくひ前に置。茶巾筅入れ。和巾捌きて茶杓をふき碗に掛け（女子は和巾はらい腰に付る）和巾右手に握り込左り棗取り。水指前へ假戻し置碗左りに取右和巾持添へ飾り戻す（仕廻の飾り付は左勝手とは違ふなり）和巾右に持左にて茶を拂ひ。右の腰にはさみ右柄杓取り釜へ水三杓差入る。杓左に持たせ釜の蓋しめ。杓右あしらひ蓋置へ載せ柄初の如く左へ斜に引。水指の蓋右にて取左あしらひ。右にてしめる〇第參圖の如し。左柄杓取右あしらひ。右蓋置取左に爲持。右に建水持入る次に右に碗取り左り手へ移し右棗取持入る又出て水指客付より左り右と手を出し持ち右の方手前へ寄せ水指の跡



をぬくひ持ち入る
一客より両器拝見を乞ひたる時は茶碗右に取左一寸あらひ。建水の向ふへ假置棗右に取り左に受け。客の方へ廻り常の通り和巾にて拭きて向ふへ廻して正客の方へ出す茶杓も取りて次客の方へ幷へて出し（弊帚記に見ゆ）身を茶前へ戻り杓蓋置持。建水右に持勝手へ入る。又水指取入るなり。追て客より道具戻る比見計ひ出て受取持ち入るなり

◉風爐長板飾薄茶点茶之事

一長板に風爐と水指杓立蓋置を飾り置点茶する法。臺子の天井なく杓立に火箸なき迄にて其外異なることなし弊帚記にあり
一長板大小有大を風爐に用ひ。小を爐に用ゆ。風爐長板に黒塗こため塗こあり黒は古來よりあり。溜は宗旦好なり黒は檜木。溜は松木なり爐風爐共に点茶替る事なし。長板に建水はかさらす蓋置ばかり建水の座におくなり。長板に建水かさりては茶入茶碗持出茶道口さす所なし。當代眞の手桶置ためこて桑の木地長板有（但し此方にて不用なり）委しきは次に記す

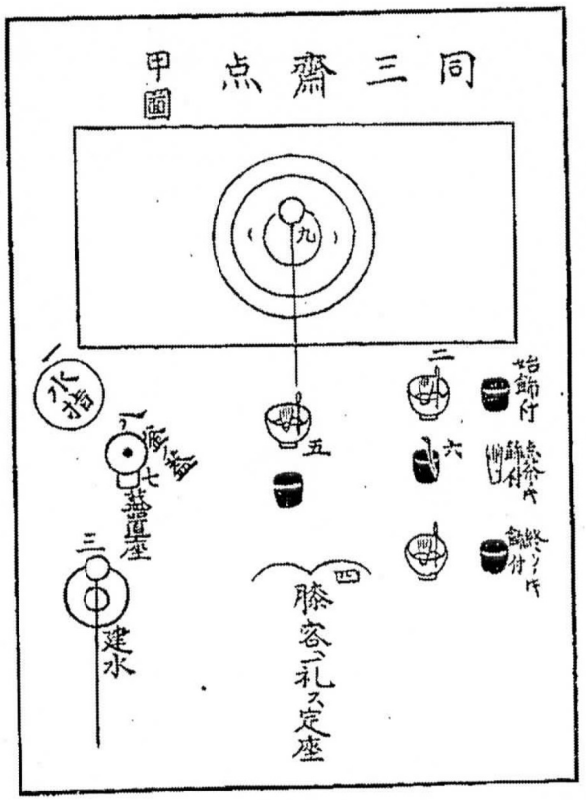
◉風爐長板壹つ飾之事

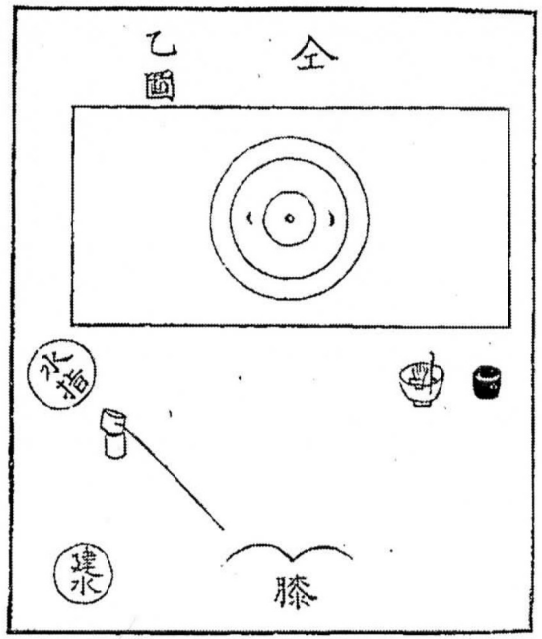
一長板の眞中に風爐を置点茶の仕様世に長板の一つ置点と言ふ。是れは平常の仕方なり一服可進約束する日には此仕方有間敷事なり。但一体替りたる品なれは次の間なごにて用るは慰みに可然。是れは細川三齋の作意と聞傳たり

◉同　三齋点

一長板一つ置板の眞中に風爐を飾り付置（但し板置様臺子の如し両方の明は京間にて客付の疊目一目明置。田舍間にては客付の方縁を境にして置一つ飾如此火箸杓立等は不飾故違なり但弊帚記付錄には長板は小の方を用るが恰好別してよろしきかこある然し風爐の大小に由るなり）

点茶の時㊀水指持出棗と仕込碗㊁持出建水に柄杓蓋置仕込㊂持出夫々如圖飾付身を熟と風爐前定座に㊃居直り客へ一禮して定例の如く碗棗膝前に㊄取寄せ和巾取さはき。棗と茶杓も拭て点茶圖の所に置茶筅も取飾り㊅合せ置き茶碗少し前に引寄せ和巾腰にさげる（女子は和巾左り膝先に假置し）法右手蓋置を取出㊆如点茶す釜の湯汲むときは建水の上にある柄杓左りに持。





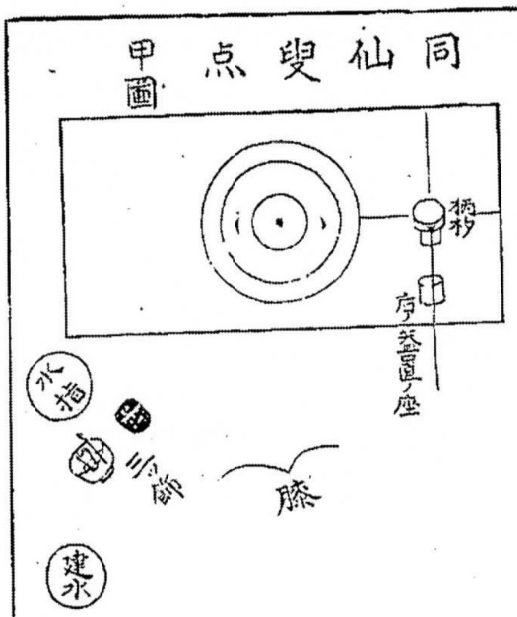
して水指前定座に置。其上へ釜の蓋とり㊇蓋置にのせ茶巾出し其上にのせる。左手の柄杓右へ持ち替へ。直に釜の湯を汲み。碗へ入れ筅をとうするなり。柄杓は釜の上に掛㊈柄を前へ引置甲圖如追々点茶終りて釜へ水三杓差し加へ釜の蓋しめ柄杓蓋置に乘せ。水指の蓋しめる。乙圖の如し。是れより柄杓蓋置建水等勝手へ持ち入ること又客より道具所望等のことは總て前に同し

◉同仙叟点

一最初水指持ち出。圖の所に飾り置。次に棗こ仕込碗持ち出て。水指前に水指こ三つ飾りにす。仕込建水持出。風爐に居向ひ。建水假置。風爐の客付板の上。眞中に蓋置を居置き。其上に柄杓をのせ。柄を眞直に疊の上へ引置き客へ一禮して建水を定座へ直す。甲圖の如し扨追振の通。茶碗棗膝前へ移して和巾にて棗茶杓を拭き水指前勝手付に置。茶筅取出し。水指こ三つ飾りに置合せ。

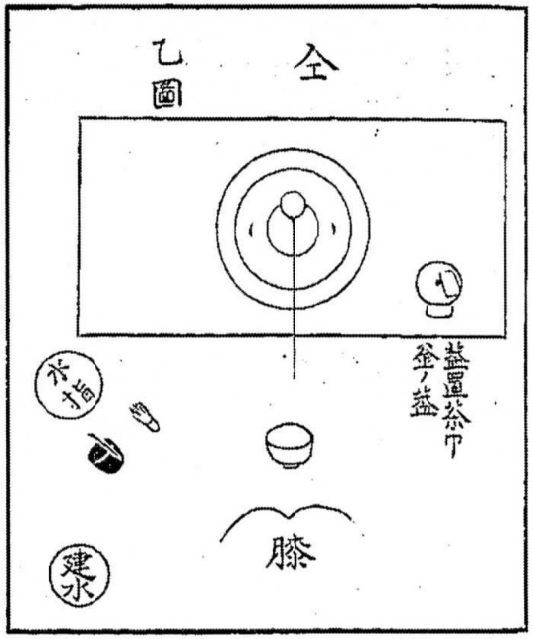
甲圖

同仙叟点



点茶すること例の通。扨柄杓取左りに持替。右にて蓋置を取り。圖の所迄引寄せ。釜の蓋を取り。蓋置にのせ。其上へ茶巾を乘。碗へ湯込み入れ。茶筅をこうするなり乙圖の如し。点茶終りて釜へ水三杓差し入れ。杓左り手に持。釜の蓋右手にてしめ蓋置初めの座へ戻して。柄杓を引置。水指の蓋しめる。甲圖に同し是れより柄杓蓋置建水始め勝手へ持ち入る。又客より道具所望のこき差出し見せることこ前と同斷なり

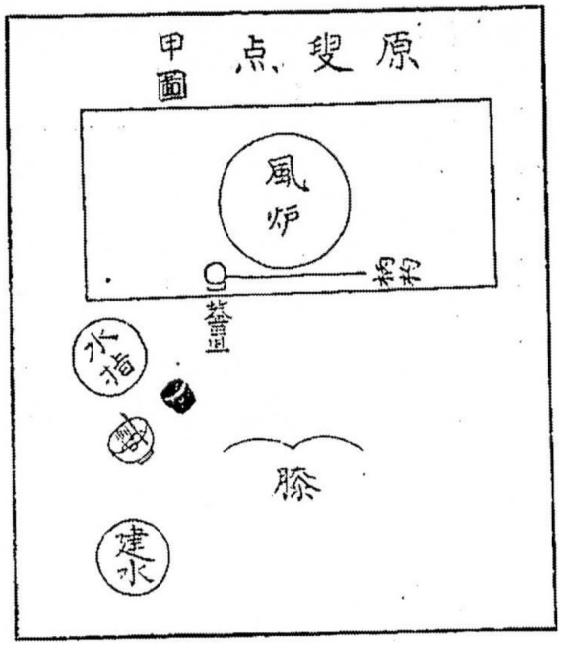
乙圖



◉同原叟点

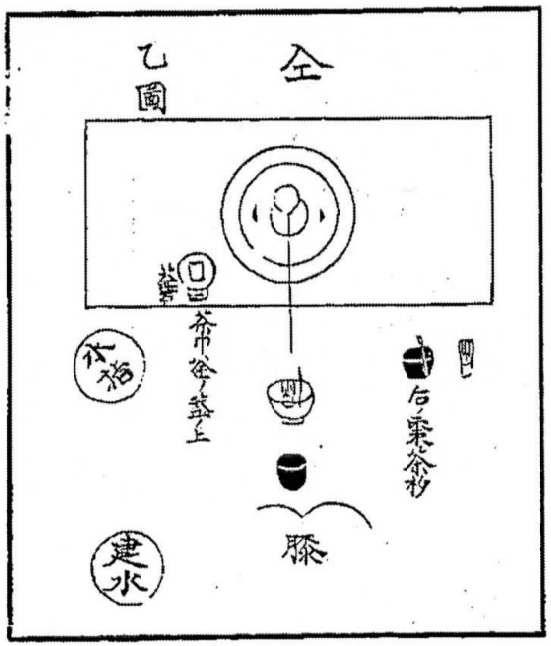
一最初水指持出圖の所に置。茶入と仕込碗持ち出て。水指と三つ飾りにす。

仕込建水持ち出て。身を風爐前定座に居直り。膝勝手付に建水假置。左手柄杓ざり。右手あしらひ。左りに持。右にて蓋置を出し。板の上圖の所に置。柄杓右に持替。蓋置の上に圖の通に乘せ。柄杓を引置。客へ一禮す甲圖の如し。

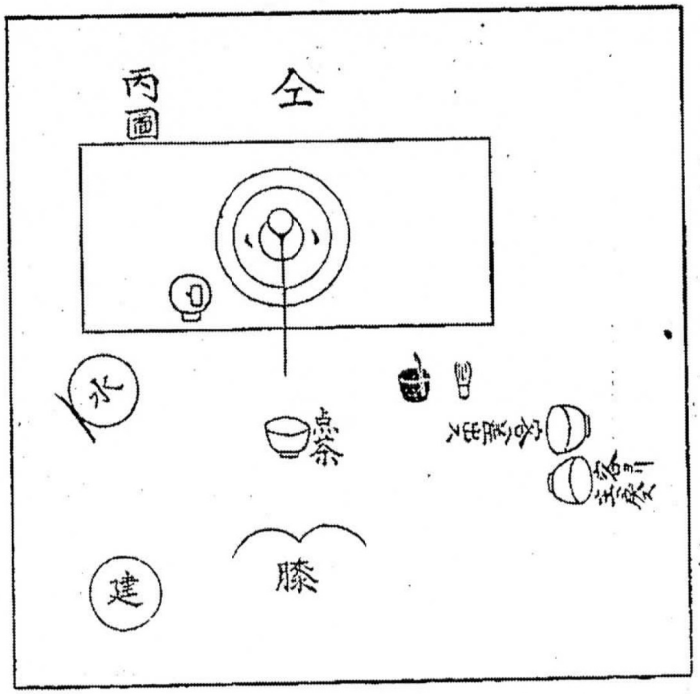


定例の通。板と膝の間向の方へ碗左にて取り。右に持替。下に置又棗右にて取。碗と膝の間に置き和巾さはきて定例の通り棗を拭き圖の所に置。茶杓も拭き棗の上に乘せ。茶筅出して棗の右に飾る圖の如し。右にて碗少々勝手の膝へ寄せ和巾腰に付け。右にて柄杓

取り左りへ持替へ。釜の蓋右にて取り。蓋置の上に乘せ其手にて碗の茶巾を出し其蓋の上へ乘せ置。柄杓右へ取戻しさはきて湯を汲み。碗へ入れ。其柄杓釜の上に乘せ置き乙圖の如し

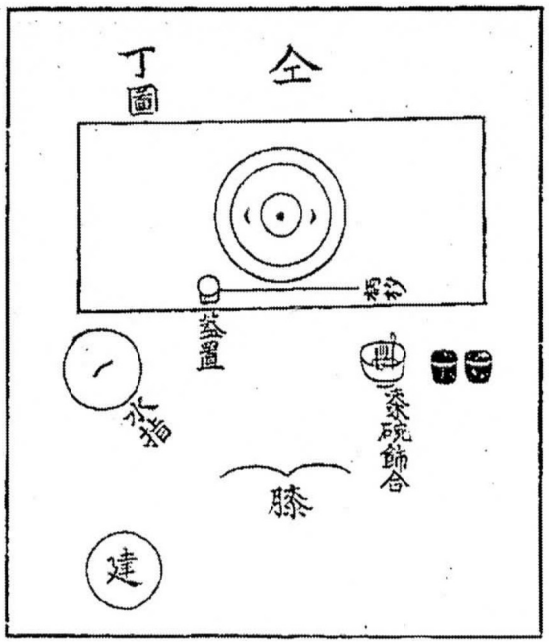


定例の通茶筅とうし。すゝき湯建水へ捨。茶巾右にて取り碗ふき上ゆ前に置き。茶巾碗より出して釜の蓋の上へ乘せ。棗左りにて取り。茶杓右にて取り茶を汲み碗へ入れ。棗茶杓元へ戻し。水指の蓋右にて取り。左りに持ち替へ。建水の上にて横にして右手にて雫をぬくひ。左手にて蓋其儘水指の

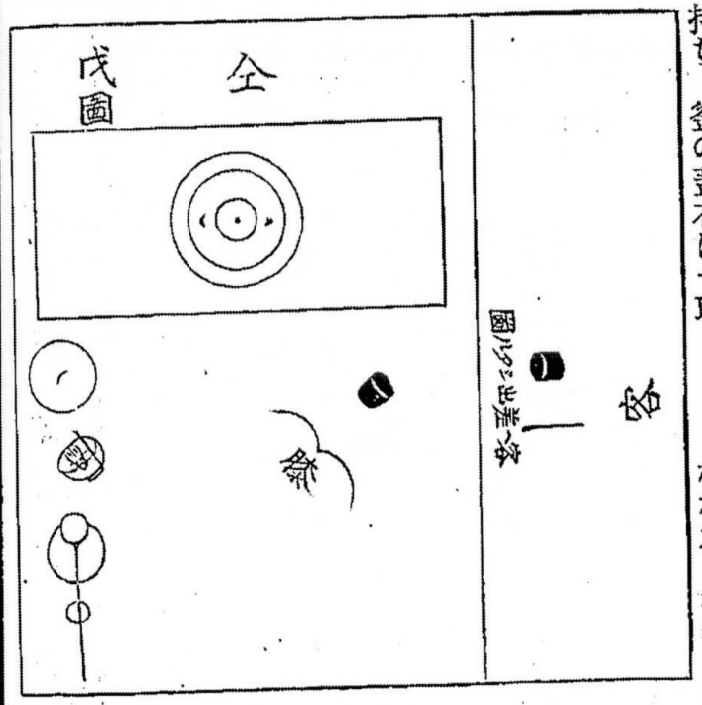


勝手付腹に爲持掛け置。右にて柄杓取りさはきて。水一杓汲み釜へ入れ。すく其柄杓にて湯を一杓汲み。碗へよき程に入れ。餘り湯釜へ戻し。其柄杓釜へ乘せ。茶筅取り。点茶すること定例の如し。碗客へ差出し置釜の湯加減により水一杓差し加へること隨意。客茶を呑み終り。碗戻す丙圖の如し

追々点終り。客より戻り碗



受取。湯すゝきして建水へ湯捨る。客より御茶御仕廻ひ被下と挨拶あれは。例の通り挨拶一禮して。水汲碗へ入れすゝぎ水捨。碗膝前に置き。茶巾取り碗へ入れ。筅取同しく碗へ入れ。茶杓右に持。和巾左にて取り。同時に出合。茶杓もちながら和巾さはき。茶杓拭上け。碗に元の如く掛け。右手にて裏とり。少し右の方に假置。其手にて仕込碗とり上。左手の和巾に持ち添へ。圖の所に飾り。右手裏取仕込碗と圖の通りに置合せ。和巾腰に付。柄杓取さはきて釜へ水二杓差し加へ。其柄杓左に



持ち。釜の蓋右にて取しめる。柄杓右へ持替。圖の通板の上に横に引。水指の蓋左りにて取り。右にてしめる丁圖の如し（客より両器見度ときは此所にて所望するなり）定式の如く建水柄杓蓋置勝手へ持ち入る扨客より道具所望のときは丁圖の通水指の蓋しめるとき是れを諾して先つ建水を少し跡へ引。柄杓こり。建水の上にて露をおとし。左りにて建水に掛け。蓋置右にてとり。左りにて建水の

下。杓の柄の下に置如圖。仕込碗左手にとり右手へ持ち替建水の向ふに手なりに假置し右手にて棗とり左手に受け。身を客の方へ廻り棗膝前に置き。和巾しぼり捌きして棗を拭き。客へ出すこと追振の通。戊圖の如し身を定座へ戻り。柄杓蓋置建水勝手へ持ち入る。又出茶碗持ち入る水指も同し直に茶道口しめる。客より道具戻る時間見計ひ出て受取勝手へ持入る。茶道口に居直り客へ挨拶の事。追例の通なり

「右長板は小の方を用ゆるが恰好別して宜敷かこ弊帚記に見ゆ」

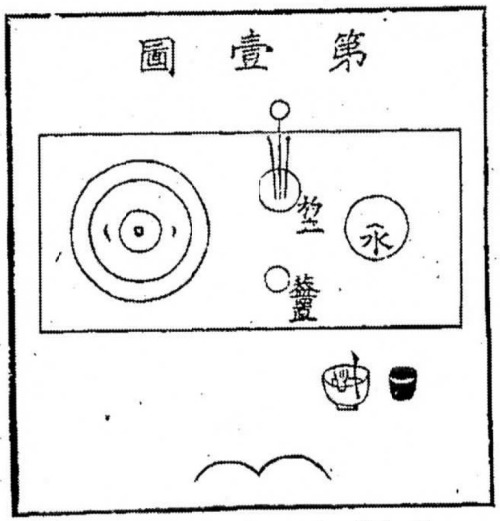
茶湯弊帚記に曰

◉風爐の次第

敷寄屋には土風爐を用て。金風爐は不用也。風爐に鐵あり唐銅あり何れも臺子に用ゆ又書院縁の間をに用物て常に用るは心次第

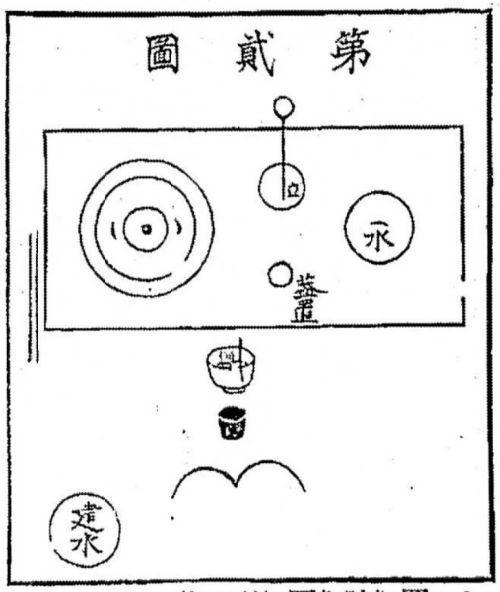
◉風爐長板臺子飾薄茶点之事

第壹圖

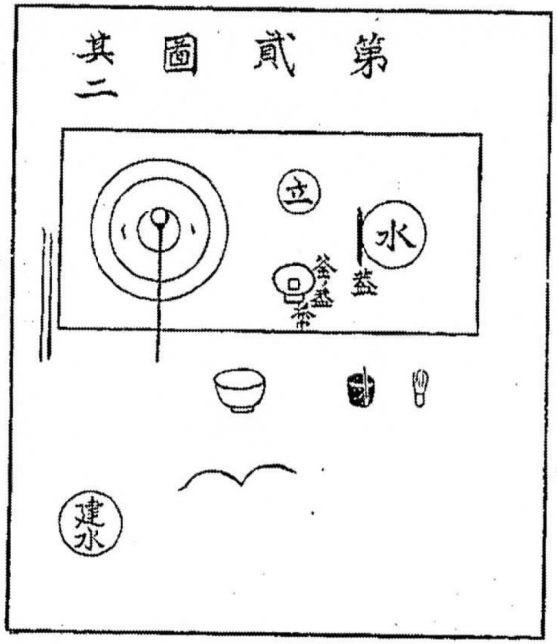


一最初棗を右手に持。左手碗に茶巾筅杓仕込み持出て水指前に居直り水指と三つ飾にす○第壹圖の如し。建水持出茶前に居直り建水假置。身を少し進み火箸右の方より一本つゝ抜取り左手に受け。右手あしらひ。左に持ちながら身を中隅へ廻る（大人は不廻迚てもよし）長板の勝手付疊の上に置（火箸の頭壹寸程板より前へ出置）身を茶前へ戻り客へ一禮して左り膝先を少し引下げ。身を捻へ。建水定座へ直し○第貳圖の如し。氣を鎭め碗左りにて取り右に持ち。風爐と膝の間少し向ふの方に置。棗右にて取り碗と膝との間に置。左手和巾を取り（しぼりさはき）右手に握り持ち左手にて棗取り。其蓋二の字ふきして。水指の前左りの方に置和巾さばきて茶杓三度ふきて棗の上に乘せ。筅を出して棗と置合せ。水指と三つ飾にし茶碗少し膝前へ引男子は和巾腰にはさみ。蓋置に扱ひあるものなれば右にて取。形ちを直して元座へ戻し釜の蓋を取蓋置の上に載せ。其手にて茶巾取出し又其蓋の上に手なりに乘せ。女子は和巾左膝先に假置して。蓋置を右にて取左手の内に受け。蓋を返して元座へ戻し置和巾右手に取。釜の蓋つまみにかむせ其手に持ち蓋置の上に載せ和巾帶に付る。茶巾取出して又釜の蓋の上つまみに掛置○第貳圖其二の如

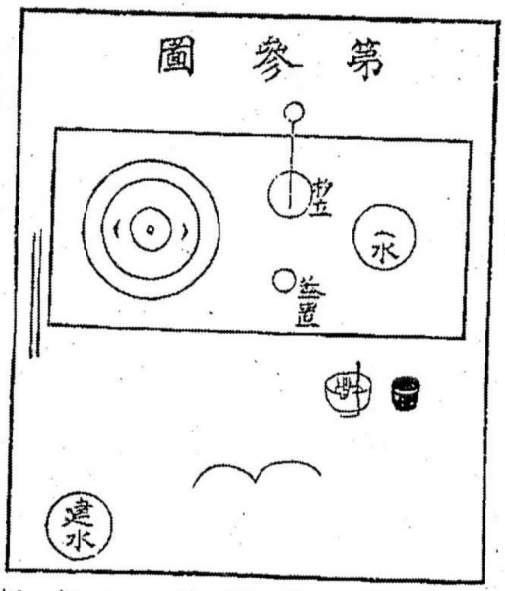
第貳圖



し扨男女子ともに柄杓を扱取り。柄杓さばきて湯を汲み碗へ入。茶筅をとうし定例の如くすゝき湯捨て。碗を拭上げ。茶前に置茶巾出して釜の蓋の上へ戻し。客付よりつまみへもたせかけ置。茶杓取り裏取り碗へ茶を汲み入れ。茶杓は裏の上に戻し置。水指の蓋取り扱ひ右にて取り。客付の方より廻り三つ取にす○別記第六號にあり。柄杓取り釜へ水一杓汲み入れすぐ湯を汲み碗へ入れ。点茶して客へ差出すこと定例の通り幾度点するも替ることなし。客点茶引終り。碗主へ戻す。主受取例の如く湯すゝきして建水へ捨て。客へ挨拶して茶



筅水すゝきして建水へ捨て。碗右手に取り膝前に置。茶巾茶筅仕込み入。右にて茶杓取り左手和巾取り。右手あしらひたゝみ左手に受け。茶杓一度拭ひ清めて碗にかけ。裏取り右の方へ假置。右手に碗取り左手の和巾の方へ移し水指の前左りの方に置き。右裏取り水指と元の如く三つ飾にす（女子は茶巾茶筅仕込み入れ左り和巾取り右手あしらひ左手に受右茶杓取り一度拭ひ清めて直くに和巾拂ひて腰に付ける）建水の上にて和巾拂ひ腰に下げ柄杓取り釜へ水三杓汲み入れすぐ湯返して杓立にさし戻す。釜の蓋しめ蓋置を取り其蓋置に取扱ひあれは戻し元の座に戻し置。水指の蓋右にて取り左手あしらひ右にてしめる○第參



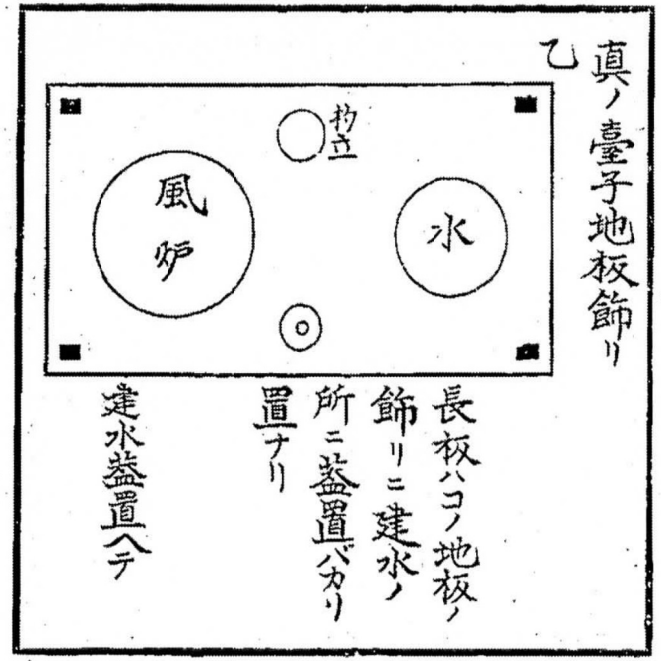
圖の如し。此時客より道具見度旨乞へは是れを受け建水を少し跡へ引。茶碗を建水の向へ移し置。右にて裏取り左手に受け。客の方へ廻り例の通褒こ茶杓も出す定座へ戻り建水持入る。茶碗持入る片口持出水指へ水を指し加へ。水指の蓋しめ片口左へ寄せ。左手伏て火箸を取り。右の手へ移し右にて杓立に飾り水指改め片口持勝手へ入。茶道口しめる客は茶杓茶入見終りて定座へ戻し置。亭主は程見計ひ。茶道口明け出て茶入初め茶杓を受取持。勝手へ入る茶道口外より失禮の挨拶一禮す。客一同よりも一禮あり。此れより茶道口明け切なり

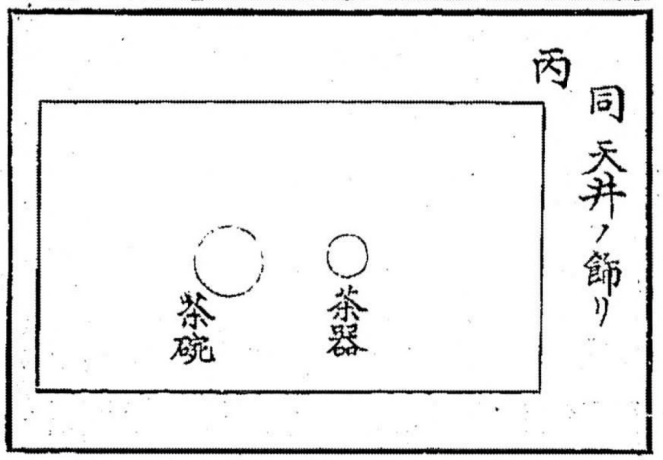
翫古齋茶道聞書

棚

臺子

臺子は爐風爐共に用ゆ。風爐は眞の臺子より外は不置（四本柱の臺子を眞の臺子と云ふ）眞の臺子に大小有り大の形風爐に用ゆ。小の方を爐に用ゆ風爐の時は向を壹尺五寸程明け。別記第十五號にあり。左右は疊の目一つ客附に



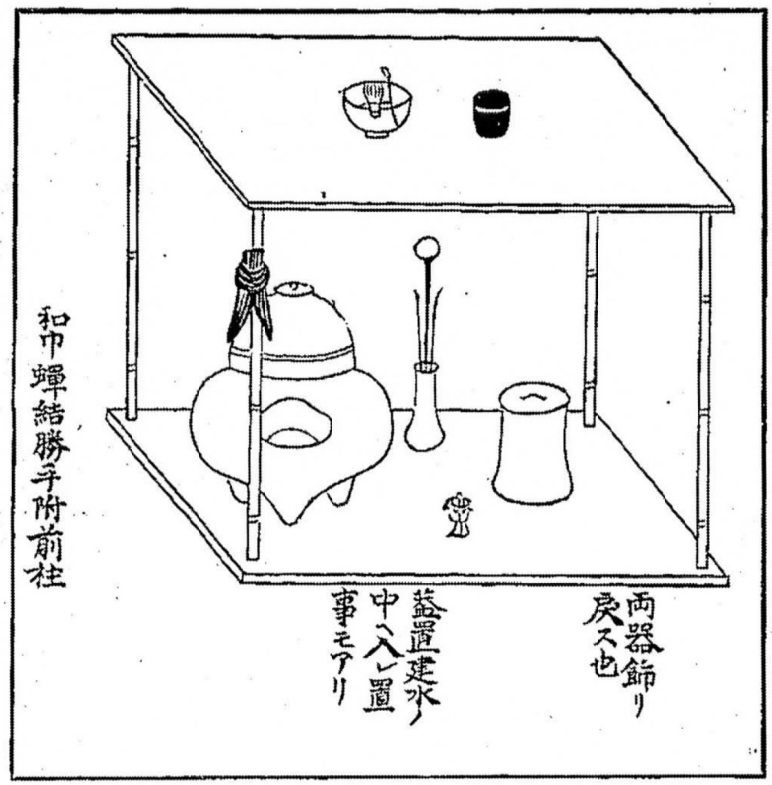


寄せ。地板の勝手の方に風爐。客附の方に水指（風爐の鍛は上げ置水指の鍛は下げ置）風爐と水指の間向に杓立（火箸飾る事も有り）其前に建水に蓋置入をくなり。又建水飾らず蓋置ばかりも置。天井の眞中茶入茶碗なり。炭手前のときは炭斗持ち出定座に置き。風爐の鍛を客付より卸し。勝手の方も同し炭仕様替ることなし

◉風爐竹臺子飾

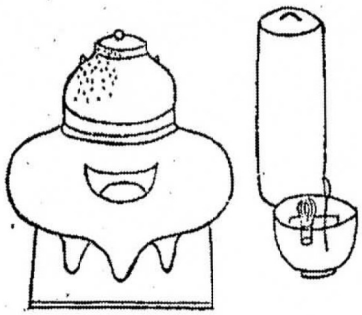
点茶の時建水持出。本座に着建水定座に置き。少々進み先勝手附前柱に有る和巾を左勝手外よりあてをり右手にて蟬結の左の方を引き抜。和巾さばき四方廻りて腰に付。躰を眞中に寄り。拜賀腰にして棗ごり碗取り。棗碗持添へ水指の前へ寄り。棗碗ご卸し三つ飾にす。本座へ寄り戻り座に付右手にて火箸壹本づゝ抜取り。左に受取り持ながら手伏て。地板勝手附の方にて地板より五分餘程出し疊の上に置。躰定座へ直し。客へ一禮して左膝少々引。建水

膝通りに直し置。此所にて身を熟と居定。碗左にて取り。右に持ち風爐ご膝の間少々向の方に置。棗右にて取り碗ご膝ごの間に置。左手和巾を取り（しぼりさばき）右手に握り持ち左手にて棗取り。其蓋二の字拭にして水指の前左りの方に置。和巾さはきて茶杓三度ふきて棗の上に乘せ。筅を出して棗ご置合せ。水指と三つ飾にし茶碗少し膝前へ引。男子は和巾腰にはさみ。蓋置に扱ひあるものなれば。右にて取形を直して元座へ戻し。釜の蓋を取り。蓋置の上に載せ。其手にて茶巾取出し。又其蓋の上に手なりに乘せ。女子は和巾左膝先に假置して蓋置を右にて取。左手に受け。取扱ひして元座へ戻し置和巾右手に取。釜の蓋つまみにかなせ其手に持ち蓋置の上に載せ。和巾帶に付る茶巾取出して又釜の蓋の上つまみに掛置。男女子ともに柄杓を抜取り。柄杓さばきて湯を汲み。碗へ入。茶筅をとうし定例の如くすゝき。湯捨て碗を拭上け。薄茶点前に置。茶巾出して釜の蓋の上へ戻し。客付よりつまみへもたせかけ置。茶杓取り棗取り。碗へ茶を汲入れ。茶杓は棗の上に戻し置。



水指蓋取り扱ひ。右にて取り。客附の方より廻り。三つ取にす○別記第六號に有柄杓取り。釜へ水一杓汲み入れ。すぐ湯を汲み。碗へ入れ。点茶して客へ差出すこと定例の通り。幾度点るも替ることなし。客点茶引終り碗主へ戻す。主受取例の如く湯すゝぎして建水へ捨て。客へ挨拶して茶筅水すゝぎして捨て。茶巾取碗拭き前に置き。茶巾出して例の通。茶巾角違にしてしぼりふくだめ。碗の内に入れ置。茶筅入れ。茶杓も拭き碗に掛け。棗右へ假寄せ。左にて和巾持なから。碗水指の眞より少し左の方へ假寄せ。棗も置合せ。和巾取腰につける杓取り。水三杓釜へ差入れ。すぐ湯返して杓立にさし戻す。釜の蓋しめ蓋置を取り。其蓋置に取扱ひ。あれば戻して元の座に戻し置。水指の蓋右にて取り。左手あてらい。右にてしめる。此時客より道具見度旨乞へは是を受け。建水直し茶碗左にて取り。右へうつして建水の向に置き。棗取り。左手に受け。客の方へ廻り例の棗ご茶杓も出す。定座へ戻り右にて茶碗を取り。拜賀腰にて天井の最眞に飾置。建水持入り片口持出水指へ水をさし。水指の蓋しめ片口左へ寄せ左手伏て火箸取り。右手へ移し。右にて杓立に飾り。片口持勝手へ入る。茶道口しめる。客茶器茶杓等見終りて定座へ戻し置。亭主程見計ひ。茶道口明け出茶器初め茶杓を受取。持棚前へ廻り膝眞に茶杓を前に置き。右膝先に棗

を置き。天井の茶碗左へ寄せ。棗右手に取り茶碗と置合せ。和巾さばきして茶杓を清めて碗に掛け。身を臺子の勝手附前柱に向ひ。蟬結和巾は和巾常の三つ折にしぼり。又縦二つに折。都合六重に折り右手の小指に和巾の端をはさみ和巾の中程を手にてつまみ。客附の方より和巾を廻し結合せ。勝手へ入例りの挨拶すべし

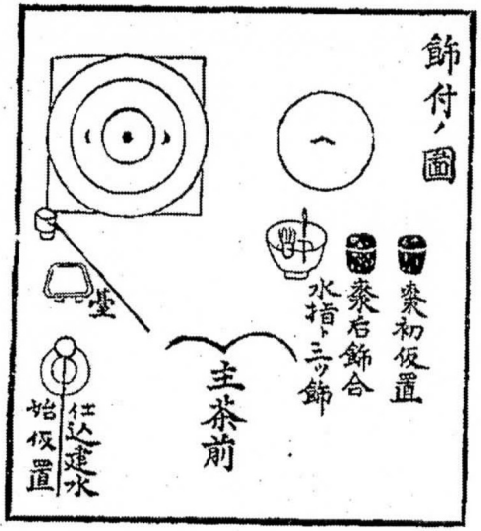


◉風爐しめ飾り之事

一風爐方へずつと引しめて向へも進めて。水指を置付る水指の前に茶碗を飾る。棗を右客付の方へ開きて飾る後は碗の跡へ棗を置。棗の跡へ茶筅を置き。点茶終りて最初の通り飾戻す。仕廻なり又曰是は京間疊にかざり道具取合の事なり。譬へば細水指に大茶碗小き茶入等用ふなり

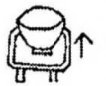
◉小角臺貴人へ風爐薄茶点之事

一最初水指持出て。次に棗と茶碗（茶筅茶巾茶杓右三品仕込）持出て定座に置。三ツ飾にす右手に小角臺持ち（能く水に濕しすぐにふき上置。持出るときは足の切目は指四本又は三本入れ上より大指にて押へ氣味にて持。始終倣之）左手に建水持ち出（柄杓蓋置仕込）茶道口明け捨。茶前定座に居直り。建水假置きして小角臺建水の向ふに假置柄杓蓋置取。定座へ移し置き。飾付の圖の如し。身を廻り貴人の方へ向ひ。一禮致して茶前へ戻り。建水定座へ直し。碗左手にて取り上げ。右手へ移し



膝の眞前風爐との間に左手を添へて置き。右手裏取り。茶碗と膝との間に置き和巾（絞り捌き）さばきて裏を拭ひ。水指前左の方へかざり置き。又和巾さばきて茶杓も拭き裏の上に上げ置。茶筅取り裏と並へ置。水指と三ツ飾にす碗少々手前の方へ寄せ。和巾腰に下げる。右の手柄杓を取り。左手へ移し持ち右手釜の蓋を取り。蓋置へ載せ。茶巾出し其上にのせ右手へ柄杓戻し取り湯を汲み碗へ入る（女子は和巾左手に持ち受け右手柄杓をこり。左りの手の和巾の上に重ね持ち其和巾を右手にて下へ扱きとり釜の蓋にかむせかけて其蓋を取り蓋置へのせ和巾は左りの膝の脇へ假置して茶巾を出し其蓋の上にのせる右手へ柄杓をこり戻し。湯を汲み入る左の手を添へる。即ち貴人のあしらひ）茶筅こうじ〳〵て元へ戻す（茶筅打たず音なし）茶碗三遍廻して湯を捨茶巾を取り碗をふき上げ。其茶巾碗の中へ入れたる儘右膝の前へ置き。右手にて小角臺を取り。左手を添へ膝眞前に置き其上へ碗を載せ。茶巾出し釜の蓋の上にのせ置き茶杓取り茶を茶碗へ入れ。水持の蓋右にて取り筅の客付を

通り左りに持替。蓋を建水の上にて立。雫を落し右手にて露をぬぐひ其手にて蓋を取戻し茶入と茶碗の間を通り。水指の勝手付に立掛け置。柄杓右にて取釜へ水一杓さし入れ。直に湯を汲み碗へ入（碗に左手添へあしらひ）柄杓釜に乘せ置き。点茶すること定式の如く（茶杓は碗の縁にて不打碗の中にて貝先を拂ふ）点たる茶碗右に持左手すり込み。碗少し上げ茶の色を見て又臺へ載せ貴人の前へ持廻り（女子は操出して身を廻る）膝前に置き臺共に廻して



定座へ差出し扣へ居る。貴人茶を一口御曳に相成る時定座へ廻り戻る（女子は和巾腰に付）水指の水一杓釜へ差加へる茶碗御戻し相成こき其身を廻り。貴人の方へ向ひ碗臺とも持廻り。女子は操廻り定座に置き碗の呑口を向ふの方へ廻し。臺に居置き湯を汲み碗へ入れいすぎ湯を建水へ捨て右にて茶巾を取雫をぬぐひ其巾碗へ入れ其儘臺へ載置く（兩手あしらひにす）貴人の方へ廻り。再服伺ひ定座へ戻り点茶御好無之は茶巾碗より出し釜の蓋へ載せ。水を汲み碗へ入れ。筅すゝぎ（茶筅打無之音なしにする）兩

手にて水を捨てすぐ右手にて帛をぬぐひ。其碗右膝先に置き右手にて臺を取り左手あしらひ。建水の向ふに置く。碗膝の眞前に寄せ置。茶巾を入れ茶筅を入れ茶杓も拭上げ。碗に掛け置き水指の前に三ツ飾りに碗褄とも飾り戻す和巾建水の上にて拂ひ腰に下げて釜へ水三杓入れ釜の蓋しめ柄杓蓋置に休め水指の蓋しめる。此時客より道具所望あれば主これを受。建水後しろへ少々下げ柄杓を取建水に休め蓋置を取建水の跡に置き。褄を膝眞前へ假置として茶碗を水指の前へ直し置き。褄茶杓とも定式の如く貴人へ差し出し置き茶前定座へ戻り。右手に柄杓と蓋置を持ち左手に建水持ち入る。又次に茶碗持ち入る又次に水指持ち入る。又小角臺持ち入り前に置き茶道口しめる。若し隅棚又は棚類荘りあらは柄杓蓋置其棚に上げ荘り置き。右手に小角臺左手に建水を持ち入る客より道具戻る頃を見計ひ出て受取勝手へ持ち入るなり（若道具所望なきときは初偏小角臺貴人へ爐濃茶点の末に見ゆ）

小角臺貴人へ風爐濃茶点之事

小角臺清次風爐濃茶点之事

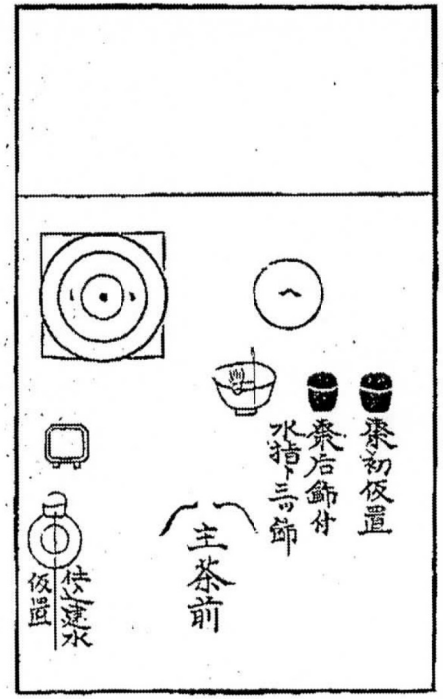
（清次の次の茶巾風爐は敷板の前客付の角に置く爐は爐縁の隅に置く）

（次の茶筅風爐は建水の向ふに置。爐には柄杓の柄の先きの方右の方に置くなり）

◉小角臺清次風爐薄茶点之事

一風爐清次薄茶点は最初水指持出て。褄と仕込碗持出。次に右手に小角臺を（臺の足切目へ指四本又は三本入上より大指にて押へ持氣味にて）左手に建水持出（蓋置仕込柄杓乘せ）定座に置小角臺建水の向ふに假置す。柄杓蓋置取り蓋置敷板勝手付の角に置。柄杓の柄の先左膝先になる樣に引。身を貴人の方へ廻りて一禮して点茶の定座へ戻り。碗褄膝前へ取置しぼりさばきて褄拭き定座に置く茶杓拭て褄の上に置。筅褄の右に置合。茶碗引。和巾腰にはさ

む柄杓取り釜の蓋を取り蓋置へ載せ其上へ茶巾乘せ湯を汲み茶碗へ入れ筅とうし（貴人扱ひ兩手にてあしらひ茶筅打は音なし）湯を捨茶巾を取り碗をふき上げ茶巾入れて右膝先に置き。其手にて小角臺を取り。膝眞に置き右手にて碗を持ち左手を添へ。小角臺に乘せ茶巾釜の蓋にのせ。茶汲み入れ（茶杓は碗の中にて拂ふなり）水指の蓋取建水の上にて雫を拭ひ釜へ水一杓入。湯



を汲み碗に入るとき左手碗に添る茶を点し碗右手に持左手すり込。碗の中を見て又臺に載せ。右手碗を抱へ左手に臺を持ち。貴人の御前へ持廻り下に置き（女子は途中にて置。身を少し廻りて操出す）袱にて臺ども

に廻して貴人客へ差出し（初め疊縁り外へ差出置き又身を縁迄進み両手にて臺を持ち差出し手を右より引）扣へ居る　貴人一口御引になれば。点茶の定座へ戻り。釜へ水一杓差加へる碗　戻り出つれは御前へ廻りて臺ともに受取る。本座へ戻り膝前へ置き。碗湯すぎして茶巾碗へ入れ。御前へ廻り再服伺ひ。御好なけれは定座へ戻り。碗へ筅を入れ臺ともに建水の先に假置して建水持ち勝手へ入り（水にて清め濕して）次茶碗右にて筅巾入れ。持ちて左手に建水持出。点茶定座に座し。建水定座に置き碗は膝眞前に置き筅を出して建水の先に置き。巾は釜の蓋の上に置き。湯汲み碗へ入れ筅をとうして筅の定座に置き棗ご飾り合せ。茶杓と棗は貴人の御流を用ゆる。点茶通常の通り点終り次に碗戻り湯すゝきし湯を捨て。茶巾茶筅其儘碗へ假入して建水の先に假置して直に貴人の天目小角臺とも右手にて取り。左手を添へて膝の眞前に置き。茶筅定座へ移し。茶巾釜の蓋の上に上げ置き。水一杓碗へ入茶筅を取り茶碗へ入れ。筅洗して定座へ戻し碗の水捨（両手にてあしら

ひ）右にて露をぬぐひ又臺に据置茶巾入れ茶筅入れ茶杓取り。和巾さばきして茶杓を拭ひ碗に掛る（女子は和巾さばきして茶杓を取り拭きて杓碗にかけるなり）和巾は左手に握り込み。右手にて棗右へ寄せ置。碗臺も両手にて水指の前へ始めの如く三つ飾りに置合せ。和巾建水の上にて拂ひ。腰に付る（女子は茶杓拭き碗に掛建水の上にて拂ひ和巾腰に付る）次の茶碗取出し膝前に置き筅は建水の先に置き。茶巾は釜の蓋に載せ。柄杓取り水一杓碗へ入れ筅すゝぎして左手にて水を建水に捨。右手にて露をぬぐひ。碗右にて前に置き。茶巾茶筅入れて又建水の先へ戻し置。柄杓取り釜へ水三杓さし入。其柄杓左手に持ち右手にて釜の蓋しめ。其手へ柄杓移し蓋置へ引置き。水指の蓋しめる客より両器拜見乞へは一禮して建水少し後ろへ引置。右手柄杓を取り左手を添へ雫を拂ひ左手に持ちさまに杓の合を伏せて。建水に懸置き右手蓋置を取り左手へ移し。柄杓の柄下に入れ置き。右手にて棗を膝先へ寄せ置き。天目小角臺とも水指の前に移し置。右棗取左に受て貴人の前に廻り下に置き。

和巾さばきてしぼり。棗の蓋を拭ひ。其裏を見て下に置き。棗の縁をつまみ拭して和巾懐中す（女子は和巾右膝先にあをむけて置く）棗の蓋右手にて取り。双方出逢にて棗の蓋をして定式の通り茶杓も貴人の前へ出す（女子は和巾を付て）身を定座へ戻り右手柄杓蓋置を持添。左手建水持水屋へ入り次に天目碗小角臺持ち入る。次茶碗持ち入る。水指も同し（但し杓掛釘或は棚類飾りあらは杓蓋置飾り殘し置右に次茶碗持左りに建水持て勝手へ持入る）若道具拜見不乞時は杓蓋置右手に持左に建水を持。勝手へ入る又出て茶碗小角臺ともに膝眞へ取置き。棗は水指の前眞に置直して先碗臺を引き。又出棗計り取入る又水指を引次茶碗持入る

但し貴人の茶巾は二つ折茶筅は碗の縁にて打つことなし

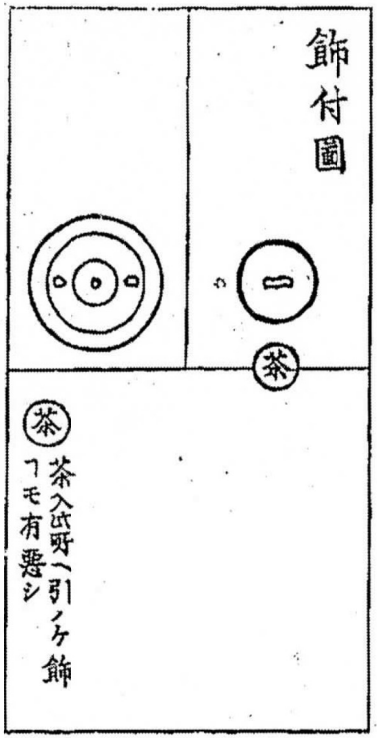
◎風爐左勝手濃茶点之圖并点茶仕様之事

但かね風爐に黒丸舖板及水指は共蓋の取扱

◎風爐左勝手濃茶点之圖并点茶仕様之部

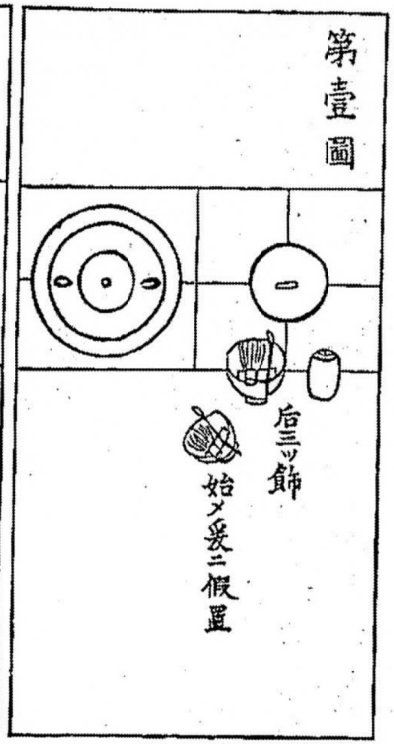
又風爐置居る鋪板の圖は別記第拾五號に在り

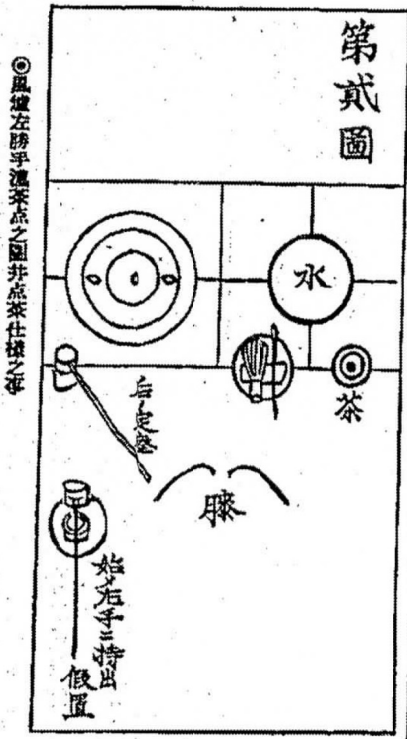
一客中立の間に。座敷飾り如圖。水指の前に茶入を置き和巾は左り腰に下け。



添和巾は懐中す。茶碗に茶巾仕込様は〇別記第三號通絞茶巾を仕組置く。

客各々席入り着座し終りたる頃を見計ひ。茶道口を開き。最初仕込碗を右にて取り左に受て右にて抱へ。水指の前に居直り茶碗膝先き。左の方に右にて手なりに假置して茶入を右の手にて右の方へ假に寄せ置き。其手にて茶碗を取り。左に持替水指の眞を割りて水指の前。左の方に置き右にて茶入を取り茶碗ご置合せ。水指ご三つ飾にす〇第壹圖の如く。建水に柄杓蓋置組合持出て。茶道口しめる。点



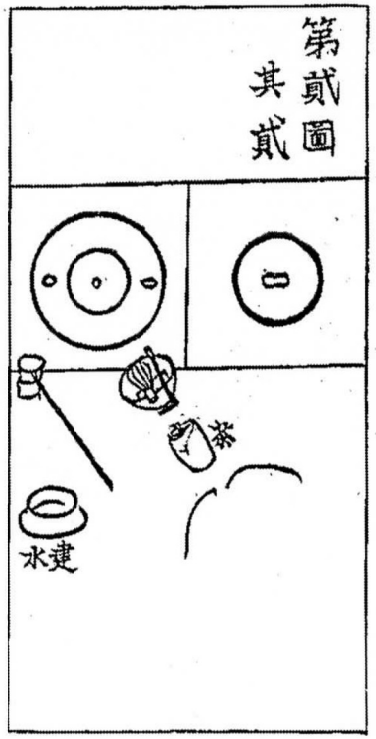


前定座に居直り。建水を假座に置き。柄杓左にて取り右の手あしらひ。ろくに直して左手に熟と持ち。右にて蓋置を取出し定座圖の處に置き左りに持たる柄杓右に持替。蓋置の上に乘せ。柄は筋違にして手なりに引置き。

客へ一禮してから。身を風爐の方へ少しねし向て熟と居定て建水を定座へ直す〇第貳圖の如く。是

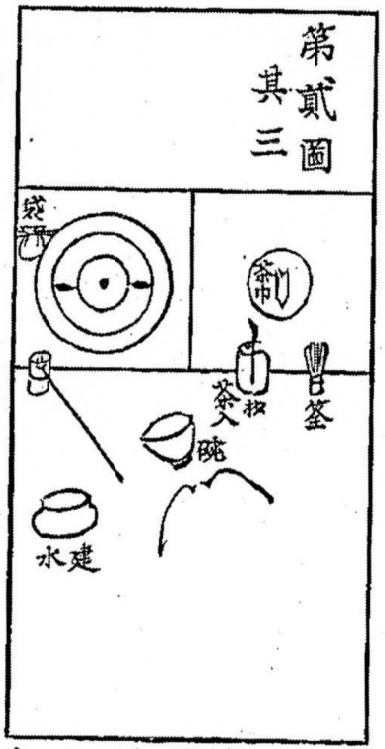
れより金風爐の濃茶点作廻は定例の如く。茶碗左りにて取り右に持替へ膝前向ふの方に置き。右手に茶入を取り膝と茶碗の間に置く○第貳圖其貳の如し。茶入の袋を取て。或は風爐と壁との間に右手にて置く（茶入の袋脫し方取扱別記第十號有）和巾取（四方廻りさはき）右に持ち膝の上に休め。茶入左りにて取り上け。其蓋和巾にて二度に拭ひ。胴も廻し拭して水指の前左りの方に置き。和巾（しほりさはきて）茶杓も二度拭ひ茶入の蓋の上に置き茶筅を出し茶入と置合せ。水指と三つ飾にして右の手にて茶碗少し引寄せ（水指の蓋燒物の時）和巾腰に付け右手にて絞り茶巾取出し追振の通り建水の上にてしほりふくためて蓋の

第貳圖
其貳

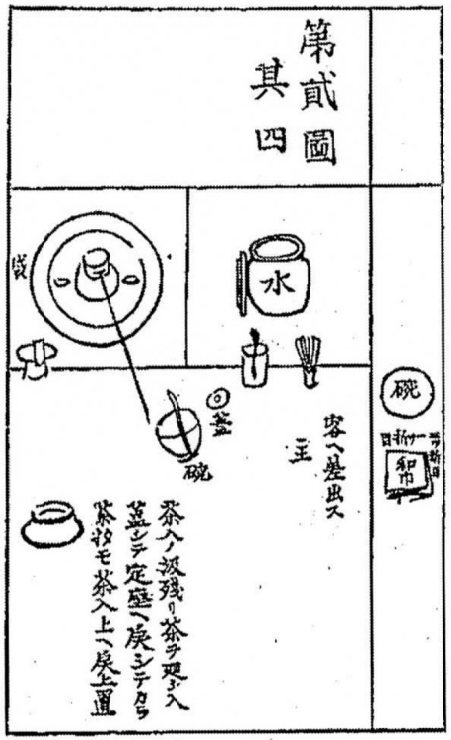


つまみへ（竪て手なりに）爲持掛け上け置く（若し塗ふたの水指なれは別記第三號にあり）○第貳圖其三の如く右手にて柄杓を取り。左手へ持替へ。右にて釜の蓋を取り蓋置へ乘せ。柄杓右へ取戻し左手あしらひ湯を汲み茶碗へ入れ。杓をあをのけて釜に掛（風爐濃茶は中蓋中仕廻無之）茶筅とうして。湯を左りにて捨て其碗右手にて拭ひ。茶巾碗へ入れ其碗右にて下に置。茶巾を取り釜の蓋の上に置き。右手に茶杓を取り。左にて茶入取。其蓋は圖の如く茶碗に並へ置き。茶をすくひ碗に入れ。茶杓は碗の緣に掛置き。茶入の胴を右手の指先と添へてかゝへ横にして拂ふなり（茶の拂ようは第一圖其四の內に記す）茶入の口は

第貳圖
其三



指にて拭ひ其蓋をして定座へ戻し。杓にて茶をかき解き碗の縁にて一寸打ち拂ひ。茶杓茶入の上に置き。水指の蓋右にて取り。筅の客付を通り。左りに持替蓋を建水の上にて立て雫を落し。右手にて露をぬぐひ。其手にて蓋を取戻し茶入と茶碗の間を通り。水指の勝手付に立掛け置き。柄杓右にて取り釜へ水一杓さし入れ。直に湯を汲み碗へ入（碗へ左り手添へあしらひ）柄杓釜に乘せ置き。茶筅を取り点茶して碗を右にて取り左りに受け客の前へ廻りて。碗向ふへ廻して差出す。懐中の和巾を出し。向ふの方へ和巾を返し



て圖の如く碗と並へて出す。○第貳圖如其四

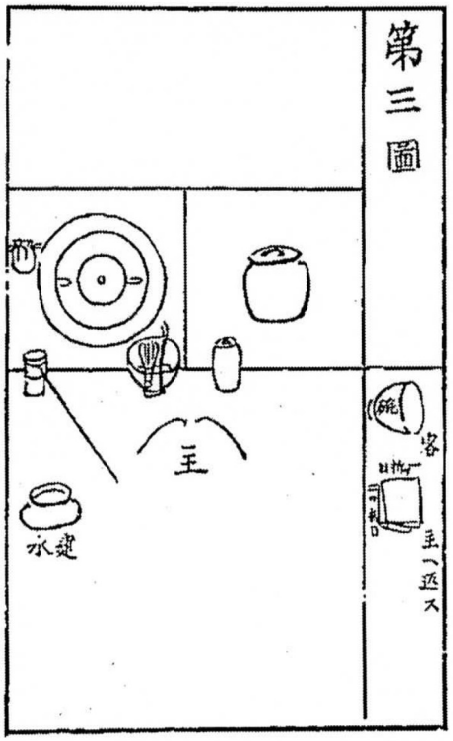
「一客一亭の点茶は此所より替る別に記す」

（客の方へ中隅位いねじ向ひてから茶碗和巾を差出す）客碗和巾とも取一口呑みたるとき。主よりふく合の加減を尋ね。挨拶し身を定座へ廻り戻り居か（跡へ引ひさり居か）末客茶呑むとき。主云ふ。多くは御殘し被下相伴仕ると挨拶し。末客茶呑切とあれは。主定座へ戻る客各々茶呑終て上客ゟ茶碗返す上客より順次拜見する事如通例主人柄杓取り釜へ水一杓さし。杓は釜に掛け置客より碗和巾戻れは。先つ和巾取り懐中し茶碗を取り呑口を見て向ふへ廻し下に置く。客禮あれはこれを受て。碗へ湯を入れすゝき。湯を建水へ捨て。碗膝前に置く「延点つゝけの作廻は。茶巾を碗に入れ下に置き此所より替る別に記す」

客へ薄茶は後にて可差上の挨拶して。右にて柄杓を取り。碗へ水一杓入れ茶筅をすゝき。水を捨碗へ茶巾筅仕込み。右に茶杓取り。左りに和巾取り。右

茶杓を持ちながら和巾さばきて。其茶杓拭て碗に掛け。其の碗右にて取り左手の和巾に持ち添へ。風爐と水指の間た眞割て左の方〇第三圖の所に飾り置き。右手にて茶入を取り碗の右の方に置合せ。これを中飾り仕廻と云ふ。

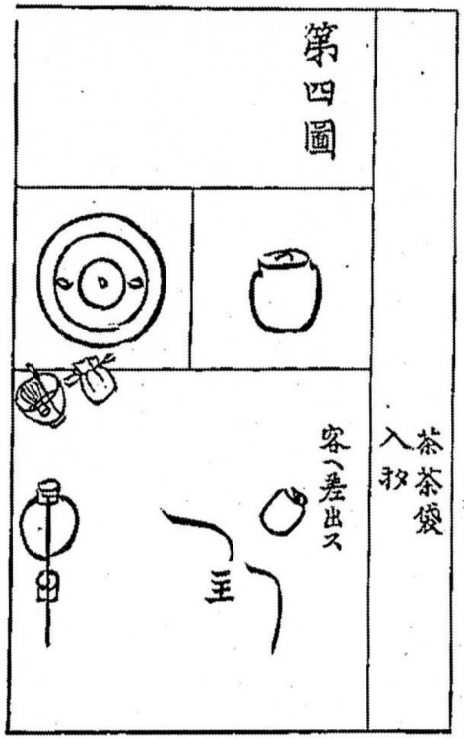
第三圖



左りにある和巾建水の上にて拂ひ。腰に下ける。釜へ水三杓さし入れ。釜の蓋しめ柄杓蓋置の上に乘せ柄を引置き。水指の蓋右にて取り。左手あらひ右手にてしめる〇第三圖の如く

一此時客より道具所望あれは。諾して建水跡へ寄せ。柄杓蓋置（棚あらは棚へ上け圖の如く假置きし茶碗左りに取り右へ持ち替へ。建水の向ふに置き袋も取り。圖の如く。假置して右にて茶入を取り。左手に受け身を中すみに廻り前に置き。和巾（しほりさはきして）茶入の蓋二文字に拭ひ。直に胴拭もし。蓋裏も見て下に置き茶入の口つまみ拭ひ。和巾懐中して。茶入の景を向ふへ廻して。客へ差出す此の差出し方は〇別記第十五號又十六號にもあり茶杓袋も左にて取り。右へ持替（風爐は身を居直りの儘）如圖差出し定座へ戻り。棚あれは柄杓蓋置。棚へ上け。一色なきときは杓蓋置右に持。建

第四圖

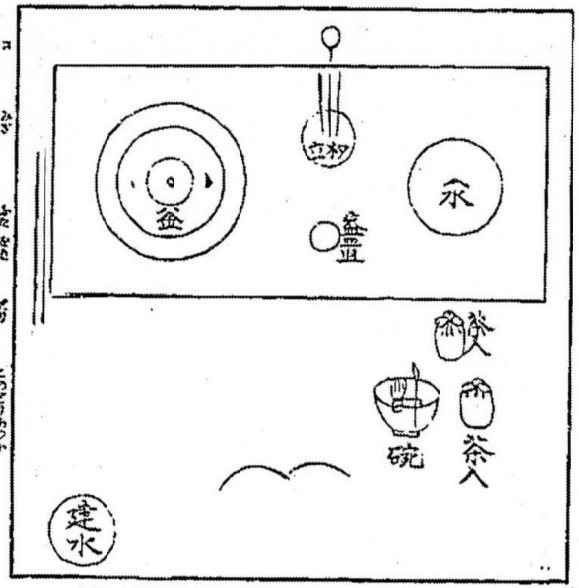


水左りに持入る。茶碗取入水指持勝手へ入。茶道口ござす。追て出て。客より戻したる道具受取持入る

（但釘ある席にて道具所望あれは先つ建水を引寄せ置き袋を釘よりはつし假置して柄杓釘にかけ蓋置を前下に莊り置）

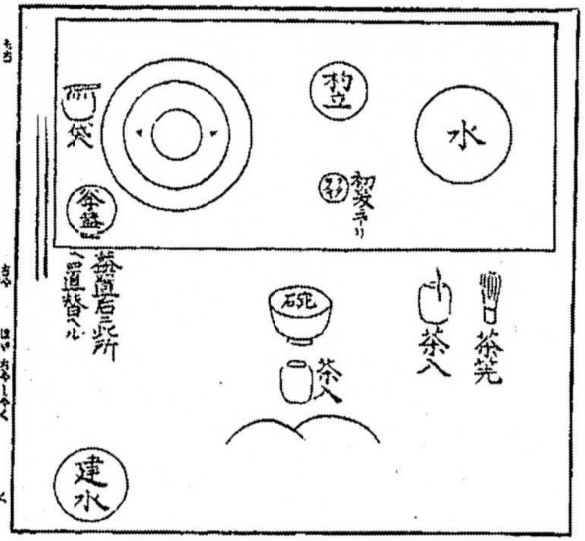
◉風爐長板臺子飾濃茶点之事

中立後○第壹圖茶入莊り付。客座入着座。主勝手より茶碗に茶巾茶筅仕込み持ち出て茶入と莊り合せ。水指と三つ莊にす。建水持出假置し身を少し進み火箸壹本つゝ抜き左手に受け。右手添へあしらひ。左手に受け持ちながら身を中隅へ廻り（大人は不廻迎もよし）長板の勝手付壁の間疊の上に置（火箸の頭壹寸程板より前へ出し置く）身を定座へ戻り客へ一禮して左膝先を少し引下け。身をかゞめて建水膝通り定座へ直し○第貳圖の如く氣を鎭めてより碗をとり。風爐と膝との間に置。茶入も取り碗と膝との間に置くと同時に左手



を添へ。両手にて茶入の袋脱し方取扱ひ方は○茶儀指掌別記第拾號にあり。追振の通右手にて茶入を袋より出し。膝前に置左りに持ちたる袋を両手にてのばし。風爐の勝手付長板の上へ右の手にて置き和巾取り四方捌き茶入を拭き水指の前左に置。亦和巾（しぼりさばき）捌きて茶杓を拭き茶入の上に置く。茶筅取り水指の前右に置水指と三つ飾りにし。茶碗を男女とも少々前へ引男子は和巾折返して長板の上風爐と蓋置の間の前の所を拭き其和巾左手に移し今ふきたる所へ茶巾を右手にて載せ置き和巾は腰に下け右にて蓋置を取。此取扱ひあれは直して風爐の勝手付長板の上（香合

置定座）前の方に置其手にて釜の蓋を取乘る（女子は和巾左膝先に假置して蓋置を取り形を直して風爐勝手付板の上。香合置定座に置和巾を添へて釜の蓋を取り蓋置の上へ載。和巾折返して長板の上風爐と蓋置定座の間の前の所を拭き和巾は左手へ移し右手にて茶巾を取り今ふきたる板の上へ乘せ置きてより和巾腰に付る）扨男女子ともに柄杓を取湯を汲み碗へ入れ。茶筅ごうじ定例の如く湯を捨碗を拭上ゆ。茶巾釜の蓋の上へのせ茶を汲み入れ。茶杓は碗の縁に掛け置きてより茶をよき程廻し入れ余有るは殘し置（若し茶入に棗を用ひたるなれは茶を粗茶杓にて汲み上げ。殘りの茶は皆茶碗へ明け入る）

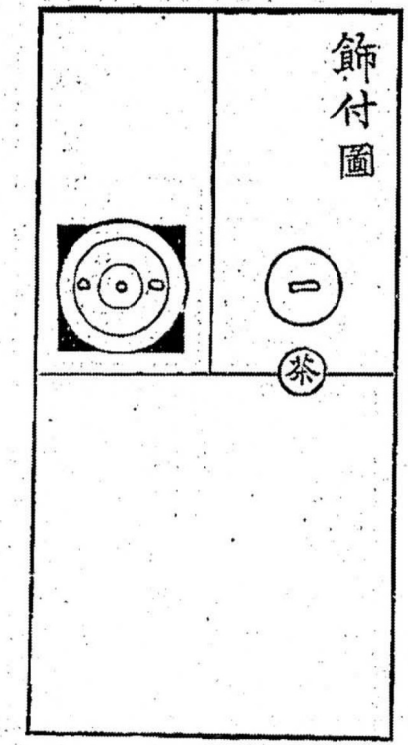


茶入の口は指にてぬぐひ（女子は茶入の口和巾にて拭ふ）蓋をして元の座へ戻し置。碗の縁にかけある茶杓を右にて取り。左り手あしらひ。茶をさばきてすぐ茶入の蓋の上つまみの勝手付に置。水指の蓋は客付の方より廻りて取。左手あしらひ右に持。水指勝手付腹に爲持掛置。其手にて柄杓を取り釜へ水一杓入れ直く其柄杓にて湯を汲み碗へ入れ。点茶して碗持廻り客前へ差出し直に懐中和巾も差出すこと定例の如く点茶畢て碗戻り御薄は御跡にて可差上挨拶して筅すゝぎして水を捨て茶巾にて拭き。茶巾はしぼりふくだめて入れ巾筅杓も碗へ仕込み水指の前に初の如く茶入茶碗三つ飾りに荘り戻す。釜へ水三杓汲み入れ其柄杓湯返して杓立にさし戻し。釜の蓋をしめ蓋置を取り。杓立前の方へ飾り戻す。水指の蓋三つ取客付より右手にて戻し。しめる此時客より道具所望あれば是れを諾して先つ建水少し跡へ下げ。其向ふへ仕込碗假置して袋を右手に取。茶碗と並へ置茶入を取り。左手に受け客の前へ廻り追例の通和巾（しぼり捌きにて）胴も拭ひ。茶入茶杓袋とも客へ差出しすぐ

定座へ戻り。建水持ち入る。茶碗も持入る。片口持出水指に水を差し加へ。片口持ち左へ寄。左手伏せて火箸を取り右の手へ移し。右にて灰を立に飾り。片口勝手へ入。茶道口しめる。客は茶杓袋茶入等を見終りて定座へ戻し置。亭主は程見計ひ。茶道口明け出て。茶入始め三品を受取持ち。勝手へ入る。茶道口外より失禮の挨拶一禮す。客一同よりも一禮あり。是れより茶道口明け切なり。主人直に黄盆持出咄しを壹つ弐つ致してより后の薄茶の炭を直す事

◉土風爐炭手前并に濃茶点之事

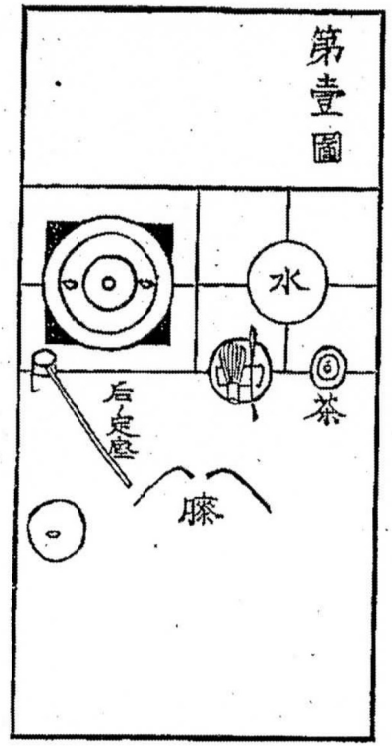
一最初例の通炭斗持出。定座に置。灰法六持出て。点茶の節建水定座の跡の方に置。風爐に向ひ釜の蓋をしめ。三つ羽卸し炭斗と風爐との間に置き。右にて鍬を取り左りへ移し。右にて火箸をとり炭斗と三つ羽との間に置き。釜へ鍬を掛け釜鋪出し。常の通り定座へ引。鍬をはづし釜の右に置き。身を風爐に向ひ。香合定座へ出し三つ羽とり。客付より勝手付と拂ひ。前も拂ひ。



三つ羽例の通炭斗と釜との間に置。右にて火箸を取り。前にて火箸の先を揃へ下火を直し。火箸左りへ移し。右にて炭斗風爐のきわへ引寄。火箸又右に持替。炭致すなり。火箸左りそ添へ右へ持直し。炭斗へ入れ本座へ直し後ろにある灰器を左にて取り。右にて風爐と膝との間に置き。灰匙右にて持ち。風爐前土器の下の方の灰を左りより右へ一とさし二たさし取り。風爐の悪しき所を直し。夫れより灰法六の灰をすくひ。所々を直し灰匙を灰器へ入れ。右にて灰器を取り。左りへ持ち直し後ろの元の座

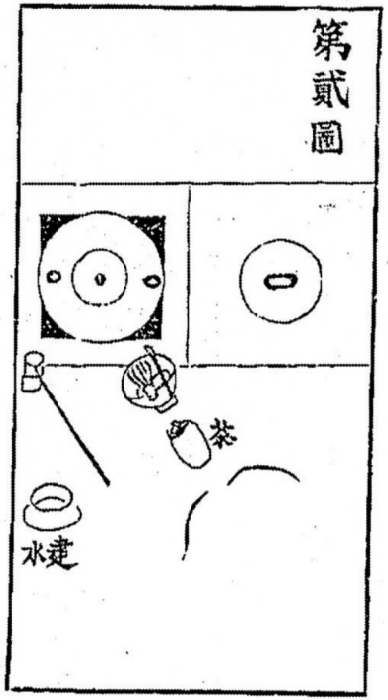
へ置き。三つ羽取り風爐の縁并に五徳等を拂ひ。三つ羽元の如く炭斗と風爐との間に置き。香合取り香をたくなり。此時客より香合好めは例の通り出し

第壹圖



其時風爐の內をも見度旨申候へは灰器持入。勝手口に扣へ居る。客は香合取り。正客の右脇に置き。正客より次へ挨拶致し。立て風爐前に行。風爐の中を見又釜も見て元座へ戻り亭主へ挨拶す。次客も同し。末客見終り元座へ着すれは。亭主出て釜に向ひ。釜鋪を炭斗へ入れ。鐶をはつし火箸に掛け。三つ羽を炭斗へ上け。炭斗持ち入る。座帶持出座をはき。茶道口しめ。三つ羽持出て風爐に向ひ。三つ羽風爐の右脇に置き。和巾さばきて風爐を客付の上の方より向ふへふき。向ふより戻り又向ふへふき。又戻り。又向ふへふき。又戻り都合三度にて下の方迄ふき。和巾左りへ移し勝手付の方は二度にてふき和巾を折返して。前の切かきを勝手付より客付の上迄ふき。少し戻りてふき和巾腰に付け。三つ羽にて釜の蓋を拂ひ。蓋を切るなり。客より香合戻らは例の通受取勝手へ持ち入る

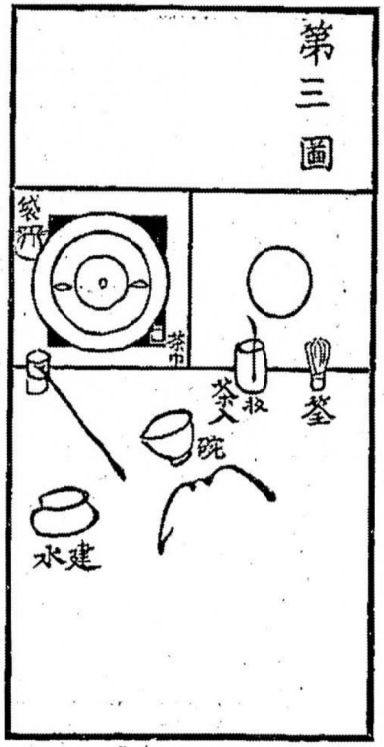
第貳圖



同濃茶点之事

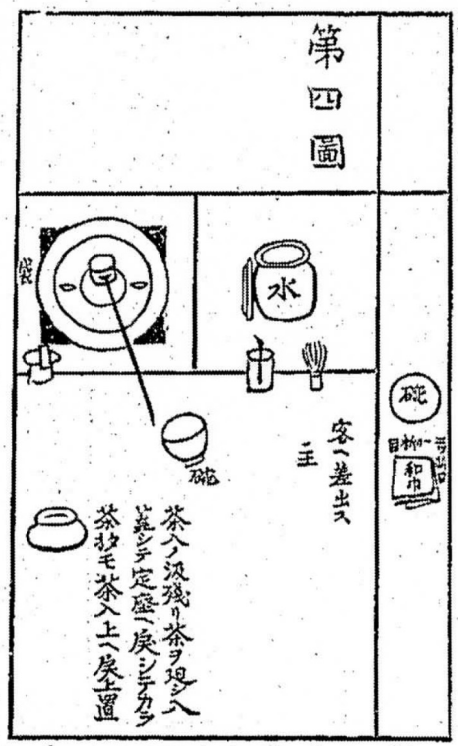
一客中立后例の通水指茶入出し飾り付〇圖の如く案内致し客座に着き候上。

第三圖

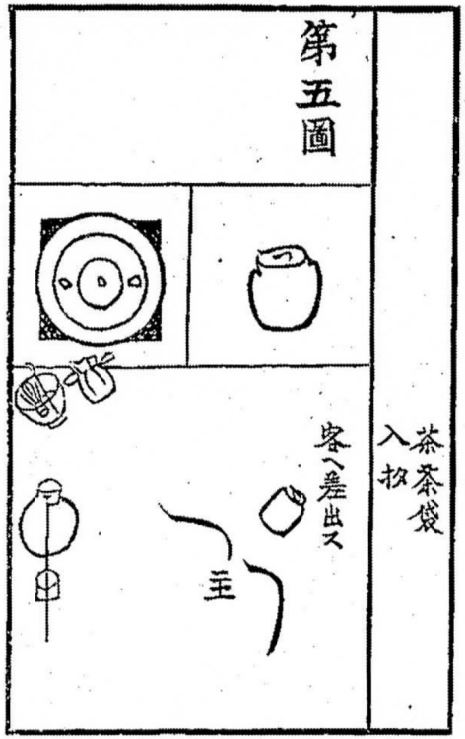


茶碗の內へ茶巾茶筅茶杓仕込み持出て。例の如く水指の前に三つ飾りに置合せ。建水に柄杓蓋置仕込み持ち出て茶道口しめ。茶前に直り。柄杓蓋置定座に置一禮し。建水少し跡へ下げ熟と身を定め〇第壹圖の如し。茶入茶碗を前へ取り〇第貳圖の如し。茶入の袋を解き樣。別記第拾號にあり。例の通袋は蓋置の向ふ風爐と壁との間に置き。和巾を取り四方捌きして茶入を拭き。常の通飾り付茶杓も二度拭して茶入の上に置き。茶筅を出し。茶入と置合せ。茶碗を右にて少し下へさげ。和巾を右に持ち。替へ。小板を客付の前を右へ二度拭き。和巾左りへ持替へ。右にて茶巾を出し。今拭たる所に置く。扨和巾は腰に付。〇第三圖の如し。柄杓右にて取り左りへ移し。右にて釜の蓋をとり。蓋置に乘せ湯を汲み。茶碗へ入れ。茶筅こうじ致し。湯を建水へ捨て茶巾取り。茶碗を拭き其茶巾初の如く鋪板の上に置き。右にて茶杓を取り左りにて茶入をとり。茶杓持ちながら茶入の

第四圖



蓋を取り。茶碗の右脇に置き茶をすくひ入れ。茶杓を茶碗に掛け茶入を廻し茶を入れ指にて茶入の口を拭ひ。是れより常の通り点茶して碗持ち廻り。客へ出す和巾も出す○第四圖の如し。正客茶碗和巾前へ取り。次客へ挨拶し一口呑みたる時例の詰りは不致哉との挨拶致し。身を定座に戻り。茶巾取り釜の蓋の上にのせ后又身を客に向ひ。客は順々茶を呑み廻り末客へ茶碗参り候節例の多くは御あまし御相伴可致の挨拶し。又身を定座へ戻り釜へ水一杓差加へ茶碗の返るを待居る。客より茶碗戻り主受取下に置節客一統時宜



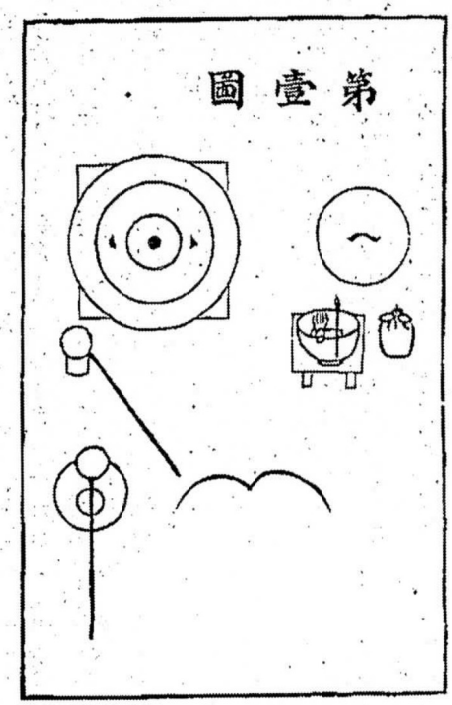
例の通り湯を汲み茶碗へ入れ。茶碗湯すゝきして下に置き例の御薄茶は后にこの挨拶し茶筅水すゝきして例の通其水建水へ捨て。右にて茶碗の雫を拭ひ茶碗下に置茶巾を入れ。茶筅を入る茶杓取り和巾取り茶杓拭きて元の如く茶碗に掛け其手にて茶入右の方へ寄せ。又其手にて茶碗和巾の方へ持たせ水指の左りに置き。右にて茶入を取り初の如く水指と三つ飾りにす。建水の上にて和巾を拂ひ腰に付け釜へ水三杓差し加へ。釜の蓋をして柄杓蓋置に掛け。水指の蓋を致す。此時客より道具所望す。一禮受けて建水少し跡へ引柄杓を建水へ休め蓋置も例の所に置き茶碗左りにて取り右に持ち替へ。勝手の方例の所に寄せ置き右にて茶入を取り。左手に受けて身を客の方に廻り前に置き和巾さばきて茶入を最初の通り拭。和巾持ちながら茶入の蓋を取り前に置き茶入口を和巾にて向ふ前と拭き。和巾は懐中し茶入の蓋をし我前に成たる所を向ふへ廻し例の所へ出し。茶杓袋も並へて出す○第五圖の如く柄杓蓋置持ち茶道口明け持ち入る。茶碗も持ち入る水指も持ち入る茶道口しめ見合

せ出て道具受取持ち入る

◉小角臺貴人へ風爐濃茶之事

茶杓は碗の中にて拂。和巾はしぼりさばき茶碗は貴人あしらひ添手す貴人への禮は體を廻りて向ひてするなり

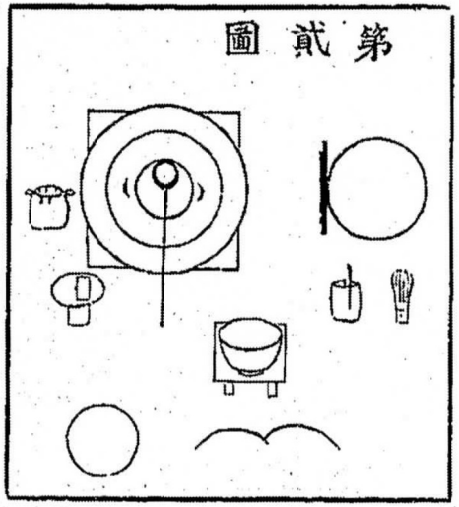
第壹圖



一風爐小角臺貴人へ濃茶は最初水指持出。定座に置き次に濃茶入左手に受右手を添へ持出。右手にて水指の眞前に飾り置次に茶碗（天目に筅杓巾ふくためて入）小角臺（水に濕してふき上け茶碗よく水にて洗ひふき

上け用ふ）に載せて持出て水指の前に座し。左り膝先に茶碗臺ともに手なりに置き茶入右へ寄せ定式の如く碗臺ともに寄せ飾る（この取扱ひ天目碗右手添へ小角臺の足切目へ左手の指四本又は三本入れ上の方より大指にて押へる氣味にて持ち茶碗又は臺の取扱ひ等持出るときも右の如くすべて右の如くに下皆倣之）茶入定座へ置合せ。水指と三つ莊りにす又次に建水持出。定座に置き柄杓蓋置定座へ出し。身を貴人の方へ向ひ一禮し点茶定座へ戻り建水直し氣を鎭め熟と身を備へ〇第一圖の如し碗臺とも両手にて膝前に置き。右手にて茶入を取り。小角臺と膝の間に置きたる儘すぐ左手と出逢ひに茶入の袋の紐を解き解口を延し。其茶入を袋の儘右手に取り。左手に乘せ右手にて袋の口を開け茶入斗り右にて元の座に置き。左手にある袋を右手にて風爐舖板と壁との間に置き（釣棚あらは其棚へ上る）和巾四方さばきして茶入を拭ひ臺碗の跡に置き茶杓も二度拭にして茶入の上に乘せ。茶筅出し茶入の跡に置き碗臺ともに両手にて手前へ引。和巾折返して水指の蓋を拭ひ（共蓋の水指

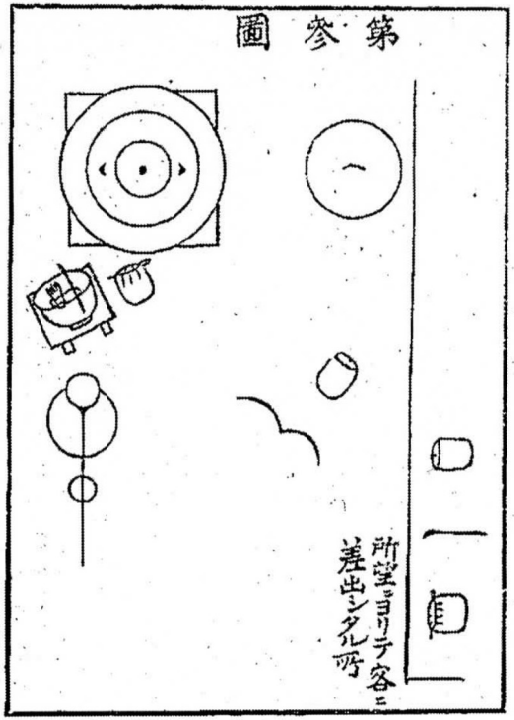
なれは拭ふに不及）茶巾を水指の蓋の上に上げ置き。和巾腰に下け右手にて柄杓を取り左りへ移し。釜の蓋をとり湯を汲み碗に入る柄杓釜に上げ茶筅とうし（茶筅不打）右にて茶巾持ち碗に添へて両手にて碗三度廻し添手して湯を捨る。碗をふき其茶巾碗へ入れ。小角臺にのせ茶巾とり釜の蓋の上へ上け置き。右にて茶杓取り左りにて茶入を取り茶を入れ（茶一人分茶杓にて汲み入れたるときは茶入の口ふくに不及廻し入れたるときは指にて拭なり。女子は和巾にてふく）茶入元座へ戻し茶杓も同し水指の蓋取り建水の上にて露を切り。水指の胴勝手付に表を客付にして。右にて持せ置○



第貳圖の如し柄杓右にて上より持左手添右にて持。水一杓汲み釜へ差入れ其儘湯を汲み。茶碗に入れ点茶して碗右手に持ち。左手すり込み茶色を見て又臺へ戻し左手臺を持ち。碗に右手添へ貫人方へ廻り臺を向ふへ廻し差上（疊縁まて身を進み差出し跡座へ戻る）時儀す貫人茶碗臺の儘取りこれを一口呑みたる頃例の挨拶致し定座へ戻り（女子は和巾腰に付くへし）水一杓差加へる貫人碗臺に載せ御戻し相成れば直に貫人の方へ廻り受取持て定座へ戻る。女子は茶碗臺操送り置て）碗の呑口を見て前に置き。呑口を向ふの方にして置く）此時貫客より一禮あれはこれを受け茶碗湯いすぎして茶巾碗に入れ置き又貫人の前に廻り。御薄御跡にて可献と挨拶して定座へ廻り戻り。碗水すゝぎしてすぐ茶巾筅碗へ入れ（茶巾にて碗外の雫をふきすぐ碗に入れ碗を臺に載せる碗ふき上げすに置く）和巾さばきて茶杓を拭ひ碗に載せ和巾腰に下け茶入右へ假に寄せ碗臺とも。水指前定座へ移し茶入置合せ。元の如く三つ飾にす釜へ水三杓指加へ釜の蓋しめ柄杓蓋置の上へ載せ。水指の蓋しめる此時貴人より道具所望あれは一禮して建水を跡へ引。柄杓蓋置を休め茶碗臺と

もに建水の向ふにうつし。右にて袋とり臺の右にならべ置。茶入をとり左に受て貴人の前へ廻り定式の如く和巾にて茶入をふき上げ。其和巾懐中す。（女子は膝先に置後にて腰につける）茶杓袋ともに差出す○第三圖の如し定座へ戻り杓蓋置建水持入る茶碗小角臺ともに持ち入り。水指持入る茶道口しめる。又戸を明て出て道具戻らば受取り持入る

第參圖



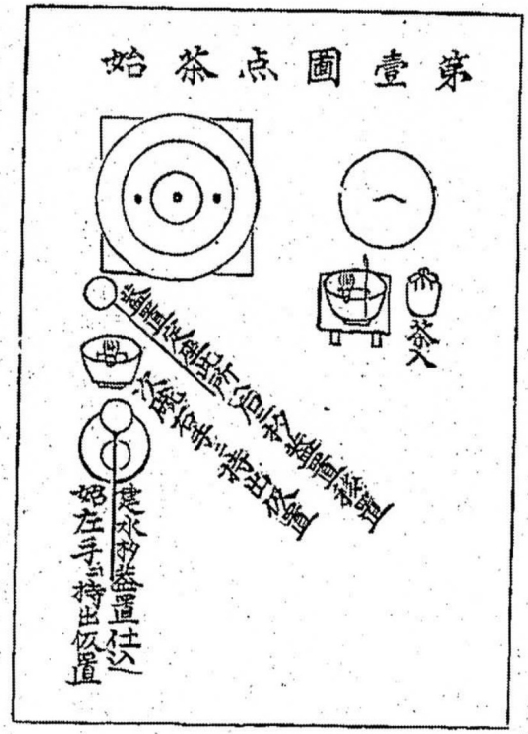
若道具所望なく又棚もなきときは先つ建水蓋置取入れ茶碗臺ともに持入る袋水指の蓋の上へ上げて持入る。若水指共の蓋ならば是非なく懐中して水指持入る

◉小角臺清次風爐濃茶点之事

小角臺清次濃茶は水指茶入茶碗等前の如く持ち出。次に建水に柄杓蓋置仕込み左手に持次茶碗茶巾茶筅仕込み。右手に持出建水假座に置き次碗定式（替茶碗の座建水の定座の向ふに置）柄杓蓋置定座へ出し。点茶の初第壹圖の如し貴人の方へ廻り時宜して本座に戻り。建水定座に直す熟と身を備へ。天目臺とも膝前に置き。茶入をとり臺と膝との間に置き。其手すぐ左手ニ出逢ひ茶入の紐を解き定式の通り和巾四方さばきして。茶入茶杓ふき定座に置き茶筅も茶入と置合す。茶碗臺とも少し手前へ扣へ和巾にて水指の蓋の上を二度拭ひ（共蓋はふかず）茶巾を水指の蓋に上げ和巾腰に付柄杓取り湯を汲み碗へ入る（總て風爐濃茶には中蓋中仕廻等無之）茶筅こうじ（茶筅不打）湯を捨て

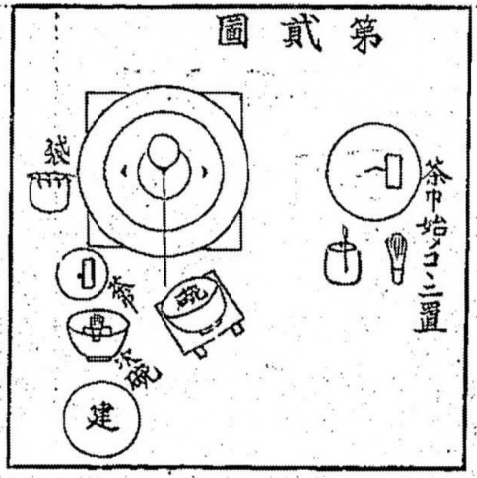
碗をふき臺に乘せ茶巾取り釜の蓋へ上げ。茶杓をとり茶入を取り茶碗へ貴人壹人分茶を入れ（茶入元座へ戻し茶杓も同し水指の蓋取り建水の上にて露を切り水指の胴勝手附に表を客付にして右にて持せ置。柄杓取り水一杓釜に入）すぐ湯を入れ点茶定式の如くして。第貳圖の如し碗両手にて一寸取り茶色を見て直ぐ又臺に乘せ左りに臺を持ち。右碗をかゝへ持貴人の前へ廻り居向ひ臺を向ふへ廻して疊の縁の外へ出し又身を縁際迄進み。碗臺とも貴人の前に進め置き。身を

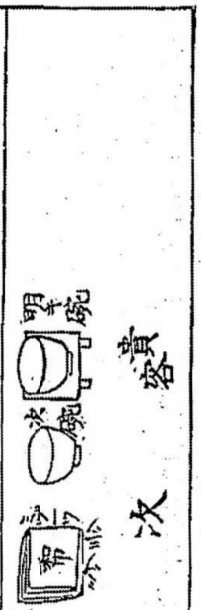
第壹圖　点茶始



少し跡へ下りて一禮して扣へ居る。貴人茶碗臺の儘とり一口呑みたる此例の挨拶致し定座へ居戻り（女子は和巾腰に常の如く付る）次の茶碗前へ移す茶筅は建水の向ふに置き。和巾さばきて茶巾を敷板客付前角を清て出し。和巾腰に下げ濃茶点るこゝ定式の如く茶入茶杓は最初のを用ゆ。茶巾茶筅は後に出したる次碗付を用ゆ次客相伴に差出すに懐中和巾を添ゆる第三圖の如し次客挨拶して茶碗丼に和巾を取りたれは定座へ居戻る。水一杓差加へる。末客茶を一口呑む以前に客の前に身を廻り定例多くは御殘し被下御相伴可仕と挨拶し直に又定座へ戻る。釜へ水一杓差加へる。扨貴人の茶碗臺共戻る受取定座へ廻る（女子は繰送り出入）前に置き湯すゝぎして茶巾碗に入れ又貴人の前に

第貳圖

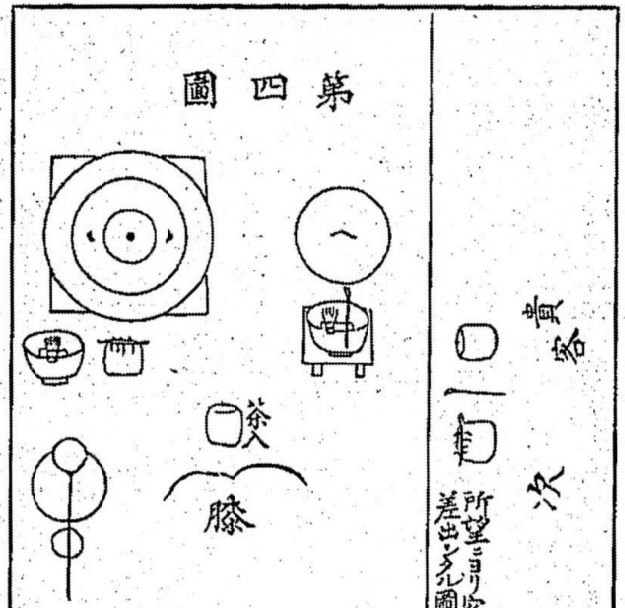




第參圖

廻り。御薄跡に可献旨挨拶して定座へ廻り。茶碗水にてすゝき茶巾茶筅茶杓とも仕込置き。和巾腰にさげ茶入を假座へ寄せ。前記仕込茶碗臺こも水指前左へ飾り戻す。これに茶入を置合すに茶入を置合す受取直に懐中

第四圖



此時次客より茶碗和巾ともに戻る。居直りの儘受取（和巾より受取直に懐中し后に茶碗を受取る）茶例の通り湯すゝきして又水すゝぎもし手にて露を拭ひ前に置き。茶巾茶筅等仕込建水の前假座に置き水三杓釜へ差加へる釜の蓋をしめ。杓を蓋置に載せ。水指の蓋しめ客より道具乞へは建水を少し跡へ引。柄杓蓋置建水へ掛け茶入を膝前に引置き。茶碗臺の儘水指の前眞中に移し置き。袋を次茶碗の

隣りへ移し置○第四圖の如し。茶入を左手に受て廻り定式の如く杓も客へ差出す定座へ戻り若し棚あらは柄杓蓋置棚へ莊る。建水左手に持ち次茶碗右手にて持入る。棚なきときは左に建水右に杓蓋置持ち入る。小角臺茶碗の乘たる儘持ち入る。又水指持入る次茶碗持ち入る茶道口しめる

新しき茶碗を二つ用意したる節は最初の濃茶の時常の通致し貴人より平人へ吸茶に致し萬事常の通りに致し薄茶の時今一つ新茶碗出し前にある通りに次き茶碗と二つにて点るなり

右の通りに候へども元は何れへ致しても清次さへ急度分り候へは宜し

◉客へ花所望之事

一客へ花好むときは中立の間に置花入にても又は掛花入にても水を七八分目程入れ置き花盆とち目を向ふにして左りに花右の方の向ふに水次手なりに置其前に花巾（花巾は常の茶巾を用ひ常の如くさはきて置く）花切小刀（利休形にて桑柄なり）水次（唐銅形有燒物も用）花巾の右に小刀柄を前にして少し出しかけ置如此にして軸脇に置く（但し薄板用ゆる時は板より持出る）客着座ありて亭主茶道口に扣居て御慰みに御生可被下と挨拶す。上客か又は巧者なる人相客へ挨拶して床前へ進み。花入の恰好能々見て花盆を持ち。勝手の方へ進み廻り疊の上に置き。花の組合せ右より左りへ持ち替。逆手に持て根を切揃へ。右にて花を持左手鳥渡掛けて花入へ生る。隨分手早く奇麗に生くへし生けて后直すこと悪し丶。花盆の上能々直し元の所へ上け置。本座へ戻り亭主出て水次に花巾を添へ。花入一盃に水を次。花盆持ち勝手へ入る。（板床又は疊床にても水ぬれあれは雜巾持出ふくへし）相客一人つゝ床前へ行花を見る末客迄見終りて后亭主も床前へ行。花見るへし花を生けたる人歸るとき花を揚け申へくと挨拶す。主は御蔭にて相樂しみ申度其儘可被下と挨拶す。左樣なれは御直し可被下と挨拶すへくして歸るなり。若し子細ありて花揚けて歸るときは懷中より紙拾四五枚も出し。其上へ花を揚け勝手付の方に

置くなり花を入れ様幷に心得方次に著はす
但し茶の湯中立の時には多分好まぬ方がよろし。然し好みたれは右の通なり成へくは常の參會の時樂しむ可き事なり

廻花之事

一茶の湯跡にて最初の花に又二三種添へ持出て。殘花も御座候間御慰みに御入可有と出すなり。作舞花所望の如し廻り花は成へく花類多き程よし。枝を伐ること跡の事心得へし。壹人生けて花盆元へ上けて置。相客主も壹人つゝ出て見るなり畢て次の人出て生けたる人へ御花上げ可申と挨拶して揚け。又生る事仝斷。亭主も跡へ出て花を見るなり。正客か又は巧者なる人の花なれは亭主出て水を次き花盆持入るなり作舞は花所望と同斷なり

花入心得方之事

一疊床は銅鐵物土器等の花入は薄板を舖。竹又は籠の類は。薄板を用ゆるに不及
一板床は何の花入にても薄板無し（但し薄板なき花入置樣眞中より疊の目一つ又は二つ程壁の方へ寄るかよし）
一竹或は土器類の花入はしめしぬれたる儘かよし
一名印等ある花入は名印の方客付へ向へして置也（但花入にもよる可し）
一釣花入釣樣床緣より花入の下迄壹尺三四寸程明ける。又は蔓物等下りし花は壹尺七八寸も上けて釣。但し花にもよる故能々恰好見合なり。舟は入舟の形を多分用ゆ（但へさきの方客付鰏一筋の方なり舟花入の事は數多し故にこゝに畧す）竹釣花入は宗旦より初る
一床のかまちより花前へ出ぬやうに生く可し
一花の數葉の數定めなし紅白の差別なし
一格別麁き口の置花入は花の枝を二本こみに用ひてよし。其外に込用ゆる事なし
一二重伐花入は下斗りか定法なり。上の重は水を一はい入れ置なり。然し花

により上下共に生るこゝもあり竹花入は利休より初る

一薄板は矢筈口蛤刃（二品とも眞塗なり）丸板（桐の木黒かき合塗何れも寸法定あり

一床諸飾の時置花入置様掛物により花入を勝手に寄せ置ことあり。座舗の模様恰好にて花入を少しねち向けて置ともあり。諸飾にても床柱に花生くること子細なし向素床にて柱に掛花入置花入釣花入等子細なし

◉客へ對して心得の事

一貴人の客なればとて茶の道の習如此也こて無禮と見ゆる仕方成がたし。差當其節首尾能く時の宜に准し貴人へ對して無禮不成様。了簡有べし。点茶の時は清次点にて別に作舞有り前に委しく記しあり

一客は亭主の意に不背ぬ様萬端心得べし。主は猶更客の心に背ぬ様に心得べし。是輕薄追從に非す溫和愛敬の心を以てなり

一貴人御客の節御詰に參る時は少し早く行待合の圓座煙草盆夫〳〵直し客揃時も勝手へ申込。中立の時圓座等の事萬事心得べし。昔町人ならば脇差刀掛へ不掛。刀掛下たきの上に紙をしき。柄を下にして壁に片寄置か又は待合の隅見繕ひ置もよし古例にあり

一沙門の茶の湯如法にして有はあり。無きはなきにまかせ一切に貪美なく。唯其儘にせよ世俗に倣ふ事なかれ

◉外題飾之事

一外題飾りと云ふ事昔よりある事なり。然し一と通りの掛物にてはすることにてはなし。掛物も外題もわけあるものならは尤もの事なり。是れは初座入に掛物を巻て軸盆に乘せて軸脇に置くなり。客より挨拶して乞ふて見るなり亭主より床より卸し盆にのせながら上客の前へ出す。上客より見て次へ廻すこと別の子細なし。見終て盆にのせ主へ返し。迚ものことに御掛候へかし

拝見致し度由可云。亭主掛物かけ盆取り入るなり。但し掛物がくるこき巻緒は名印の方に引名印なきこきは勝手付の方に引なり（但し手のとゝかさる所は掛竿にて掛る掛竿は壁にもたせ置なり）

◉軸飾之事

一軸飾りと云ふは大宗匠の筆か。又は名有古筆の文物等を巻物にしたるを床の上勝手付に盆に乗せ竪に置くなり。床縁より出る程長き物なれは横に置事なり。客亭主へ好むとき其儘に出す。上客より順に見末客より正客へ戻す。上客緒を解き少し開き巻緒は上下へ掛け巻込み開き見て次へ廻す。段々見終りて上客へ戻る。上客元の如く結ひ直して亭主へ戻すことなり

◉茶かぶき之事

一茶かぶきの事は茶の湯終りて廣間へ開き打寄り。樂しむか又は常のとき茶

友打寄。樂むことなり床の飾り常の如し。掛物か花を入れ置。床勝手付に料紙硯筥を飾り置。床柱に看板掛置（折釘打所にもよるへし大方は柱の釘なり）板に茶元の名を認め四方棚に飾る（但し棚物は四方棚に不限臺子類紹鷗棚袋棚等用ゆてもよし桐小卓丸卓江岑棚等は小さき故あしく總て大棚類をよしとす棚上に棗六つ盆に載置。棗の事茶の數によるなり茶三種のときは棗六つなり五種のときは十をなり然し茶數多きときは風味替る故三種をよしとす）前の棗蓋上に茶元の名胡粉にて書き向の棗は蓋裏に茶元の名を書き。棗の上に和巾廣けてきせ置棚と壁との間に折居を三つ（但し茶の數による五種のときは五つ置く）重ね掛置（一より先前へなだれ掛け置）亭主案内すると客此所へ參るなり（但し次の間にて待合するなり）初に床を見棚物の飾合せを見釜を見て本座に居る次客も同斷なり。末客も同し。亭主出て挨拶し例の通炭を直すなり。尤も胴炭も入れて隨分炭多く釜よく煮へる樣心得可し。正客香合好む事常の如し。客見終て正客へ戻す正客より主へ香合返す。受取持入る夫

れより菓子を出す（菓子のこと心得方あり）又菓子替るかよし（但時刻の摸様にてより料理出してもよろしく）（此時は定例の通膳を引夫れより正客初め一同手水を遣ひに立成へく早めに席入す）亭主茶碗持出勝手付に置。初の褁一つおろし茶碗と飾合せ。和巾を付勝手へ入建水持出て。蓋置定座に置。柄杓を蓋置へ掛一禮す。亭主の跡へ引續き通ひの人幷に執筆の人出て着座す通ひの人立て床前へ行料紙硯筥等取りて執筆の人の前に置。執筆名乗札を切（但し名乗札の紙は杉原紙二つ折にして夫れを四つに切。是にて紙壹枚八つ切になる一分を三つ宛切掛にして下に客の實名を認め上に茶師の名を認め置三つ切掛は茶三種の用なり又五種のときは五つの切かけなり）認め出來次第盆に乘せ（但し硯筥の蓋を用ひてもよろし）置と通ひの人正客の前に置と壹人分つゝ取りて次へ廻す。末客の前に盆を置と通ひの人立て持ち歸り片寄せ置亭主茶碗茶入膝の前に置き。和巾捌きして褁の蓋上を常の如く二度にふき定座に置き茶杓もふき褁へ乘せ。茶碗少し前へ引寄。和巾腰に付右にて柄杓を

取り左へ移し。右にて釜の蓋を取り湯を汲み碗へ入れ。茶筅湯すゝき終て茶碗をふき褁を取。茶杓にて茶三掛四掛すくひて茶杓茶碗へ掛け。両手にて茶を茶碗へ拂ひ入れ（但し和巾にてふくに不及）褁の蓋をきせ元へ戻し。茶杓にて例の如く茶を開け。茶杓元へ戻し湯を入れ。点茶して初め斗り持廻り。定座へ出す。通ひの人茶碗受取正客の前に置。正客次客へ會釋して呑みて次へ廻す。亭主身を直し茶杓棚の上客付に假置して直に其手にて上の褁卸し。水指の前に假置左りの手にて初の褁取り上。右へ移し盆の上元の所へ上げ。假置の褁右にて取り上。左りへ移し茶筅と飾合せ右にて。茶杓取りて褁の上に乘せ置く。褁の上ゆおろしは始終如此に上にのする時は右の手斗りなり。末客茶を呑みて茶碗下に置き候と通ひの人受取りて定座へ戻す。亭主受取湯すゝきし茶巾にて拭き。茶碗下に置茶杓取て褁の蓋取り。直に茶を茶碗へあけるなり（初斗りすくひて是れよりは始終皆々このことし）茶杓右に持ち居るなり茶点出す（但し二服目よりは身を廻らす。其儘にて茶碗常の通り定座

へ出すなり）通ひの人正客の前へ置。段々呑み三服迄は試の茶故同斷なり。試の茶終りて茶碗湯すゝぎして茶巾取て茶碗へ入れ。下に置て亭主より會釋す（但この會釋は本茶を出す挨拶なり）此前褄を替るとき身を棚に向ひ。茶杓取りて水指の蓋の上客付に假置して褄を盆へ上け。両手にて盆を勝手付へ廻し褄を一つ卸し身を直し。褄飾り合せ茶杓褄へ上け置くなり。初のごとく茶点出す。通ひの人正客の前に置く。正客呑みて次客へ廻す頃に一の折居取て茶碗出す定座へ出すと通ひの人受取。正客の前に置く正客思ひ入の札を入次へ送る。順々如此。茶碗戻り又茶点出し。二の折居出す方。折居は通ひ次第定座へ出すと亭主一の折居取て向ふに置。又茶点出し三の折居出す同斷二の折居戻ると取て。向ふへなだれに重ね掛けて置。本茶点終て茶碗戻ると。亭主受取りて下に置くときに客一同に一禮す。（但しこれは茶の禮なり）此前に水指の蓋を取り釜へ水一杓差加へるなり（但しこれ迄は水指の蓋こらす点茶終りて水さす故なり）茶筅水すゝぎは法の如くして仕舞ひて水指の前に茶

碗褄飾り戻す（但し是れは四方棚の扱ひ故水指の前に飾る臺子類紹鷗棚等總て如此の大棚は大目点に付大目に飾り戻す）三の折居末客の前に置くと通ひの人受取て直に定座へ出す（通ひの者の前に置くことあしく）三の折居亭主取入時は摸寄により程よき所にて取りて重ね置く（水指の蓋しめて直に折居取方摸寄か料簡あるへきなり）建水柄杓蓋置常のごとく持ち入る（此時分に執筆認めにかゝる）茶碗片寄せ褄を上へのせ茶碗斗り持ち入る。片口持出水指へ水を次き。片口持ち入る直に出て折居を一より取りて明け札を讀むと執筆認め札は幷よく並へて下に置き（かぎ盤の眞中なり）二三の折居明け札讀みて又前へ重ねかけて置。三段に重ね置折居は通ひの人盆に乘せ置き片寄置くへし。執筆認め終ると札は一所にして片寄置き。終に通ひの人取入亭主棚に向ひ盆を卸し持廻り客に向て下に置（又は不廻に棚の前におろしてもよろし褄を取蓋裏を見。一番何と聲を出して讀む。執筆認む二三も如斯執筆認め終ると盆を元へ廻し置。棚上へ上げ置て扣へ執筆當りし所に点を掛け鳥渡巻

て下に置と通ひの人正客の前に置く。正客より段々見終て通ひの人亭主へ見せ執筆又は通ひの人も見る事なり。

右茶かぶきの事は茶の湯とは別のこと故。規矩定法等定り難く指當り見計ひ程能く作舞ある可し

一紹鷗棚にては盆の置所は中の棚眞中なり折居は天井の勝手付に置なり水指四分の一引出しか又は疊の上へ引出しか。其点方に依て茶杓は勝手付棚の上に置くなり仕廻は定法の如し

一袋棚にては盆の置所袋の上に置き。折居は天井勝手付に置なり天井に置くときは札入れ終て又並へて上置なたれに置こと前のごとし。其外右同断なり

一茶杓假置は柄杓蓋置上る所勝手付なり

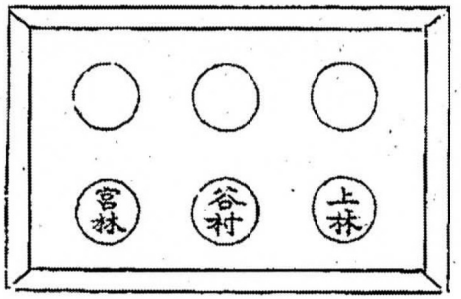
一水指の蓋の上へ茶杓假置のとき置悪き水指なれは假置のこと故見繕ひ程よき所に置きてもよし

一看板は黒塗にて胡粉にて茶元の名を記す

胡粉にて看板書様

○上林　谷村　宮林

長盆ニ黍飾様



茶カブキ之記

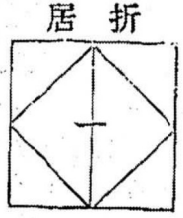
名乗	宮林	谷村	上林
全	谷村	上林	宮林
全	上林	宮林	谷村
全	谷村	上林	宮林
全	上林	谷村	宮林

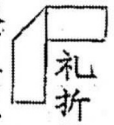
月　日

亭主　庵号等ヲ書

名乗札書様

上林	名乗
谷村	名乗
宮林	名乗





礼折様

竪ニ三ツ折横ヘ二ツ折圖ノコトクアケル名ノ方上ヘイタシテ置

一折居は紙薄黄土佐なとにて裏は銀紙なり上に一二三のしるしを書

一四疊半上座床の所は硯筥等客より送り執筆へ渡すもよし

一夜は点茶のとき手燭持ち出客へ明り遠き所ならは初茶点出し。跡に手燭出す通ひの人正客の前に置。手燭末客迄順々に送る。茶を呑み終るこ末客より順送りに正客へ戻す。記錄見る迄客方に手燭置なり。但手燭客方へ出すに不及

一四方棚にても茶杓假置は始終水指の上に置くかよし

一執筆別に出すに不及通ひの人より客の内へ頼む事

札切様一枚八つ切。通ひの人を客こ一所に早く出る事。茶掛目壹人前に五分つゝ

初の茶碗も持ち廻るに不及との説あれ共廻るかよし

初の茶呑ぬ時正客次客へ挨拶あり且亭主には挨拶に不及

次客茶を呑むとき亭主茶杓假置して下の棗上へ揚け上の棗下し置直に飾合せ

始終如此

試の茶終り茶杓假置し。下の棗盆に上け。扨棚へ身を向け盆を廻し身を元へ直し棗下し。茶杓上るなり。右茶碗戻ると湯すゝきして茶巾茶碗へ入れ。亭主より客へ會釋す。（但是は本茶出す挨拶なり）茶碗取上け拭き是れより常の如し但又一つの仕様は試の茶終り茶碗戻り湯すゝきし。少し向ふへ出し置。棗盆へ上け。身を向盆を廻し身を直し。棗下し飾合せ。此時客へ會釋してもよし茶は茶杓にて大概汲切。茶杓右の手にて持。左り斗りにて茶を茶碗へ明けること始終如斯

本茶呑むとき正客次客へ會釋あり。初こ二度なり次客呑むとき折居出す。通ひの人より戻す。折居は道具疊へ出す。亭主茶を点出したる手にて折居を取り並へて置一二如此。茶点終て客より一禮に不及。茶碗湯すゝきのとき亭主客とも挨拶に及はず。釜の蓋しめ柄杓を引。其手にて三の折居取りて重ね掛けて置。点終り棚へ向ひ棗を左りの手にて盆へ載せ。茶碗片寄建水へ休め置

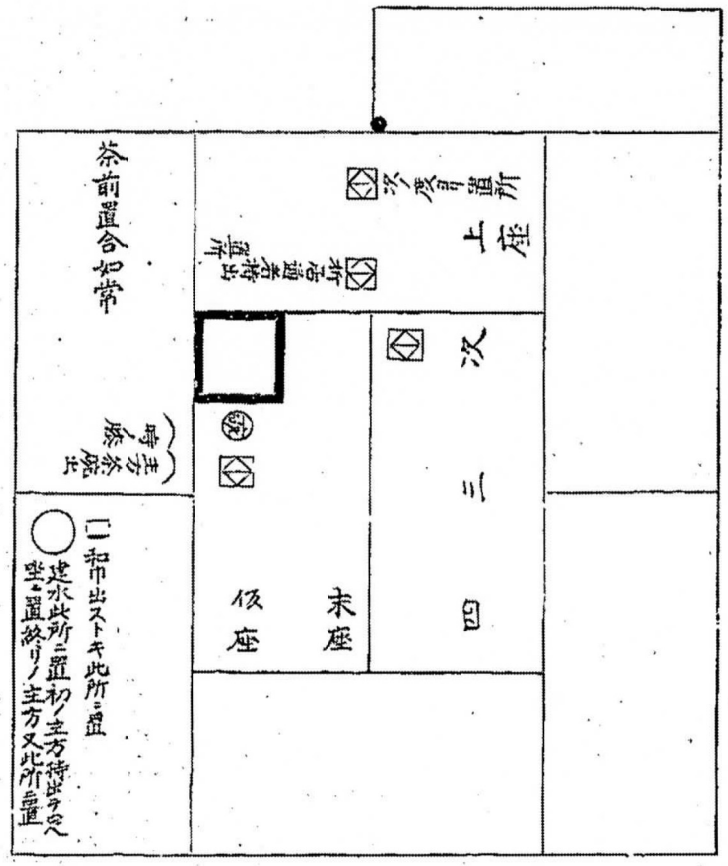
も片付。亭主客方へ向ひ一禮をするなり
四方棚のときはこの如く大棚物のときは柄杓蓋置を上けて一禮す。初めの和巾取るとき眞中より取り四方廻るなり

◉花鳥式之事

花鳥式　札　黑檀にて竪八分　文字金粉横四分半

一折居奉書三寸四方
札の文字各四時花鳥一字を書す。其數八枚にして花を主方とし茶を点。鳥を客方として茶を飲むなり
春（梅雉）夏（桐鶯）秋（菊鶴）冬（松鷹）
右四季に應して當季の花鳥を用ゆ
札の數は人數に合せうつむけにして折居に入れ置なり
一客各一禮して席入着座す

一亭主炭するか又は釜の蓋。拭ふかして假座に着す
一通者折居持出上座の前に置茶具飾置き定座に着す（銘々和巾帶せさるときは結ひたる和巾を建水と両手に持ち出て如圖置くへし）
一通者不用時は亭主持出へし
一上座より次座へ一禮して折居取り。札を前に置き折居次へ送る。次第順之（但し札は折居にある儘うつむきにして置く）
一末座折居取り札を出し。折居前に置く時各札を一時に見て當季の花の札取りたる者花と名乘り主方となる
一末座より札を折居へ入れ段々上へ戻し。上座に至り圖の所に置く（尤も札は裏向にして折居へ入る）（此折居上座の者如圖疊緣外に假置するを境に花の札を取りたる主の者あこへ退き立て。後の疊の眞中を通り建水和巾取りて立つ）
一今花と名乘たる主の方折居へ札を入れ上へ送り戻し（最初は其折居）上客



迄戻り疊縁外に扣置たるを見て自ら立て後へ下り疊の眞中を通り。建水と和巾を持。茶前へ行柄杓蓋置を出し置て一同へ一禮すかり和巾は取捌て腰にはさむ（再度より花の札取たる主は其折居末座より上座へ返戻する時自身の札折居へ戻し入れ。折居上座へ戻たれは直に立て後の疊へ下り茶点前へ行くなり）

一主方茶前へ行跡座へ次者操上げ座す（再度よりは跡の座へ假座より行）

一主方茶杓を取るを見て上座より折居の札を取りて折居次へ廻す事前の如し（但し次禮は最初斗りなり次の度よりはなし）但し毎度此の通りなり假和巾は建水の向に置

一末座札を取折居通者の膝脇に置

一通者折居取て主方の茶碗出す座の右に并に置

一通者なき時は末座より主方の茶碗出す所の右の方に并へ置

一主者点茶して座を少しく開き。茶碗出し折居取り札を出し持ちながら折居膝の前に置く時各札を一時に見て花と鳥とを名乗る（花は主方鳥は客方）

一主方札折居に入れ元座へ（向ひむきにして折居）出し置立て假座へ座す

一通者は此内に立て茶碗持ち。今鳥と名乗たる方の前に置。已か座へ歸り折

居を末座へ遣す

通者なき時は鳥の札引たる者出て茶碗引。茶を呑。折居は末座の者出て取（茶碗も時に依り末座取次事もあり。惣して通者不用のときは各座をしめて着く）

一、末客の者折居を取札を伏せて入れ上座へ順に戻す

一今花と呼たる主の方へ折居廻り候はゝ札を入。上座へ送り直に立て茶前に行（最初一度は折居上座へ戻し。畳縁外に折居扣置てより立て茶前に着するなり

一前主の方假座を立て次の主方の跡座へ着す

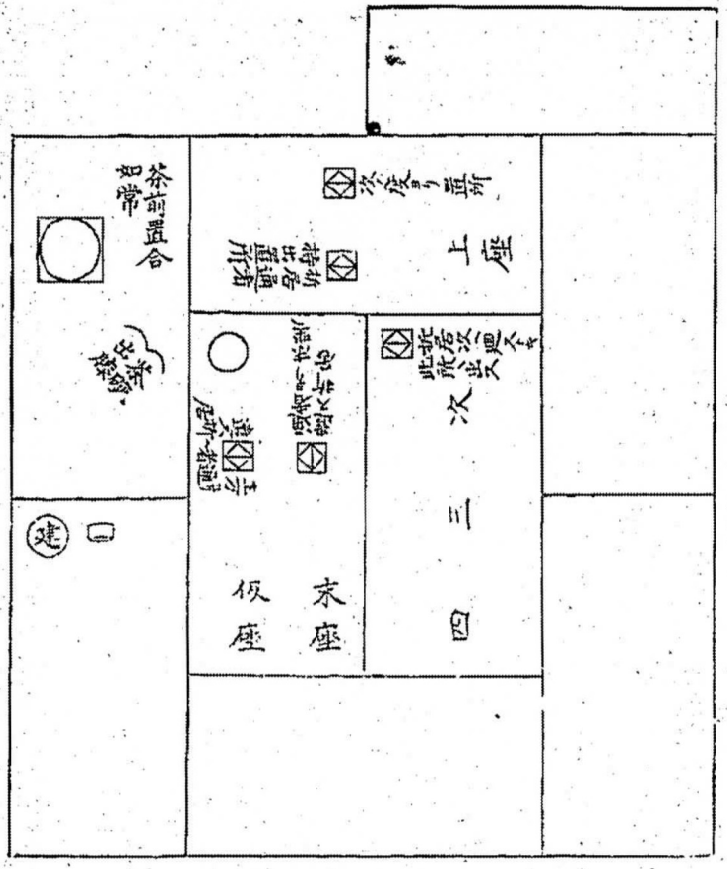
一通者立て明茶碗取り主の前に置

今鳥と呼茶を呑みたる者。主茶前に着座なれは直に茶碗元座へ戻すべし。但し通者不用時の取扱ひなり

一上座迄折居廻り戻り候はゞ。上座折居取りて畳縁外に扣置。是れにて壹周すむ

一主方鳥の札を取りたる時の事（先茶点出し。折居へ札を戻し入末客へ折居戻遣置立て假座へ移る通者其前へ茶碗をなをすべし主方是より客になる）

一主方花の札を取りたるときの



事（先茶点出し折居を開き。花こ呼ひ折居へ札を入れ元の座へ戻し置身を茶前へ戻る通者茶碗を戻す茶点るなり）

花鳥式仕廻之事

一上座仕廻へき時を見合せ。折居隅かけ主方迄廻す。如例同時に札を見て鳥の札取りたる者斗り名乗なり（此時主方直に茶碗仕廻なり）

一主方仕廻時折居隅かけにして（主方前に置もすみかけにして置）上座迄廻し引たる札を不残入れ折居上座の方へ如例置なり

一客方茶碗を返戻す。主方取て下に置一同へ一禮す（但しこの時主方鳥の札を取りたるときは膝を開きたる儘茶碗を取。茶を呑み終り茶碗持ちなから居直り下に置きたるとき一禮する）

仕廻樣如常（銘々和巾帶せさるときも茶杓をふきて腰にはさむ）

一亭主は主方の水指の蓋しめるとき座を立て最初の假の座へ着す

一主方は建水柄杓蓋置持立て少し退き。最初通者折居置たる座へ置。腰の和巾も取て下に置）立て座に着（亭主立て假座へ移たる跡座へ着）

一通者は建水初茶具を勝手へ持ち入る

通者は不用時は亭主立て建水初茶具勝手へ持ち入る

一上座は折居を向ふへ廻して最初通者の置たる所に置。通者はこれを持ち入る

通者不用ときは亭主折居を持ち勝手へ入客座を立つなり

札を引式

一花の札を取りたる時。引かんと思はゝ名乗て後札を仰むけ置き。戻る折居の廻りたる時。先つ我札は入れす。折居の内なる他季の札を一枚とり。初の札に并へて仰向け置さて初の札を常の如くうつむけて折居へ入れ。上座へ廻し引たる札を持て立。茶前へ行。札建水の向ふに仰向けて置（疊みたる和巾あれは其上に置くへし）

扨茶を点膝をひらかすに茶碗を出す。此時折居は主方へ廻さす。末座に留置

（惣て末座に不限札を取盡したる所に折居は留め置くなり）

主方茶碗を出すこと其儘一同に札を見て名乗なり。抓札を持て立座に着けは則ち札は膝前に仰向け置くへし（但し假座も同斷）

次の度よりは折居廻るこき常の如く上下へ取次く斗りにて札は不取なり。但最初の花は不可引

一鳥の札を取りたる時。引んこ思はゝ右の如くにして札を取替へ。直に前に置。茶を呑むなり

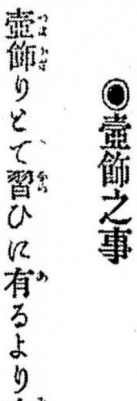
一主方のこき花の札を取りて引かんこ思はゝ其札は前に仰向け置き。折居を取り上け。押廣げこくこ開き箱のやうにして末座へ廻す（通者これを取次こと幾度も此のことく取次なり）末座其儘箱の樣になりたる折居へ札を入れ。折居開きたる儘にて又亭主へ廻す。主方其札を取て初の札に幷へ置。さて初の札をうつむけて折居を常の如くたゝみて末座へ戻し。引たる札を持て居直り。札建水の向ふに置き。茶を点るより以下前に同し（惣て引たる札と引んと思ふこき鳥か花の札こ開きたる折居へ入れる札こは必す仰向けに置こき文字をろくに）

一主方のとき鳥の札を取て引んと思はゝ右の通折居を開きて末座へ廻し。札を取替。持て立假の座に着て札を前に置き。茶を呑み茶碗を返して又後札を持て立。座に着札を前に置なり

◉茶筅飾り之事

一茶筅飾は元不審庵の席にて江岑宗佐か工夫致したる点方なり。不審庵は茶道口道具疊の前にある故。追々出入六つヶ敷故。皆飾り付置建水柄杓蓋置斗り壹度に持出濟樣にしたるものなり。茶筅飾りは四疊半の席にては不好なり是れは棚抔も出し候もの故模樣何れこもなるもの故なり。其外は隨分用ひ候

て宜し。目上の客にてもふしつけに當ることにてはなし。飾り付点方等左に記す



茶巾はふくためて置。茶杓はあをむけて置。水指共蓋なれは水指の上に茶杓不置茶碗へ圖の通りふせて懸る

点方は建水へ柄杓蓋置を仕込み持出。例の通柄杓引置左にて茶碗持。右にて茶入を上より一寸持て前に置き。是より定例点茶法茶儀指掌風爐濃茶点第貳圖其二に大凡見ゆ。但茶筅飾の茶巾は皆ふくため茶巾を用ひしぼり茶巾の取扱は省く。同第貳圖其二の如し。茶入の袋を取るより始め点茶仕廻迄追振の通替る事なし

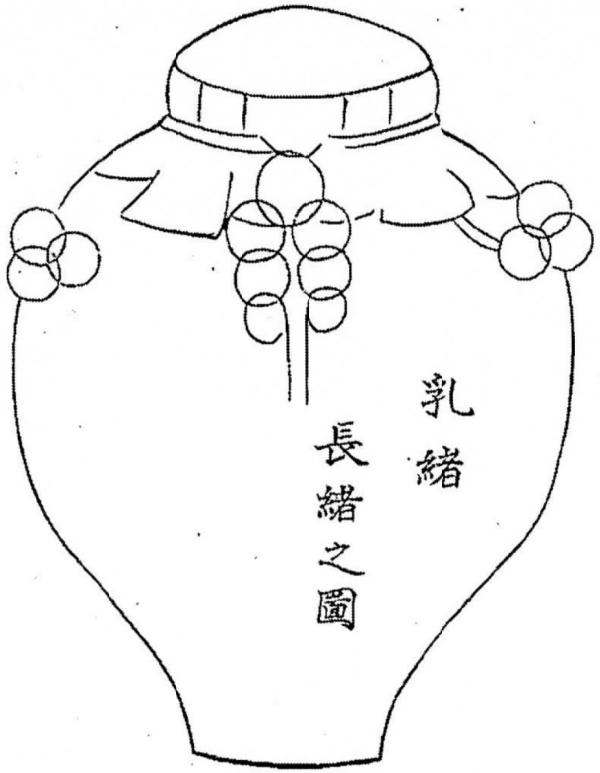
◉壺飾之事

一壺飾りとて習ひに有るより右は席の床に紐懸りの壺を初座に飾り置事なり色あり。初ての口切には宇治の封印の儘飾る。二度目の會は手前封印にて飾る故客入候上。手前の封か宇治印かを亭主へ尋ね。宇治印なれは早く所望して亭主に下へおろさせ見物する手前封なれは寛々見て宜し

客一統一覽の上右壺を亭主持ちて入。あなたにて封切るなり。

茶壺の封印を切る事。紀州の御先代宗佐に被給付。封印御切らせ被遊候節右至て大切の事なりご御意有之候てより。宗佐家にては壺の封印切る事は素人へは傳授不致筈に成。外の千家にても右に習ひ候由。右の通壺飾りごとも勝手にて封切候故習はひでも隨分事の濟むことなり

◉壺飾りの圖并に壺口切

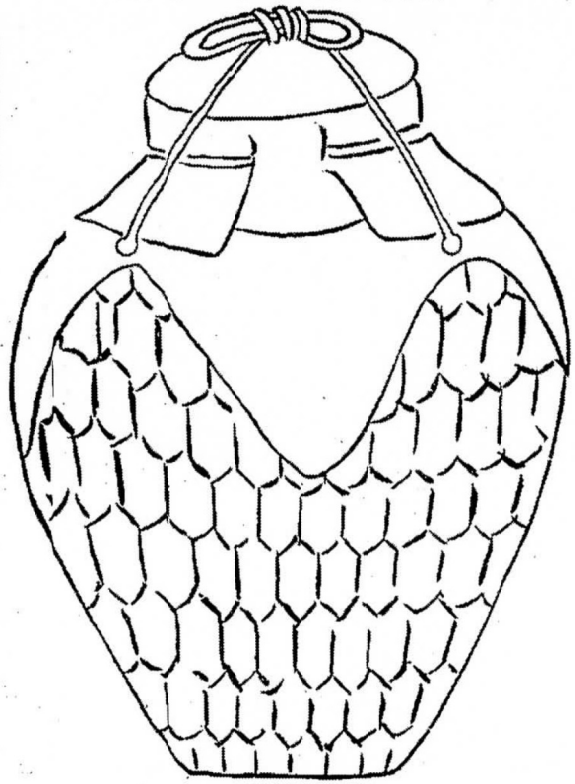


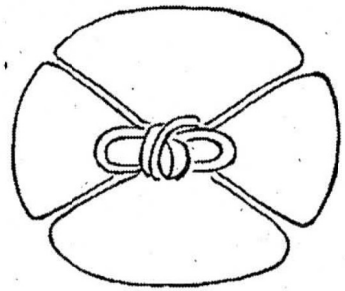
此飾りは書院飾りにて床。或は違ひ棚の下抔に飾り置く事なり。

客も其儘見物して御壺拝見致度御下げ落し被下候様にとは言ぬ事也

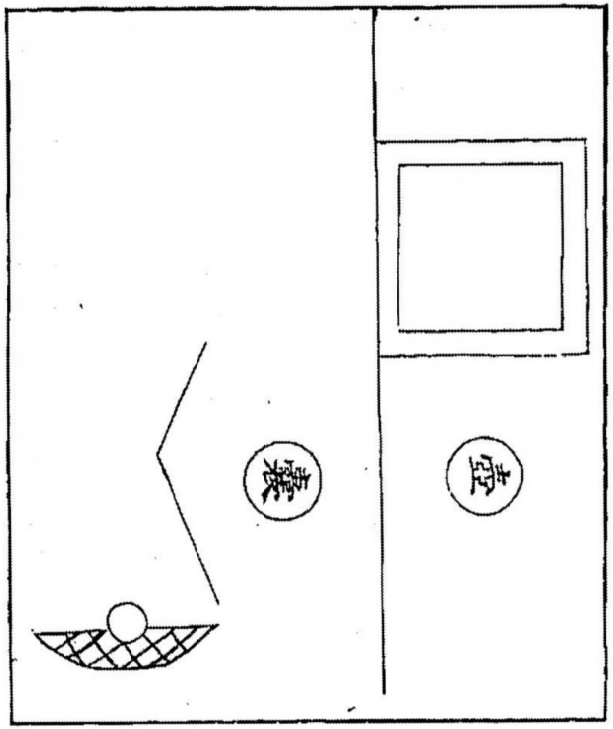
右數寄屋には不飾物の由

◉網懸け取緒之事





是は口切茶の湯に席の床の眞中或は勝手へ付て飾り置なり。口切茶の湯は何方にても飾り置て宜し



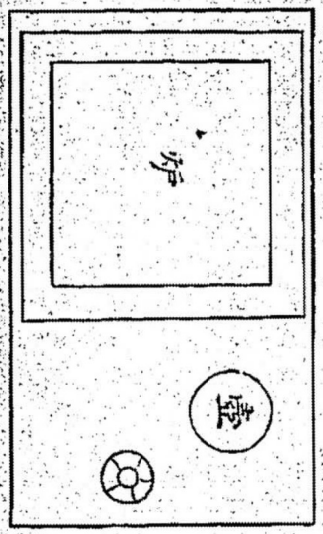
一客席へ入り。亭主出挨拶終りて御壺拝見致し度間。御下し被下候様にと云ふ。亭主床前へ寄り。壺を両手にて持ち。道具疊へ上しさり圖の通り前に置き。網の紐を解き。下へさけ置き。壺を向ふへすゝめ置。網の紐の先きを左手にて持ち上へあけて中程を右の手にて持ち二つに致し。右にて勝手の膝際に置き。壺を前へ寄せ取紐を解き両手にて二つに折右にて網と一所に置て。口覆を両手にて取り。網袋に圖の通りにも

たせ掛けるなり

扨壺を圖の所へ出して口覆網幷に取緒ともに一所に右の手に持ちて入り茶道口しめるなり。若し客より口覆を好めは圖の通りに出すなり

亭主水屋へ入り候上にて客順々に手に取り見物して元の所へ返し置く

但壺大きなるか長き壺の節は亭主よりもねせて底を客の方へ致し出す客もねせて置順々に手に取り見物するなり



客へ出す所も又客より返す所も此の圖の通りなり

扨壺返り候時分亭主出る客より挨拶して。口覆右にて取り両手にて壺の口へかぶせ壺を持ち入りて炭にかゝる

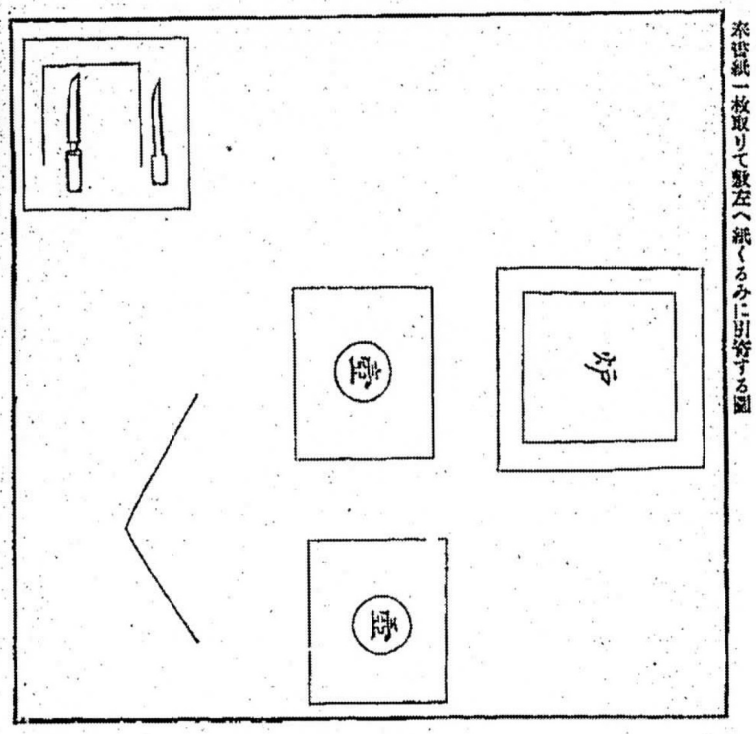
右は口切所は水屋にて濟す積りの仕

方也。但し宇治の封は蓋の上に合印壹つあり。一度口切候壺は手前の封印宇治の印の下に壹つ押てあるなり

席中にて口切る事大傳授にて容易に不致事に候得共我等執心に付。傳授致候旨可秘々々

右は壺客より返り候頃出て口切可申旨挨拶致し。奉書一帖其上に花切小刀を乗せ持ち出。圖の所に置き右の手にて小刀を圖の所へ寄せ。奉書を右にて持ち左りへ一枚右の手に取り。圖の所に敷壺を其上へ上げ。右にて小刀を取り壺の蓋を左の手にてをさへ廻し切に致し。熟と切はなし。小刀圖の所に置。壺を敷紙くるみに圖の所へ引寄せ置く

又右にて奉書を取り。右に持ち圖の所に置。壺の蓋を左にて取り圖の所にたてかけ置き。壺を横にして両手にて廻し。明けに詰茶を出し。袋茶見へる所にて敷紙の上に置て出したる詰茶を両手にて紙くるみに持ち。そろ〳〵と壺へ入れ紙は假に壁きはに二つに折て置き。壺を圖の所疊の上へ寄せ。敷紙を



奉書紙一枚取りて敷左へ紙くるみに引寄する圖

取り。最初の紙と一所にして左りに持。臺の奉書持ち上げ。其下へ入れ置壺を持ちしさる。水屋にて介添に渡す。介添役より押し板に糊と筥とを用意致し居て直に口張りをする。亭主出御茶挽せ申すべくと云ふて。木具共に持て入り。直に炭にかゝるなり

◉紹鷗棚点茶之事

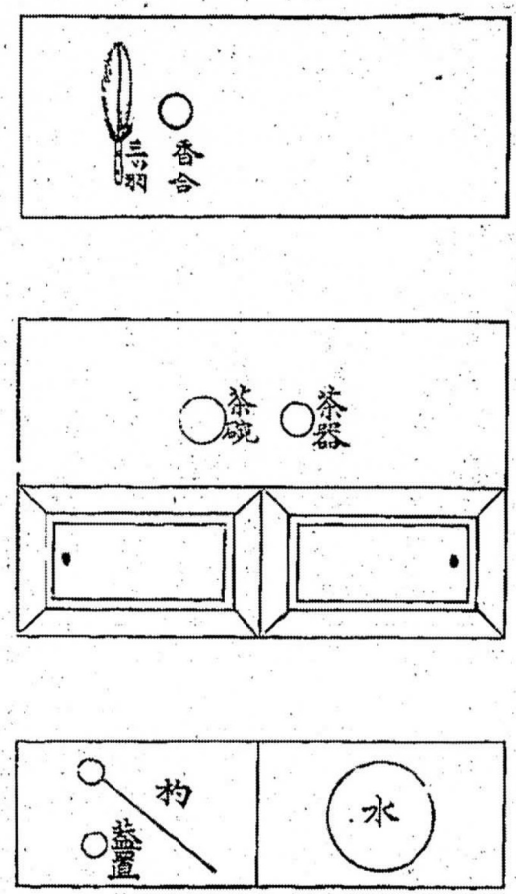
一紹鷗棚は爐斗りに用ゆ。檜木の溜塗なり下に貳枚襖あり。鳥の子紙にて張大べり小べりあり。大べりは緞子。小べりは古金襴大内禮なり。置所は臺子と同前なり。天井の置合は勝手の方に寄せて三つ羽香合を置。炭の時炭斗灰器持出定座に置き。棚に向ひ右にて香合とり。左りに移し右にて三つ羽取り定座に置き。香合右に移し是又定座に置。炭手前例の通り替ることなし。釜は勝手の隅に引寄せ置く。臺子と同斷なり。又平目のころよき炭斗は天井に置くこともあり。其時は香合三つ羽も炭斗に仕込みて。天井の眞中に可置なり。中棚に眞中に茶器茶碗を置くなり。襖の内客付に水指勝手の方に杓蓋置入れ置くなり。この手前は水指の大小により仕樣二品あり。紹鷗用ひられしは砂張。樂只齋は萩の水指なり。是れは襖立置ては水指入れられず依て先水指を入れて襖立るなり。点茶の時例の通建水持出。定座に置（か樣の水指のときは）勝手付の襖のつまみ右にて壹寸斗り明け。左の手にて押し開け柄杓右にて取出し。左りにて柄杓の合をうつむけ。建水に掛け右にて蓋置を出し建水の跡に置。襖のつまみ右にてつまみしめ。身を鳥渡客付の襖の方に向ひ左にてつまみを持ち。壹寸斗り明け右にて押し明け（襖の押し明け樣客付勝手付共に襖の緣へ手を掛明る）水指を四分の一程引出し。茶器茶碗棚の眞割て左右に置柄杓蓋置定座へ出し。一禮し点茶の次第替ることなし。即ち大目点前なり。点茶終て水指の蓋をしめ。柄杓を取り建水へ掛け。蓋置右にて取り左りに受。棚前へ廻り建水の跡に置き。茶器茶碗を元の如く上げ（尤も茶碗ふき茶巾しぼりふくためて仕込み入る）身を直し水指元の通り奥へ入る襖のつまみ右にて持ち。壹貳寸しめかけ左につまみ持。襖しめる身を勝手付の方へ直し。右にて襖のつまみ持。壹貳寸程あけ左にて襖の緣を押明け柄杓元の如く入蓋置も元の如く入る。襖初の如くしめ。建水持入る片口持出襖開け水指を出し。水を張其外常の如し

又宗旦好みにて小さき水指を入れられたり。其時は初め水指の方の襖を明け水指を前の疊に出置。襖をさし茶器茶碗を卸し勝手付の方の襖を明。柄杓蓋置を出し。定座に置襖をしめ茶点るなり。仕廻のとき水指を前の疊に出し置きたるときは水指の蓋をして勝手の方の襖を明け。柄杓を取り入れ。蓋置をとり柄杓と置合せ。襖をしめ茶器茶碗上げ建水持ち入る。片口持出て水指の前に居。片口を左りの脇に置。水指の蓋をとり水を差し加へ水指の蓋をして。襖を明け。水指を入れ襖をしめ片口持入る

一柄杓蓋置を入れ置くこと。水指四分の一引出すときは。杓の柄を右に筋違へて置。其前に蓋置を置くなり。又水指を前の疊に出し置くときは。杓の柄を左りに筋違へて其前に蓋置を置くなり。左右ともに合を仰向けて置。この棚四隅の柱下にのびて疊ずり付たるを引掛棚と云ふ。紹鷗好棚は足なし

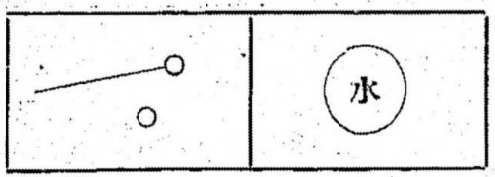
一濃茶の時は初入棚の上に三つ羽香合。中棚に濃茶入斗り荘り置。后座入には水指清めて疊の上に荘り。茶入も疊の上に大目点の荘り合せ。薄茶入は中

棚に飾り。和巾は天井の勝手付に常の如くたゝみて置点繰けの時茶杓假置の場所は中棚の勝手付なり



（襖の内置合。如此是は水指四分の一引出す置合なり水指の蓋棚の内に向ふに落しかけ置なり又は割蓋の蓋もあり其時には蓋の前を右の手大指を上にして持ち。裏返して我前の方を向へして重ね置く蓋をしめる時は初め置きたる時の如く両手にて前へ取出し又表返して右にて

しめる棚の置所は爐の臺子と同前点茶のとき居すまい置合せも臺子と同前大目点前なり）



（この置合は小さき水指にて前の疊に出す時の置合せなり。柄杓蓋置如此柄を左にすちかへて入れ置なり杓ごる時左にてとり右にこり直し蓋置に掛くるなり茶入茶碗棚の前に卸しある故柄杓右にすちかへては柄杓とりにくし）

（襖の立様は勝手の方を内にして客付の方を外に立るなり）

◉自在竹釣釜之事

一自在は中柱ある座舗には不用。ひるかきの打様は何れの座舗にても亭主の右にかきの先向やうに打。然れども向切陽爐等にては鍵の先亭主の前になるやうに打なり。自在の掛やう小猿の付緒右にしてかきを前にするなり。炭の時諸道具置事常の如く火箸出し尤も其前に三つ羽を卸し。直に釜舗定座に出し。左りのひじを膝に付け。左の手に鍵を乗せ右にて小猿を上より竹に添へ持。かきを上にあけ左りの手にて鐶を持ち。右にて弦を鍵のきは上より持ち。鍵をはづし釜舗に置。左りの鐶をはづし。左の手にて弦を前の如くもち。右の手にて右の鐶をはづし。弦は壁に立掛置くか又は壁きはの疊に鍵を掛たる所を向ふにしておくなり。棚物のときは棚の勝手の柱の前に半分程出し。掛け置くなり。仕廻のときは鐶を客付を上げ勝手を上げ。左りにて弦をこり。爐に向ひ右にて右の鐶をかけ。又右にて弦を持ち左にて左の鐶を掛け。直に其手にて釜と鍵に掛け。前の如く左の手にかきをのせ右にて小猿を持ちよき程に下るなり。夫れより釜舗を炭斗に入る仕舞常の如し。点茶の時は別の子細なし柄杓も如常。釜の内に入る姥口の釜は縁に掛け置く。又雲龍釜などにて湯の多く柄杓かけにくき時は。縁に掛け置く事もあり。時宜によるへし

一自在總長さ四尺七寸四分。節七つ然れとも座舗により。寸法不定。竹の切

◉自在竹釣釜之事

口より爐縁迄九寸より壹尺壹寸迄見合

鎖

一鎖は何れの座舗にても用ゆ。炭の時例の如く釜の蓋をしめ。三つ羽を卸し火箸を出し（但し平炭斗なれは出すに不及）釜舗定座へ出し右手にて右の鍛をもち左のひちを膝に付け。左りの手に鍵を乗せ熟と受け。鎖の小鍵を右にてはづし上にあげよき程に小鍵を掛け。左にて鍛を持ち。右にて弦を持ち釜舗に置きこれより釣鍛等の取扱は自在と同し

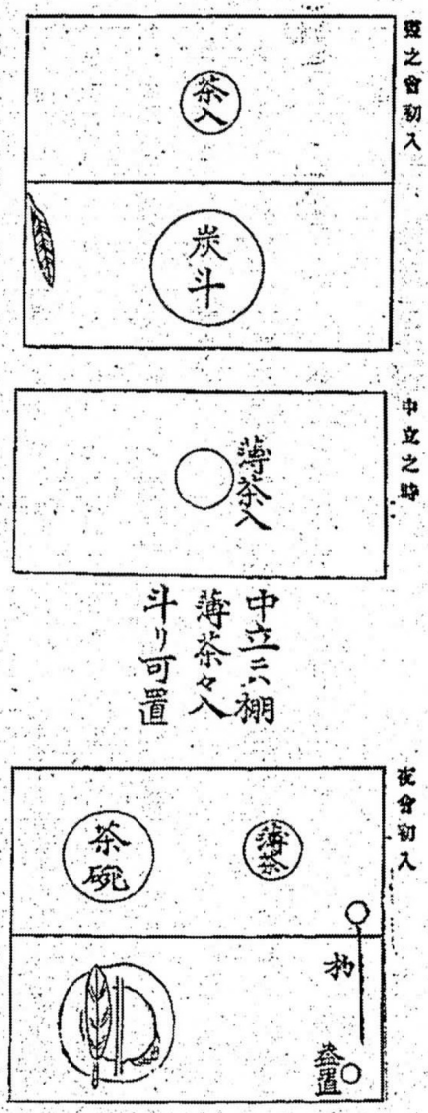
一鎖はあづきくさり。いぬきの鎖。南蠻くさりなど言あり。弦は形の極りたるは雲龍釜をつる眞鍮の木爪釣とふこんは釜をつる。鎌の刃と言ふ二色あり

自在

是れは本式四疊半に用ゆるを利休形とするなり。自在を天井高き所に釣ならは爐縁の上ばより竹の木口迄の間。壹尺壹寸に明けて自在こ天井この間不足の所は鎖にて釣るかよし

前編小棚物九卓四方棚桐小卓江岑棚等杓蓋置二つ飾り正誤棚に向ひ両器持出水指と三つ飾りにし蓋置右手にて取り左りに鳥渡受右にて膝前に置き柄杓右にて取り左手添へ左りにて蓋置を取り右手柄杓の方へ持ち込み勝手へ入り清めて建水へ仕込み持出柄杓蓋置定座に置又江岑棚にては茶碗持出曳出しより和巾出し腰に付炭茶杓等も出し曳出しを透し水指と三つ飾りにして杓蓋置勝手へ持ち入り清めて建水に仕込み持ち出杓蓋置定座に引き客へ一礼す爐風爐とも何れも同断

◉堂庫点茶之事



一堂庫の濃茶は初座下の眞中に炭斗棚の眞中に茶入勝手の方の釘に三つ羽かけ置なり。中立後は棚の眞中に薄茶入置くへし。其外に何も不置。濃茶仕廻

◉堂庫点茶之事

て柄杓蓋置堂庫に入れ。高き釘に柄杓をかけ。其下に蓋置を置くなり。客へ道具出し。茶碗堂庫に入れ薄茶入と置合すなり。水指も堂庫へ入れ地板の眞中に置。戸を立て建水持ち入る。片口持出戸を明水指の蓋を取り。水を差し入水指の蓋して戸を立。片口持入る客より道具返らは受取左の方に置。堂庫の戸を明け。茶杓を鳥渡清め茶碗にかけ。茶入と袋は勝手へ持ち入る。薄茶の仕廻のときも右同斷なり

一夜の會には初座には棚に薄茶入。茶碗置合せ柄杓は高き釘にかけ。其下に蓋置を置き地板に炭斗香合三つ羽仕込みて眞中に置なり

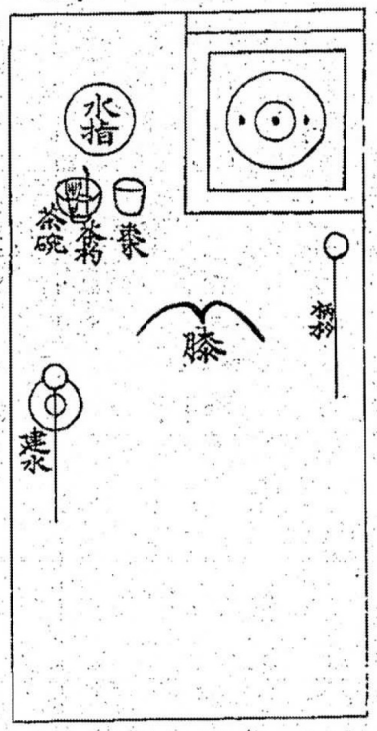
◉向切炭手前之事

一向切炭手前のことは前編圖を以て悉しく著す故に爰に略す

◉仝薄茶点前之事

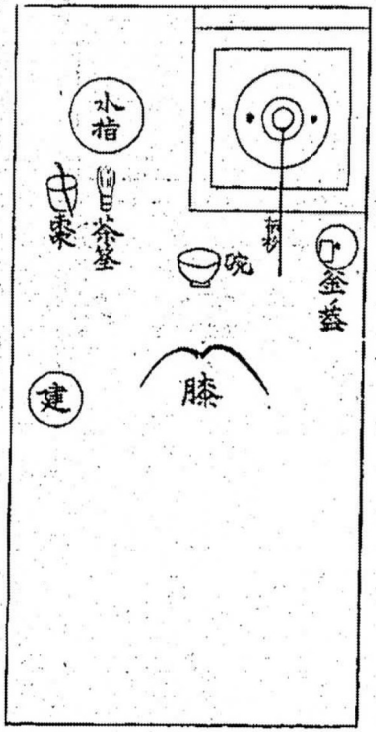
一最初水指持ち出て。圖の所に置次に右に棗左りに仕込茶碗持ち出。水指に三つ飾りにす。建水に杓蓋置仕込みたるを持ち出。茶道口をしめ建水圖の所に置左りにて柄杓を取り。右にて蓋置を取り出し。爐縁の前右の方圖の所に置柄杓右に持ち替へ圖の如く柄杓を引一禮す。○第壹圖の如し。身を熟と居定め建水を直し。左りにて茶碗を取り。右に持ち替へ。圖の所に棗右にて取り。茶碗と膝との間に置き。和巾さばき棗を拭ひ。左りにて圖の所に置。和巾さばき直して茶杓拭ひ。圖の如く棗の上に斜めに乘せ。茶筅出し圖の如く水指の前

第壹圖



に置き茶碗少し前へよせ。和巾腰に付右にて柄杓取り。左りに移し右にて釜の蓋を取り。茶巾を出し蓋にのせる。湯を汲み碗へ入れ。柄杓釜に掛け茶筅ごうしゝて元の所に置き点茶の次第替ることなく。茶碗は炭手前の時客より香合所望して主より出す所へ出す○第貳圖の如し点茶終り客より両器所望すれは例の通り建水少し跡へ下げ柄杓建水へ休め。建水の跡へ蓋置を置き。左りにて茶碗を取り右に持ち替へ建水の前勝手の方に置き。右にて棗を取り左手に受け。客の方へ向ひ常の如く拭きて出す。茶杓も出す。建水柄杓持ち入る。茶碗持ち入る水指持ち入り茶道口しめ見計らひ両器受取持ち入る

第貳圖



◉向切濃茶之事

一後座に水指の前に茶入飾り置。客席入着座すれは仕込み茶碗前に置き。茶道口明け持ち出水指の前に座し。茶碗右にて勝手付に置き右手にて。茶入を右の方へ寄せ。右手にて茶碗をとり左りへ持ち替へ置合せ。右にて茶入を直し三つ飾りにす。仕込み建水持ち出て。茶道口閉め例の所に置き。柄杓蓋置定座へ出し一禮し熟と身を定め。建水定座へ直し左りにて茶碗を取り。右へ移し前に置き。右にて茶入を取り。茶碗と膝との間に置き。（茶入の袋の紐を解き。取扱ひは別記第拾號にあり）袋より出して定座に置き。袋は隅棚あらば棚へ上ける（但し隅棚なきときは建水の跡の方に置く）茶杓も二度拭ひして茶入に乗せ。茶筅出し水指の眞前定座に置き。和巾折返して水指の蓋を

拭き（但し共蓋なれはふくに不及）茶巾を出し水指の蓋の上に乗せ。茶碗少し前へ引き。和巾腰に付け湯を汲み碗へ入れ。中蓋す。柄杓は蓋置へ掛け。茶筅とうし致し湯と捨て。茶碗とふき茶巾は又水指の蓋の上に乗せ。茶杓右にて取り茶入左りにて取り。定例の通碗へ茶を汲み入れ。茶杓茶碗に掛け。茶を廻し明け。茶入の口。指にて拭ひ懐中にて拭き。茶入の蓋をして元の座へ戻し茶杓とり茶をさばきて茶碗の縁にて鳥渡拂ひ。茶入へ乗せ右にて柄杓取り左りへ移し。釜の蓋取り柄杓右へ持ち替へ。湯を汲み碗へ入る（但し湯を二度に入ることもあり二度に入れる時は初めは少し入れ。柄杓を釜に掛け茶筅を取り茶をかきほとき。左に茶筅を持ち右にて湯を汲み。茶碗へ入るなり（柄杓釜に掛け点茶して碗取り上。茶の色を見て左りに受け。身を客前へ廻り碗の手前を向の方へ廻して定座へ出す。和巾も出す主扣へ居る。上客進み寄り茶碗和巾も取り。身を元座に居戻り。次客初へ挨拶して御茶頂戴との挨拶して茶碗和巾の上へ乗せ。茶碗の向を手前へ廻し。碗いたゝき呑む。茶碗次客へ送りて后茶銘等を尋る。主は客へ碗和巾共に差出し。扣居て上客茶を一口呑み候ゝき例の通茶の服合を尋ね。直に本座へ戻り中仕廻す。中仕廻して客の方へ向ひ居る。末客迄茶碗廻るゝ例の御引にくゝは相伴の挨拶して身を定座へ廻り。蓋置を取り定座に出し釜の蓋を取り。蓋置へのせ茶巾を其蓋の上に乗せ。水指の蓋右にて取り左へ持ち替へ。建水の上にて右手にて露を切り。左手に持ちたる儘水指の勝手付其腹に蓋の表を客付にして寄掛置。水一杓汲み釜へ差入る。其頃に客茶碗見終りて上客より茶碗和巾返す。夫れより居直りの儘。和巾取り懐中し。茶碗も其儘にて取り。呑口を向ふにして定座に置く。此時客總禮す右にて柄杓を取り。湯を汲み碗へ入れ。碗廻しすゝき湯を建水へ捨て。碗の雫を手にて拭ひ。定座に置き御薄は追て差上可申と挨拶す。柄杓を取り持ち替へ水を汲み。茶碗へ入れ茶筅すゝぎして建水へ捨て碗定座に置き。茶巾入れ茶筅も入れ。右手にて茶杓を取り左りにて和巾取り左右の手出逢にて和巾さばき。茶杓壹度拭き元の如く茶碗に掛け。茶入

を右の方へ寄せ。其手にて茶碗を取り。左手和巾のある方へ持ち。元の如く茶入と置合せ。又右にて茶碗と置合す。和巾腰に付。柄杓取り釜へ水三杓入れ釜の蓋しめ。柄杓を引水指の蓋致す。此時客より道具好む。例の通り差出して柄杓建水持ち入る又出て。茶碗持入茶道口しめる。其内に後の炭組致し置て見計ひ出。道具返らは出て客よりの一禮を受け。右手にて茶入を取り左手へ受右手にて茶杓を取り。其手にて袋を取り持ち入る

◉名水点

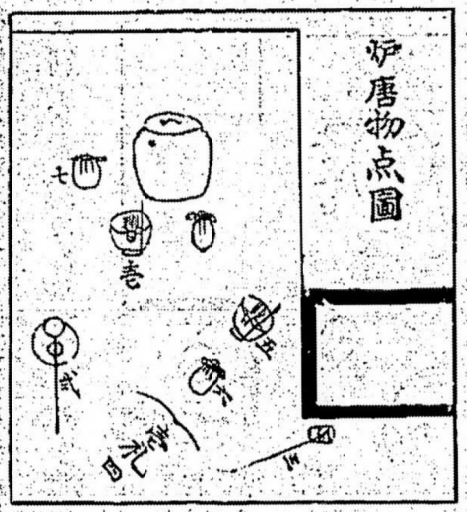
一名水点と云ふは養老加茂川等の名高き水を取寄せ。其水にて茶を点る事なり其時は後座に水指茶入常の通り飾り置。勝手の壁へ付けて硯屏なさに柄杓を立懸けて置。又は風爐先窓の敷居杯にあをのけて立懸け置事もあり。客は柄杓の飾りあるを見て格別の水と心得あるべし。其挨拶するが由し

夏ケ様の節に宗吾客にて湯計り好みて飲み候由右は仰止齋聞書より記す

◉和巾真行草の事

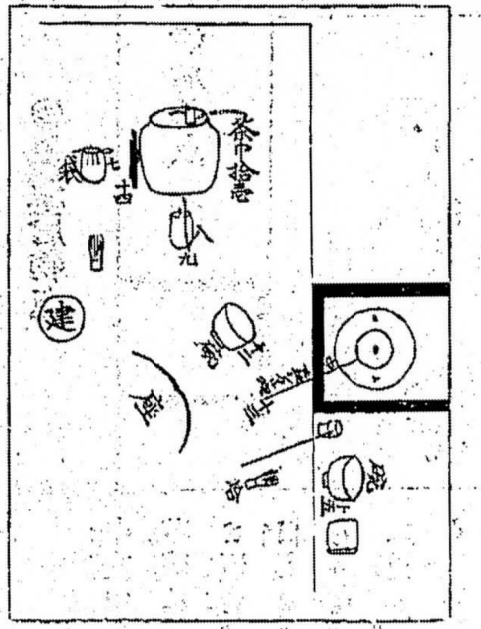
悉しきは別記第二號の内にあり

◉風爐唐物点

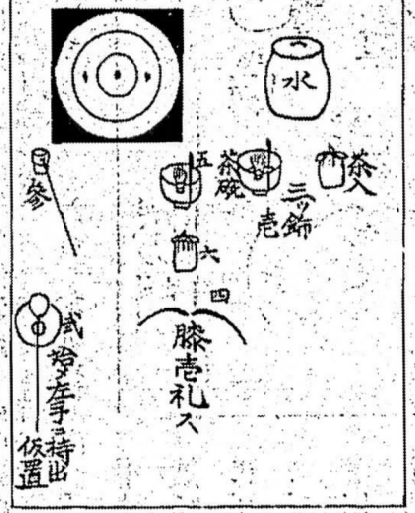


中立の節水指前に茶入置く。客座入の後茶碗に茶巾茶筅茶杓仕込み持ち出。茶入と置合せ㊀建水に杓蓋置仕込持出。茶道口しめ風爐の前へ持出。(爐にては茶道口しめ立水指前に居直り)㊁杓蓋置出して(但し爐四疊半又は大目切にても例の如く持ち廻りて定座に置なり)。定座居置㊂柄杓を引一禮致し建水直し㊃茶碗取り前へ向に置き㊄茶入右にて取り。左を添へ

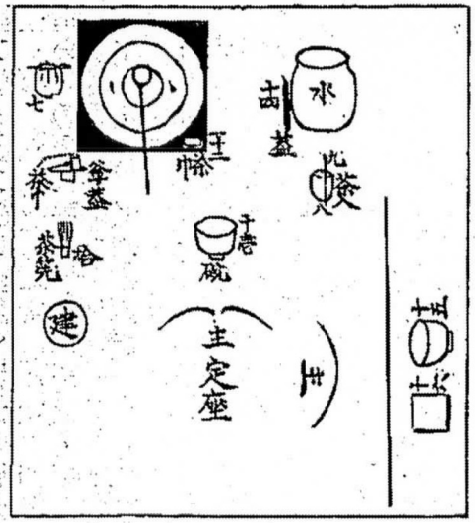
て茶碗と膝の間に置㈥追例の通り袋を取り。風爐と壁との間に置。（此取扱ひは別記第十號にあり）。爐にては水指と壁との間に置㈦和巾取四方捌して行にたゝみて茶入を左りにて取り上げ。蓋を拭き胴も拭く。但しこれは常には違ひ茶入を手前へ廻し。和巾を向ふへ廻す拭仕廻て和巾は懐中へ入れ。茶入を右に持ち。左りを添へ水指の前に置㈧和巾捌茶杓拭き茶入の上に置㈨茶筅は建水の向ふに置く（爐の時は柄杓の右の方に置く）㈩茶碗少し前に寄。㈠風爐の時は和巾取。折返して風爐鋪板の右前の方を拭ひて。和巾腰にさげ。右にて茶巾を出して。しぼりふくためて。今拭たる板の



上に置。爐にては水指。共蓋の時は碗の茶巾を取り。しぼりふくためて。水指の蓋の上に置き。和巾折返して二の字拭して。水指のつまみ前に一文字にして半しぼり茶巾を水指の蓋の上に置。和巾腰にはさむ。女子は爐の時は左手にある和巾を右手に取り。若爐にて水指共蓋なれは和巾腰につけあるを以て和巾さばきをす。釜大蓋なれは貳つ折しぼりさばきて左手に受。風爐の時右手に柄杓を取追例の通り左右交換して右に和巾持釜の蓋にかむせ持。蓋置の上に乗せ置。和巾假置して柄杓右を取戻し湯を汲碗へ入れ（爐の時は此時柄杓左手に持。追例の通り中蓋致し柄杓蓋置に休め和巾腰にはさむ）柄杓釜に掛け和巾取腰にはさむ（但し女子は貴



人点なり此れより㊂をのぞき㊃に續く。右柄杓取り左に持釜の蓋取り㊄蓋置へ載せ湯を汲碗へ入（爐の時は此時中蓋致すなり）㊅茶筅とうし致し茶筅は建水の向ふに置（爐の時は柄杓の柄の右の方に置）茶巾を取り風爐にては建水の上にてしぼりくためて茶碗持ち添へ。湯を捨茶巾にて拭き。碗下に置茶巾は釜の蓋の上に乗せ（爐にては右湯爐にて若水指塗蓋なれば半しぼり茶巾にて茶巾取建水の上にてしぼりふくだめて碗持添。廻して湯を捨碗を拭き。茶巾は水指の蓋の上に乗せ。水指共蓋なれば茶筅とうしの湯を捨。茶巾を取り碗を拭き。水指の蓋の上に茶巾置）夫れより茶杓を取り茶碗の縁にかけ。茶入を右にて取り。左手添へ左手に持



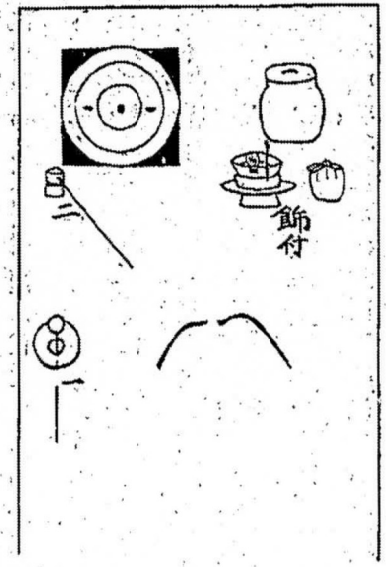
ち替。右手にて蓋を取下に置。常の通り茶を茶碗へ入れ。茶杓を又茶碗の縁に掛け茶入両手にて廻し入。右手にて腰の和巾取り（此和巾取扱は別記第二號にあり）腰和巾眞に疊みて（腰和巾眞の疊み様別記に有）茶入の口を拭き其和巾懐中して其蓋を致し。右に持ち左を添へ水指の前に置。茶杓を取りて茶をかきほごき。杓に付たる茶を碗の縁にて拂落し。茶入の蓋の上に掛け右にて水指の蓋を取り。勝手付其腹へ寄せ掛け置き㊆常の通点茶して（此時の茶筅は爐風爐共建水の向に置）客へ出す又和巾も出す（爐の時は茶入の蓋の上に茶杓を掛けて後右にて柄杓を取り左にうつし蓋を取湯を汲み碗へ入点茶して客へ差出す又和巾も出す。女子なれは懐中より和巾取出してしぼり疊みて左りに持。右手に柄杓持釜の蓋をとり蓋置へのせ置。和巾假置して客へ差出す又和巾も出す）客碗和巾とも取一口呑みたる時主より服合の加減を尋ね挨拶し身を定座へ廻り戻り居るか（跡へ引さり居か）（爐にては茶の加減を尋ねて中仕舞す）末客茶呑むとき主云ふ多くは御殘被下相伴仕ると挨拶し。末

客茶呑切こあれば主定座へ戻る（爐にては此所にて飾戻す）客各々茶呑終つて上客へ茶碗返す。上客より順次拝見する事如通例。主人柄杓取り釜へ水一杓さし杓は釜に掛け置。客より碗和巾戻れば先つ和巾取り懐中し。茶碗を取り呑口を見て向へ廻し下に置。客禮あればこれを受け。碗へ湯を入すゝぎ湯建水へ捨御薄は御跡の挨拶し。茶筅もすゝぎて建水の向に置（爐にては柄杓の杓の右の方に置）水を捨て碗下に置。茶巾を入れ茶筅も入。和巾懐中より取出し左に受け。右茶杓を取り和巾捌きして拭き。茶碗へ掛け和巾建水の上にて拂ひ。腰にはさみ茶入右へ假に寄せ。茶碗中仕廻の定座へ移し。茶入を右に取り左りを添へ置合すなり。夫れより常の通り仕舞。客より御茶入御茶杓袋とも拝見望み候時。茶入の取扱ひ初の通り右に持左り添へ。最も廻し様も初の通前へ廻し和巾は向ふへ廻なり。其外は毎の通なり

◉風爐臺天目點之事

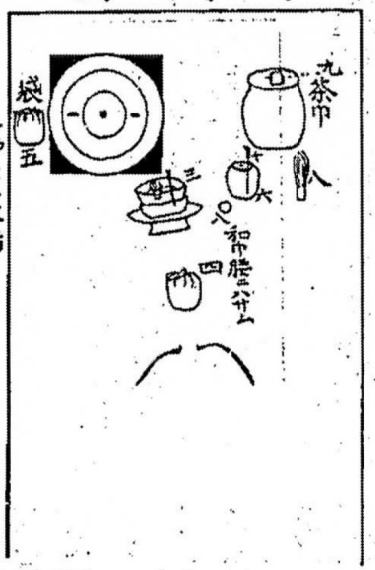
一中立の間水指を置。其前に右の方へ寄せて茶入を置。左りの方に臺に天目を載（天目を能く洗ひふき茶巾をふくためて入て筅をすゝぎて入れ茶杓をふきてのせ置）水指と三つ飾りにして置合するなり。客着座濟みたる時。建水柄杓蓋置持出て定座に置。杓を直してより如法客へ膝の挨拶を言ふ第壹圖の如し。身を熟と居定め天目の外脇へ右の手を添へ抱へ左手にて臺の羽を持。膝前へ取り下に置。右の手にて茶入を取り天目と身の間に置。茶入茶杓筅何れも取扱ひ法の如くして（茶入袋脱し方別記第十號にあり）飾る若水指の蓋塗蓋なれば和巾折返して拭ひ。和巾腰にはさむ。扨天目臺共に前へ少し引寄せ。定座へ直す（右に

第壹圖



て天目を抱へ左にて臺を持事幾度も同斷なり）茶巾水指の蓋の上に載る。柄杓取り。釜の蓋取り湯を汲み先つ少し斗り天目へ入れ。柄杓は先つ（但し天目へ湯を入ること隨分靜かに少しづゝ入ることなり熱湯を急に入るゝは天目の損することなきにしもあらず。先つ暖たむる迄に入ることなり此心得にて可有工夫）釜に掛け置両手にて天目を取り上げ（天目を取持つに右復輪に氣を付尤も用捨すべし）天目をとくと暖めてより湯を捨（女子は和巾を取しほりさばきして左手に受。右手に柄杓を取追例の通り左右交換して右に和巾持釜の蓋にかむせ持蓋置の上に乘せ置和巾假置して柄杓右へ取戻し湯を汲天目少し入れ柄杓釜にかけ和巾取腰にはさみ天目取上とくと暖めて湯を捨る）右の手にて露を切る氣味にて両手に持。臺へ音せぬ樣に乘せ置。又湯を汲みて天目へ入れ。柄杓は釜に掛け置。茶筅を取手なりに横にして天目へ入れ。軸を緣に持せ掛け置。すぐに右の大指にて軸を押へながら両手にて天目を抱へ持ちて臺より左りの方向ふへ少し寄せて假りに下に置（爐風爐ともに同前）

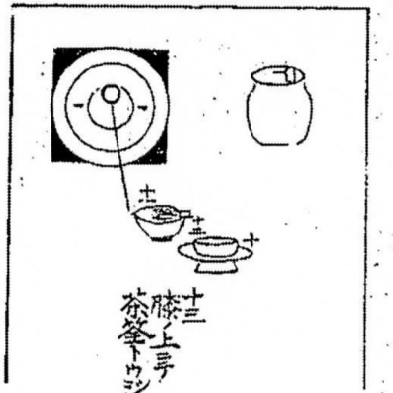
第貳圖



（此時右の大指にて軸を押へ。のこる四指を天目の外へ添へて抱るなり又上げる時も同前也）和巾をたゝみて臺を拭なり（和巾眞にたゝみてふくもよし又常の如くたゝみてもふくなり）和巾右に持ちながら臺の右の方を持ち少し上げて左手にて臺をこうだいと羽を持ち上げ和巾にて向。前右と三偏に拭。圖の通両手にて臺を下に置和巾腰にはさみ最初の通天目を持左りの手に載せ。左膝先へ受。右にて茶筅とうし少しも音のせぬやうにするなり。茶筅を定座に置き。天目に右の手を添へ一寸廻し。左にて湯を捨。右にて茶巾を取り天目を常の通り拭き。茶巾を天目へ入れ。両手にて臺へ乘せ右にて茶巾を

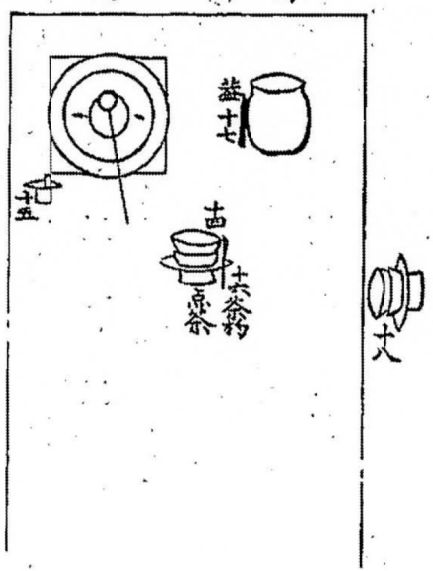
取り一寸折直し。釜の蓋の上にあけ（爐は茶巾を水指の蓋の上に置）右にて茶杓左にて茶入を取り常の通茶を天目へ入る（但茶入の口大なるときは廻し明るに不及茶杓にてすくひ天目に入る可し若し茶入の口小さくして茶杓にて茶を汲み難きときは數度すくひ出すも見へ悪しき故程よく汲み入れ后廻し明けるを可こす）扨茶杓を臺の右の羽に假りにあてぬけ置き。茶入の口を右の大指にて一寸拭ひ（女子は和巾にて拭ひ）右にて茶入の蓋致し。左りにて茶入と定座へ戻し置。右にて茶杓を持ち天目の茶をかきほごき。天目の内にて一寸茶杓をはらひ茶入にかけ（爐にては右手に柄杓を取り左へ持替へ右にて釜の蓋とり。湯を汲み碗へ入れ。点茶して客へ出す）水指の蓋三つ取りして釜へ水壹杓入れ直に湯を天目へ入れ。常の通点茶して身を右の方へいさり例の通両手にて天目臺ともに持ち廻して上客へ出す。又身を進み臺の両羽を持ち少し向ふへ押出す。正客は例の通挨拶致し夫れより少し進み。両手にて天目臺ともに持ち。二度斗りに二客の前へ出し。二客へ挨拶致し正客其上にて例の通天目を右にて抱へ持ち。左りにて臺の羽を持ち。急度戴き候上一と口呑みて下に置。亭主より例の挨拶あり。扨天目を両手にて左へうつし臺を右にて右の方へ片寄せ。両手にて天目を持ち。常の通呑みて下に置。臺を前へ出し天目を乘せ。例の通り持ち二客の前に置く。二客三客も右の通一と口は臺ともに持て呑む事なり（但し是れは行の茶の喫様なり始より臺を放して呑むは草なり眞は始より臺共に呑むなり）主は天目を客へ差出して扣へ居る上客茶と一口飲むとき茶の服加減を伺ひ。すぐ定座へ戻り（爐には中仕舞あり）末客へ天目碗廻り候節。追例の通り主より多くば御殘しあれ御相伴可致この挨拶を追例の通致して定座へ戻る（爐にては中仕舞飾戻す）釜へ水を入

第參圖



れ柄杓釜に懸け。茶巾改め天目の返るを待ち居る。扨末客迄呑仕廻末より正客の前へ天目臺ともに例の通持出る。上客先つ天目と取り熟と見て。下に置き又臺と見るなり臺の手の跡の付ぬ様に氣を付け見るへし。兎角平へ手のかゝらぬが宜し。見仕廻て天目を臺に乘せ。次客の前に置く。三客も見て一統相濟みて。末客より正客へ出す。正客より最初の通身をいさり出し戻すときに一統も禮を致す。扨亭主受取。天目臺とも道具疊の緣内に假置（煙には柄杓の右脇に假置）身と直し定座へ取り。湯すゝき

第四圖



致し左りにて捨て。右にて茶巾を取り一寸露を切り内に入れ。扨両手にて臺にのせてより追手薄の挨拶致すこと。又茶筅をすゝぎ水を捨て。茶巾右にて取り天目を拭き。茶巾天目の内へ入れ。両手にて臺へのせ。茶巾を右にて取り例の通り角違ひにして建水の上にてしぼり。茶巾さばきふくだめて茶筅も入れ。茶杓も拭て天目へ掛け。和巾拂ひて腰にはさみ。茶入右へ假寄せし天目臺共に水指の前定座へ移し。茶入を置合せ飾り戻しにす。是れより常の通り水指の蓋する時客より道具所望あらば（柄蓋置は追例の通り）臺天目と壁の方へ假に寄置て。三品出す事如定。扨建水を取入れ天目臺に載せながら両手にて持取入る也。水指取入れ勝手口さす也

弊帚記三之卷

◉臺天目茶筅置之事

臺天目にて点茶するとき両種（天目同臺）名物の道具なれは天目の内へ三色（茶筅巾杓）ともに不仕込に水指の前に茶入と並へて飾付置。点茶に出るとき

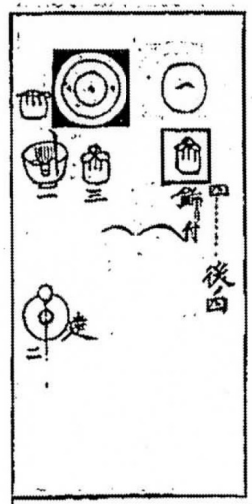
茶筅置こて平き茶碗に（何燒こ云ふ定なし恰合小さきを用ゆるこゝあり見たてあるへし）茶巾茶筅茶杓三色仕込みて持出。建水の定座の向ふに直し置。点茶の時茶杓は茶入に乘せ置。茶筅は茶入こ組合せ置付如定。茶巾は始中終其茶碗に置こゝなり。仕廻の時も如始其平茶碗へ仕込みて持入るなり

◉風爐盆点之事

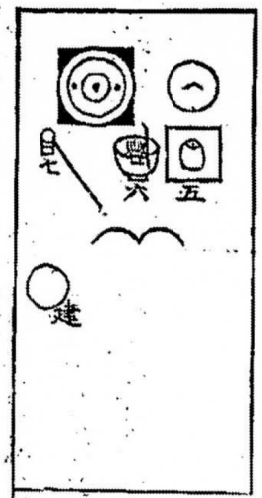
但四疊半の取扱（并に圖解は爐風爐共）

一炭手前は常の通中立の後座に茶入唐物又は拜領物或は名物等を用ゆ。黑塗裏を用ゆる事不苦。盆点に致す事なり。盆は和漢こもに用ゆるなり。利休好み松木盆こ云ふあり。何れにても角の盆を用ゆるなり（丸盆菱盆等は不用）一盆の中央に茶入を載せ。水指の前に飾る○第壹圖の如し。茶碗へ茶巾ふくため入れ。茶筅茶杓も入れ持出。壹圖○一の所に置（茶入こ盆こ見合恰好能く置くへし）仕込建水持出後の方壹圖○二の所に引置。身は疊の眞中に居り

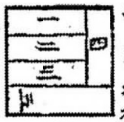
第壹圖



仝圖



右にて茶入を持。左手にて右のひじへ添へ。夫れよりつたいて茶入を持ち添へ。前に両手にて置き。茶入の取廻し始終右の通りに致すなり。拠袋の口常の通りに解き。



竹金ノ拭様ノ圖

両方へひだを引延し打留を向へして。右手に持。第一圖○三の所に假りに置なり

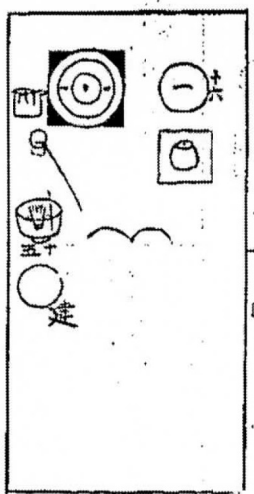
拠和巾捌きたゝみて。又は盆小さきときは眞にたゝむもよし。大なるときは常の通りたゝみてふくべし（和巾のたゝみ様別記第二號に

有）右手にたゝみ。和巾持ちなから両手にて盆の前角を持。少しばかり前へ引出して盆の左の方はかりを少し持ち上げ。盆の鏡を左より右の方へ三度ふき外壹圖〇四の所の通り拭終り。又始めの通りあしらひにて元の所へ戻し置き和巾は腰にはさむ〇後の四の所茶入を右にて取り。左掌へ乘せ常の通り茶入を取出しおろし下に置袋を釘に掛。若釘なき時は風爐と壁との間に置。爐にては水指と壁の間に置。和巾取り捌き眞にたゝみ茶入左にて取上げ。右和巾持ちながら添手す。夫れより蓋を常の通りに拭き。胴を拭く廻し樣法の如く廻すなり。唐物なれは和巾を（茶入の胴へ前より當てゝ向ふへふくなり）

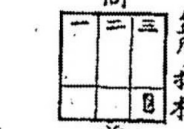
第貳圖

茶入は前へ廻すなり）拭仕廻て和巾假に懐中して茶入を右手へ取直して盆の眞中へ直すなり第壹圖〇五の所（爐にては第貳圖五の所に置）（茶入を右へ取るとすくに左手先にて右の手首を抱へたる上を右の手をすらせて持行。茶入を盆に置くとき音せぬやうに置くなり）扨茶碗右にて取り左りへ持替へ。前に置第壹圖〇六の所（爐にては是より大目点に替り爐の第貳圖六の所にあり）少し身を廻り後の建水を左りにて取り定座へ直し柄杓を左りにて取り。右あしらひ。左に持右蓋置を取り定座へ直し。柄杓引第壹圖〇七の所（爐にては第貳圖七の所に置）時宜致すなり。扨和巾懐中より出してしぼり捌きし

第參圖成る所

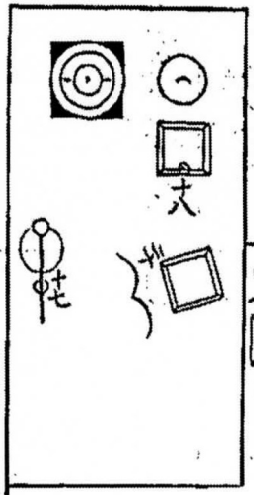


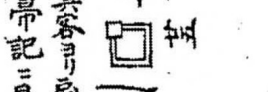
て（茶杓は象牙か竹節なし）茶杓二度拭きし盆の上へ圖の通り勝手の方へ載第貳圖〇八の所（杓の手をはなし又すぐ本の處を持ち押込やうに盆に載る）



釜居様様

第四圖

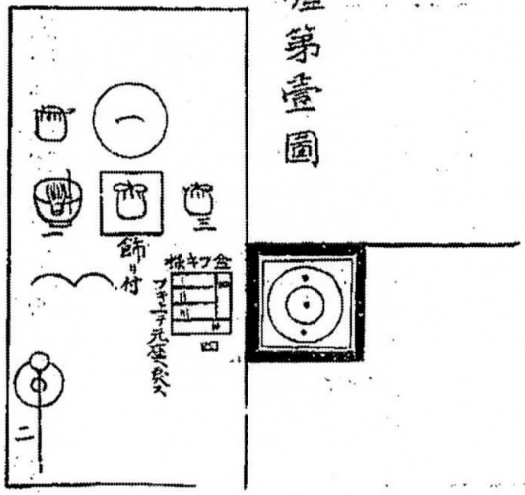




道具客ヨリ戻圖
帛帛記ニ見ユ

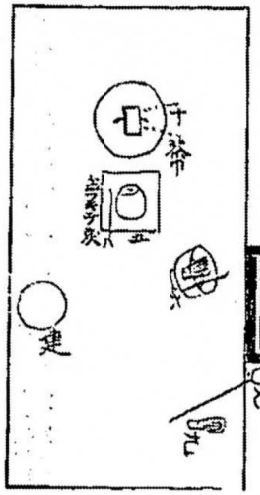
筅を取り。建水の向ふに置第貳圖〇九の所（爐にては柄杓の柄の右に置）其手にて茶碗少し引寄和巾腰につける。若し水指塗蓋なれば。和巾一寸さばき折返して右に持水指の蓋を拭く茶巾水指の蓋の上に載せ。第貳圖〇十の所。和巾腰にはさみ（此時女子は左手に有る和巾を二つ折しほりに疊み。左手に受右手に柄杓を取。追例の通り左右交換して右に和巾持。釜の蓋にかむせ持。蓋置の上に乗せ置和巾左膝先に假置して柄杓右に取戻し。湯を汲み碗に入れ。柄杓釜に掛け和巾取腰にはさむ。第貳圖〇十一の所）柄杓右にて取左手へ持替。右にて釜の蓋取り。蓋置へ乗る。柄杓を右へ戻し湯を汲み茶碗へ入。柄杓釜に掛け。第貳圖〇十一の所（爐にては湯を汲み。中蓋をして杓を蓋置に乗せ。茶筅こうし致し筅元の所へ置き碗取り廻して湯を捨て。茶巾にて拭き碗を下に置き。茶巾出し釜の蓋の上に置。爐にては茶巾水指の蓋の上へ戻す（茶巾見苦しければ一編ふくため直して上ける）茶入を右にて取り左りへ持ち。蓋を取り盆の眞中に

爐第壹圖



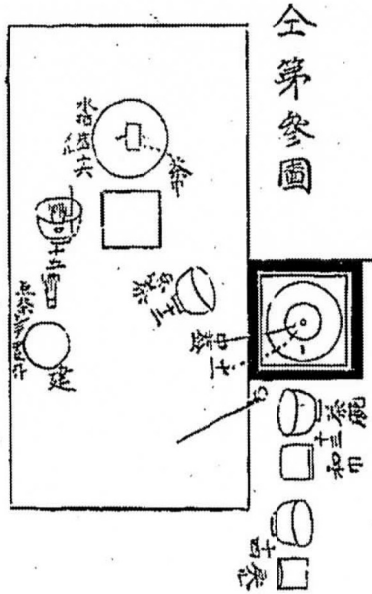
置き其手にて茶杓の元を持。少し引出し夫れより熟と持ち茶碗へ茶を入。茶杓を茶碗の縁に掛け（若し茶入の口小さき時は茶入両手にて取り廻し。入れ右手にて和巾取り。茶入の口を拭き。（此拭ひ方取扱別記第貳號にあり）和巾懐中し右にて茶入の蓋を取り。茶入の蓋致して又右手へ取直し。盆の直中へ上げ茶杓を右にて取り。茶をかきほどき茶杓を左に鳥渡持ち。右にて懐中より和巾取出し。茶杓も右に持ながら和巾さばき致し。貝先をふき初めの通り盆へ上げ。和巾を建水の上にてはらひ腰にはさみ。水指の蓋常の通り三つ取にとり。爐にては水指の蓋不取。柄杓取釜の蓋とり点茶する茶筅は建水の向

全第貳圖



○第十二の所。釜へ水をさし直に湯を汲み。茶碗へ入れ柄杓を釜に掛。茶筅を取り点茶して第二圖○十二の所。客へ和巾も添て出す。第貳圖○十三の所。碗取持廻り客へ差出し和巾も添へて出て。是れより暫くの内常の通りなり。尤も中仕舞も不致。爐にては定例の通中仕廻するなり。扨客より茶碗戻り。第貳圖○十四の所。爐風爐ともに湯にてすゝぎ例の通。茶巾を取りしづくをふき。碗の中へ入れ。追て薄の挨拶もして茶巾を出し。水を碗へ入れ茶筅すゝぎして茶筅は柄杓の柄の右に置水捨て茶巾筅を入れ杓を茶碗へ掛け左にて持ち右へ持ち替勝手の壁際最初

全第參圖



置きし處へ置き。第貳圖〇十五の所釜へ水を入れ。柄杓左りに持ち。釜の蓋して柄杓を蓋置へ掛てより。水指の蓋する時〇第三圖飾の圖と成りたる所。第三圖飾を〇十六の所。客より御茶入御茶杓御袋御盆ともに拜見を乞ひ。以後の取扱風爐に准ずべし。此時柄杓を建水へ休め。蓋置も建水の跡に置。第四圖〇十七の所。右にて茶入を持ち左掌へ乘せ。身を廻り右にて前に置き。和巾さばき眞の拂きして例の通り茶入をふき。和巾握り込み蓋を取り盆の上に圖の如く置き第四圖〇十八の所。和巾にて口をふき和巾懷中して蓋を致して圖の處へ出す。第四圖〇十九の所。又和巾さばきして右に持ち最初の通りに盆を持ち前に置第四圖〇二十の所。和巾にて后の圖の如くふき。第四圖〇廿一の所。和巾持ちながら圖の所へ出す。第四圖〇廿二の所。此時客より御和巾をと乞ひ候へば。其時に和巾さばきして（しばり和巾）盆の上圖の所へ乘せて出す〇廿三夫れより茶杓出し〇廿三袋も出す〇廿四是れよりは常の通りなり。客より道具返す節は左の通り

主出て道具に向ひ盆を引き。和巾取腰にはさみ。茶入を右の手に持ち左りに持添へ。盆の眞中へ入れ。茶杓を右の方へ入れ袋を左りの方へ入。右の手にて茶入を持ちかため。左りの角。和巾の所を左の手に持ち入るなり。

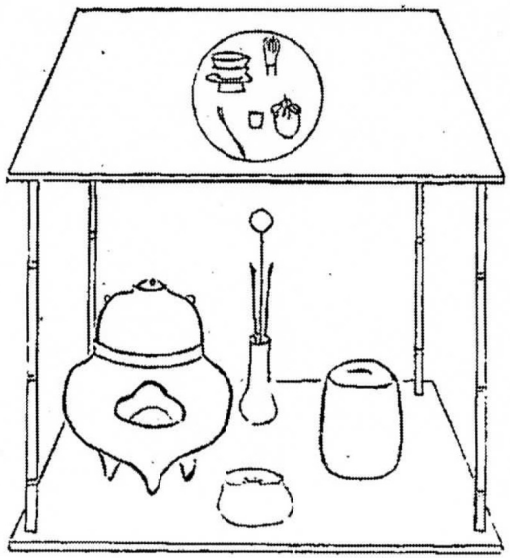
点茶すみ道具所望のときは客へ出す。盆のふき樣は身を客の方へ向やうに居直りて和巾をたゝみて持ちながら。両手を盆の方へさし延して両角を抱少し引出してより持出。我前にて盆の向。右の角を疊に付。盆の前左りの角を左りの手にて持ち上げて。片下りにして持ち。向ふの方より前へ竪にふくなり。是れも左りをふき右をふくなり。此三度目の右をふくとき。すぐに前緣へふきまはして持ちたる左りの手の所にてふき留るなり。留るとすくに又右の角を抱て両手にて圖の所へ出すなり。竪にふくときの和巾持やうは大指の下へして四つ指の上よりかけ。和巾を上より押へる氣味にてふくなり

◉風爐飾

松尾流点茶沙門点の法に依り風爐臺子乱飾を竹臺子にて仕様之事

一竹臺子天井眞中に圖の如く茶入臺天目茶筅茶巾茶杓ともに盆にのせ飾り置

臺子乱飾之圖



（但し盆は和漢製作意にあるへし）地板は常の如く客付に水指勝手付に風爐眞中に例の通杓立に柄杓。火箸を飾り其前に建水に蓋置仕込飾り置。

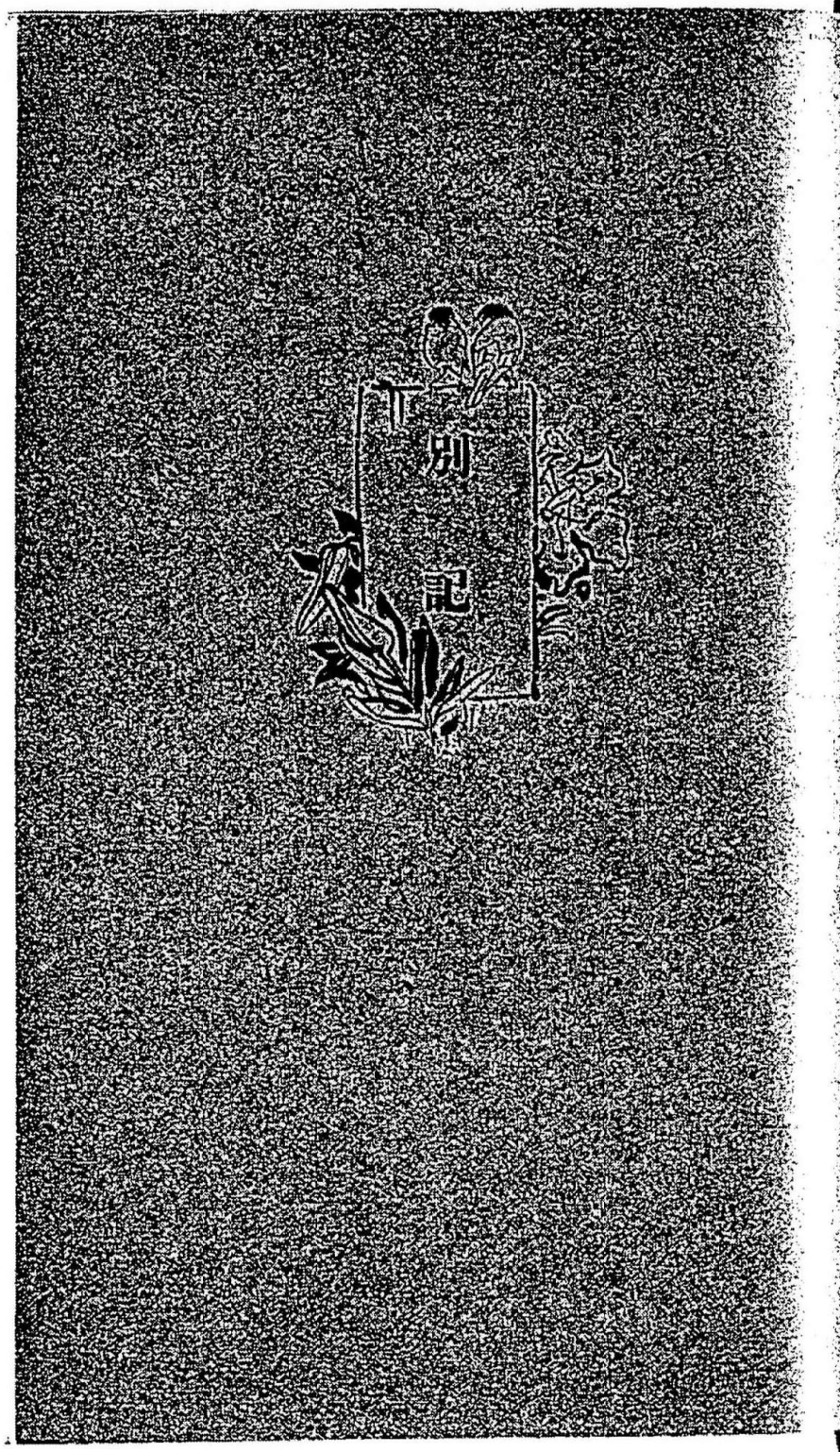
（但し爐のときは客付に水指勝手付に杓立に柄杓火箸其前に建水に蓋置仕込飾り置く）点茶の時竹臺子の前に座し。先つ火箸を一本つゝ抜き取り例の如く勝手付に地板より壹寸程前へ出し置き（爐風爐も同前）夫れより天井眞中に乗せある盆を右手左手と出し。両手にて盆を持ち。前へ少々出し（凡二寸位）左手は引て右手にて盆の上の茶入を取り。左手鳥渡添へ右にて水指の前。右の方に假置し（爐にては棚の眞割て右に假置す）天目を右にて抱へ臺を左とに両手にて持卸し（爐のときは棚の眞割て左の方に置）水指の前左りの方に飾り置き。茶入を右にて取り。天目ご置合せ身を直して右にて建水を取り。左にて定座に置き。建水の中にある蓋置を右にて取出して。今取りたる建水の跡に飾置（爐なれば左手に受け少々廻り定座に置）客へ時宜し。熟ご座を排へて天目の外脇へ右手を添へ抱へ。左手にて臺の羽を持ち。茶前へ取り下に置（爐風爐ともに同斷）右にて茶入を取り天目ご身の間に置。茶入の袋取扱ひ等は追振の如く袋は天井勝手付に置て（爐風爐も同し）扱和巾を取り眞。又は行になりごもさばき疊みて右に持ち。左りに茶入を取。例の通蓋も胴も拭ひ。和巾懐中し。水指の眞前に置き（爐にては棚前眞に置）常の如く和巾懐中より出しさばき直して左手に受け。茶杓右にて取り貳度拭ひして茶入の蓋の上に乗せ置き。

和巾腰に付け。天目を臺ごもに前に少し引寄せ。定座に直し蓋置を取り。若し穗屋蓋置なれは例の如く裏を表に返して重ね。元の座へ戻し其手にて釜の蓋を取り。蓋置の上に載せ。直ちに杓立にある柄杓を抜き取り。湯を汲み天目に左りを添手して先つ少し斗り入れ。其柄杓釜に掛け。其天目取上け廻し暖め、て湯を捨て。又湯を汲みて天目へ入れ(爐にては中蓋する)筅をこり。軸を天目の縁に持たせ掛置き。直ちに右の大指にて軸を押へつゝ両手にて天目を抱へ持ちて臺より左りの方向へ少し寄せて假に下に置き(爐風爐ともに同前)和巾をとり(眞又は行にても宜し)捌き疊みて右に持ちながら臺の右の方を持ち少し上け。左りにて臺のこうだいと羽を持ち上けて和巾を右手にて

圖の如く向前右こ三度に拭ひ。両手にて臺を下に置き。和巾腰に付け。天目最初の通持上げ。左手に載せ受け左膝先の上にて筅をこうし少しも音せぬ様にするなり。茶筅は建水の向ふに置(爐のときは爐縁の右の方に置く)天目に右手を添へ一寸廻し。左にて洗ぎ湯捨て。茶巾を取り。天目を追振の通拭ひ。茶巾天目へ入れ。両手にて臺に乗せ。右にて茶巾取出し。一寸折直して釜の蓋に乗せ(爐のときは水指の蓋の上)右手にて茶杓を取り。臺の右羽に掛け左りにて茶入を取り。其蓋は常の通り天目と並へて置き。茶をすくひ。天目へ入れ茶杓は臺の右の羽に假りに仰向け掛け置き。若し茶入の口大なるときは廻し入るに不及。茶杓にて天目へ汲み入るへし。若又茶入の口小さなるときは茶杓にて茶をすくひ難きときは數度すくひ出すは見悪き故廻しあけるが宜し。扱茶入の茶廻し入れたるときは。茶入の胴を右手の指先を添へてかゝへ。横にして廻し入れ茶入の口は腰の和巾右にて取眞の捌き(取扱別記第二號にあり)拭きて懐中し其蓋をして左にて茶入定座へ戻し置。杓にて茶をかき解き。天目の中にて一寸茶杓を拂ひ。茶入に掛け置。水指の蓋三つ取りにして水指の腹へ爲持懸。釜へ水一杓入れ直に湯を汲み天目へ入(爐にては柄杓とり釜の蓋を取り湯を汲み点茶し客へ茶碗出レてより一禮し后釜へ水一杓差加へる)常の通り点茶して筅を建水の向ふ

に置き（爐風爐共同斷）兩手にて天目臺共繰出し。身をいざり例の通向ゟ廻して上客へ出す。又身を進み臺の兩羽を持ち。少し向ふへ押出す。扣居り上客茶一口呑みたる所にて茶の服加減を伺ひ。すぐ定座へ戻り（風爐は中仕舞なし）（爐の時は中仕舞す）天目末客へ廻りしとき追例の通り主より末客へ多くば御殘し被下御相伴可致の挨拶をして又定座へ戻り（爐にては蓋置初め追例の通定座へ飾戻。）客の天目を見る間に釜へ水一杓差加へ。其柄杓釜に掛け茶巾を疊み直して客より天目の戻るを待つ。正客は天目臺ともに操出して主へ返戻す一統禮致す。主受けて道具疊の緣内へ假に置き。身を定座へ戻り。天目臺共に前に置。湯を汲み天目へ入れすゝぎ。致して左にて湯捨て。右にて茶巾取り。一寸露を切るなり。茶巾内に入れ。扱兩手にて臺に乘せてより追て薄の挨拶致すことなり。茶筅をすゝぎ水捨てゝ茶巾右にて取り。天目を拭き茶巾天目の内へ入れ。兩手にて臺にのせ。茶巾右にて取り例の通角違ひにして建水の上にてしぼり茶巾さばきしてふくため。天目へ入る。追例の通。

茶筅も入れ。和巾懷中より出して左手に移し。茶杓右にて取り。持ちながら和巾草にさばきて拭ひ。天目に掛。和巾はらび腰にはさむ。茶入を少し右の方へ寄せ兩手に臺を取りて置合せ。柄杓をとり釜に水をさし。湯返して露を切り。其手にて柄杓立にさして釜の蓋をしめ。其手にて蓋置を取り左りに受け。穗屋蓋置なれば裏を元の如く表へ返して元座へ飾り戻し。其手にて水指の蓋をしめる。此時客より兩器袋とも拜見を乞ふ。主受けて（爐なれば蓋置を取り。地板の上に戻し置）兩手にて臺を持ち。建水の向ふに置き。袋も取りて臺に並べ置。右にて茶入を取り。左りに受て上客の前へ廻り。下に置。定例の通和巾さばきて拭ひ。前と向ふへ廻して客へ差出し。次に茶杓袋も出す。其身定座へ戻り。棚の上の盆を疊へ卸し。其眞中へ臺を乘せ置き。建水持ち勝手へ入る。又出て兩手にて盆を持ち入る。片口持出水指へ水を差し入れ。片口左へ寄せ。水指の蓋をしめ又片口左に寄せ。左手伏て火箸を取り。右手へ移し杓立へ飾り。片口持勝手へ入る。茶道口しめる客は茶杓。茶入。袋



◎風爐圖餘

見終り定座へ戻し置。亭主は程見はからひ。茶道口明け出て。茶入茶杓袋を受取持勝手へ入る。茶道口外より失禮挨拶一禮す。一同よりも一禮有。此れより茶道口明きる也。主人直に煙草盆持出る也。

別記

〔第一號〕

◉点茶身の居様格式

一爐四疊半。左勝手。（弊帚記二之巻勝手へ入り。建水に蓋置。柄杓仕込置たるを持出て。勝手口に居て假に下に置。障子を閉てから。建水を左手に持。爐前へ行き。下に居て建水を定座より。少し前の方に假に置〇第貳圖（爐四疊半薄茶点）の如く。左手にて柄杓をとり。右手にて蓋置を取り出し定座へ直し。柄杓を右手へ取り直して蓋置にのせ。柄の手なりに引置（柄杓の柄と身のろくに見ゆるやうに引置へし）客へ挨拶を言ふてから。其身の座を。熟と居定め建水の定座とくと。なをすがよし

但建水曲物なれは、持出るときは裏のこし目を、客付の方ゑして持出て座を居定めてから、建水を下に置なから、左手にて押廻して、内の方こち目を客より見ゆるやうに直し置くことなり

一身の居やうは、爐の眞向に居るにも非す、大目立の居様にも非す、爐縁左りの角より、右の方一二寸の間を、正面にあてし心持にて居るか四疊半の格式なり、其外云々委細本書にあり

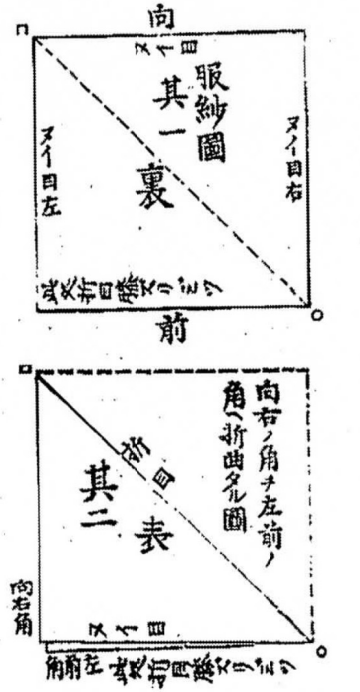
一爐大目切左勝手身の居直同壹の巻扱中柱と水指の間を正面に向ふ心にて居直先左手にて。建水を定座へ直し。すくに柄杓を取り。右手を添へてろくに直し左手に熟と持へし云々

一風爐并爐向点の点茶。身の居直りは。道具疊の眞中なり。一爐丸卓飾（惣飾りのこと）点茶身の居直点茶するときは。建水持出定座に置。卓の前へ熟と居向て。右手にて先茶入を下し。卓前疊に置。茶碗を左手にて取り下し。茶入と並へて置（此置合は棚をしに、水指茶入茶碗三つ飾に置合す心持なり、恰好を見定め置くへし）扨蓋置を取り定座へ直し柄杓を取り蓋置に乘せ置。茶碗茶入を前へ取り法の如く置きて流し飾をするなり点茶することと替る事なし（右にて蓋置をとり、持なから爐の方へ少しねち向定座に直し其手にて直に杓をとり、左手を添へ持直しさまに、又ねち向杓をのせ引置てから、熟と居直るがよし

一臺子類に飾り有柄杓立の杓ぬき取身の居やう弊帚記柄杓を可取ため計りに臺子の方へねち向居直り。ぬき取てから又爐の方へ居直り。かやうにするは見苦しき仕方なり。可嗜それゆへ始に居定るとき。居なから何方へも。手の自由に通ふ様に了簡して。居定るか茶道の巧者と云ふものなり。第一のことなり。常々工夫有る可く。尤も人の勢に高下あり。居處考は有る可けれとも。手の不及事ならは人目に不立程に。少しつゝは居直りは。品宜やうに。仕方可有事なり

〔第二號〕

◉和巾折方幷捌き及茶入こ茶杓を清める事

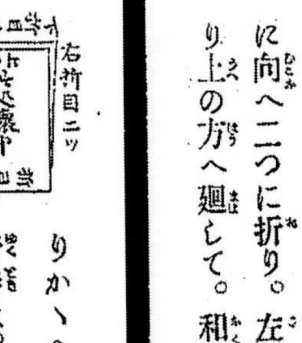


右の三圖は。○印しほり捌き。□印四方捌き。の二角の重ねたる所を上にして帶にはさみ下ける。○印を身に添ふ。是れ當流の和巾は膝すりなり。□印は外へするなり

一しほり和巾捌の事。薄茶に用ゆる和巾。帶に挾下け。有るを左手にて下より上へ繰り握り込。抜き取り膝の眞中へ持出。同時に右手にて和巾其三圖の。○印の所を。つまみ持ち。右の方へ引出す。左手も又左りの方へ延し引。右手に持たる儘。すぐ左の膝先に竪に下け。如圖左手を添へ。竪に三つに折り夫れより右手に和巾持ちたる儘右の方へ横に二つに折て。又三つに折り。都合六つ折にして。其和巾

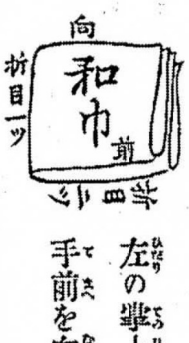
右の手へ左手を添へて。握り込がてら。二つに折てふき用ゆ

一四方捌。和巾の事。四方捌は始めしほり捌の如く。前の其三圖。□印の所和巾の表を前にして。右の手につまみ。左手は。□印の所より。向左隅迄。捌廻り持ち（一度捌き）又右手につまみ有る。□印の所を其小指にて。押へ持なから其手向の左り隅へ移し。左手に持たる和巾をつまみ持ち小指に押へ持ちたる。□印の所を放して和巾右の方へ引き。又左手も左へ。捌き廻り。（二度目捌き）此の通四方を。四度に廻り一周したる圖如此。是れを四方捌と云ふ是れは懐中服紗。眞の和巾濃茶点にも用ゆ



一濃茶点に用ゆる和巾の事。濃茶点には。始め四方捌きにして。和巾四方捌終り。前如圖。和巾両隅。両手に持ち。和巾表を前にして竪に下げ。左の手左の隅を持たる儘指先にて。右の隅をちよつとつまみ。左□印の所へ引き。右手は和巾廻りさはき引下〇印の所へ引き（此所はしぼりさはきの。つまみなり）此時左手の指先にて。つまみ持たる和巾の。右隅を向へ放さは。左手は□印（此所は四方捌きの摘みなり）則ち前其貳圖如くなる（右手に〇印左手に□印）しほり和巾捌の扱に替る事なし

一懐中和巾の事。懐中和巾は。始め四方捌の如くして。四方捌き終りたる。如圖和巾。両隅両手に持ち。向へ半分横に繰出し。二つに折り。又夫れを竪に向へ二つに折り。左右出逢て。四重に成る。是れを向の方より。左手に取り上の方へ廻して。和巾しもへ下け。如圖右手にて。和巾の外を。下の方よりかへへ持ち。懐中するなり是れ水屋に備へ置き若し他へ持行時は。和巾又向の方へ二つに折り。八重にして懐中するなり之れを出して碗に添へ客へ出す時は右の手にかへへ持出し左の掌上に乗せ右へ開けは上圖の如く四重となる右の手にて手前を向へかへし茶碗の客附へ並へ出す



濃茶入并茶杓を和巾にて清める取扱の事

一帛紗及ひ獨鈷鑑に曰。左手にて和巾を取。右手あしらひ和巾を四方廻りさはきて疊みて右手に持。膝に置。左にて茶入を取り。先蓋の上向の方を。左から右へ拭。前の方も同様に。拭てすぐ茶入の胴へ和巾を當て茶入ともに右は手の内に。持せかくるやうにしてのせ左手にて。茶入を廻して（前右の方へ廻すなり）胴を拭なり。和巾ふき仕廻て。膝に置茶入は左手にて。表を

前へして。水指ご爐縁の前。左角との間に。流し飾に置和巾をたゝみ直して左手の内に載せ。右手にて。茶杓を取和巾の上に乗せさまに。茶杓の上へ和巾を折かけて包む様にして。手元より貝先迄二遍拭て。茶入の蓋のつまみより勝手付に上げ置。又象牙蓋に巣あれは。これも勝手の方にするなり

一凝古齋曰弦付茶入に限り茶杓を弦より右に置なり。是れ茶の習ひなり

茶杓点茶終りて。和巾にて清める事

一茶杓右手に取り。膝に一寸休め。左手にて和巾取。膝眞へ持出て。同時に右手に茶杓を持なから。出逢和巾（しぼりさはき）直して左手の内へ乗せ右手にて杓の柄先を。下から大指を柄の右にして。食中両指を柄の左にして。つまみ持ち。和巾の横の方から大指押ひねり出せは。茶杓は伏せて出るなり。其儘茶碗へ乗るなり

一臺子類に。結ひ和巾の事臺子前柱勝手付に結有る。和巾（俗に蟬結ひと云ふ）点茶の時。建水持出。勝手付へ少々斜に居向。和巾を取て。四方廻りて。腰に下げ。点茶終りて。片口持出。水を張。片口片寄せ。如始勝手付柱に向和巾を取。さはき直して口傳。客付の方より和巾を廻し。結ふ合口上の方になるとあり

和巾眞行草之事

一和巾折方取扱ひの事

一草はしほり捌き和巾濃茶点なり

一行は四方廻りしほり捌は濃茶点なり

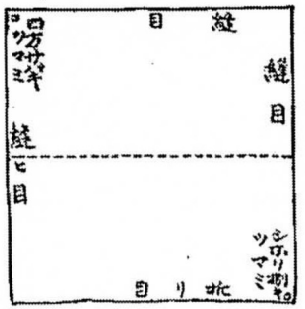
一懐中和巾は四方廻り捌四つに折なり

眞の和巾捌の事

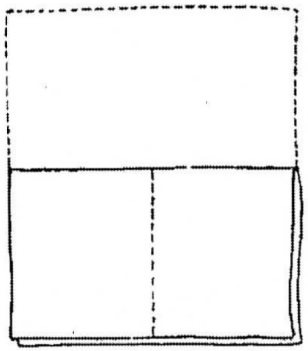
一和巾を左手にて取り両手にて四方を引延ばし向ふへ繰り出し半分に折りて又向ふへ繰出し半分に折りて又向ふへ竪に二つに折り又二つに折り上の方を

右手に持ち横にして左の方より三つに折り右の手に握り込むなり則如圖

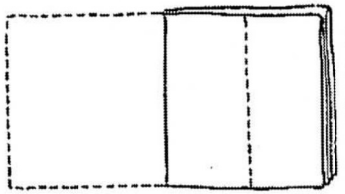
和巾四方廻リタルル所



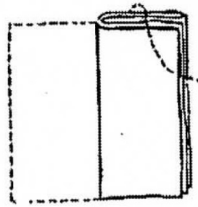
(一)半分を裏へ折り返し第二の如くす



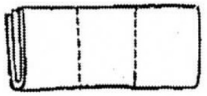
(二)半分を裏へ折り返し第三の如くす



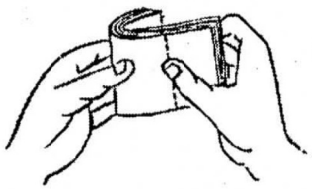
(三)点線ゟ裏へ折り返し第四の如くす



(四)矢の方向へ向さ返し横に持つ



(五)点線ゟ裏へ折り返すこと第六第七の如くす



(六)

(七)向さ返して右手に握る

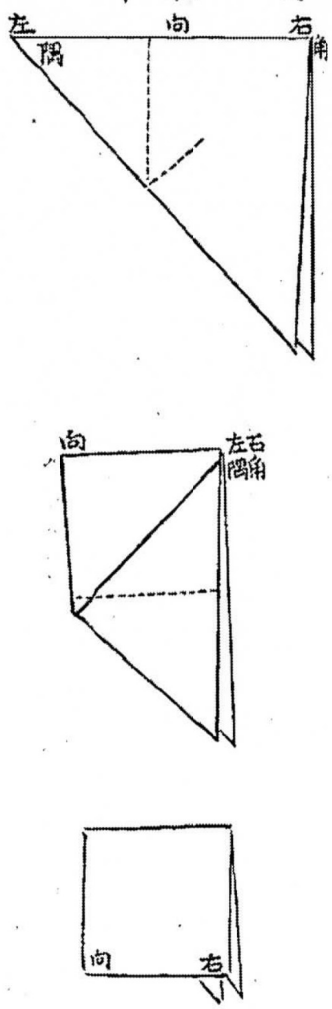
(八)

腰の和巾を右手に取り取扱之事

一共蓋の釜の蓋を取る時。又は茶入の茶を両手にて茶碗の中に廻し入れて。其茶入を左手に持。右手にて腰の和巾の向左の隅を持ち向右角へ折。其和巾向の方へ少々出し。其儘手前へ貳つに折り釜の蓋にかむせて取るなり又た茶

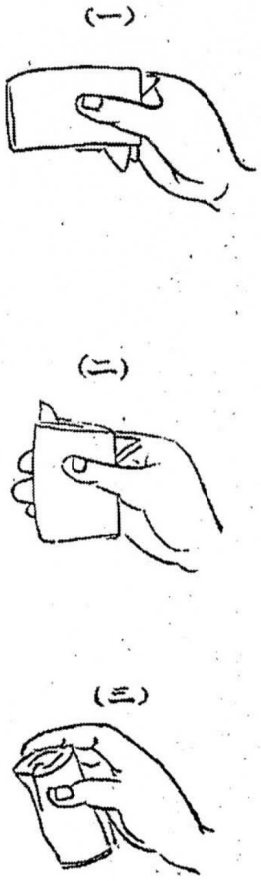
入の口は其和巾右手に握り込拭ふなり則如圖

行ノ和巾



唐物点又は盆点等に茶入の口を拭く時は右の和巾を手前三つ折こなし右手の拇指にて押へ他の指を和巾右の方前より下に入れ和巾を竪てにし。握り込み茶入の口を拭きて其の和巾は懐中す

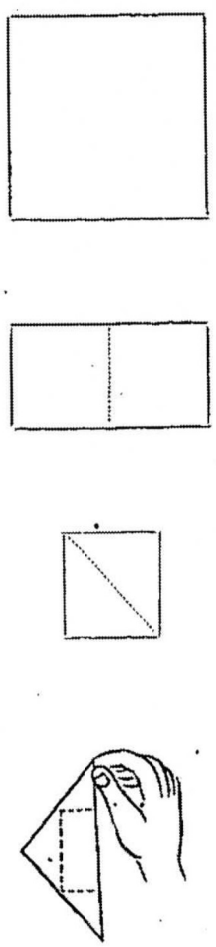
真ノ和巾



草の茶入口拭事は食指を向にし大指を前にして前後共指にてつまみ拭なり

松尾流樂只齋より宗幽宗匠迄眞の和巾さばきの事

一和巾左にて取り両手にて四方を引延し前へくり出し半分に折りて。又二つに折角み違にして下より少し折上へも少し折。向の角も少し折り廻して。右の手に持。是を眞の和巾さばきと言也左の圖の通り



◉茶　巾

一薄茶点に用ゆる茶巾は。始めよりしほりふくため。茶碗に仕込持出るなり。濃茶点に仕込様は。茶碗を能く洗ひて拭はずに。絞り茶巾を入れ。茶筅も能すゝきて入れ。茶杓かけて持出るなり（是れは樂只齋以來仰止齋比まて）水指の蓋燒物なれは（茶筅とうしの湯碗へ汲入前）絞り茶巾取出し。追振の通建水の上にてしほりふくためて。蓋のつまみへ（竪手成に）掛け上け置く。茶筅とうし仕廻茶碗の湯を捨つる）茶碗左手に持。ふくため茶巾。右にて取り碗を拭ふなり。又水指塗蓋のときはしほり茶巾取出し。其儘蓋のはしきの

前。一文字に横に上け置（茶筅とうしすみ其茶筅流し飾に飾り戻す）しほり茶巾右にて取り。追振の通り。建水の上にて能く絞り眞中へ持來り。ふくためて。疊み直し。右手に茶巾持なから其手を碗の外へ添へ。左の手にて碗を取り上け。茶巾持たる右の手を。右の膝に置き。左りの手にて湯を捨て。碗を眞中へ持たる時。しづくを留る心にて。茶巾を碗の外へちよつと添へ。すぐに中へ入れて熟と拭ふなり

一濃茶点る時水指に替蓋ある時は。燒物蓋なれは。ふくため茶巾。風爐に用る。塗蓋はしほりかけ茶巾爐に用るがよろしきか樂夢齋今從之

一点茶中。釜蓋の上に。茶巾置所は。釜の蓋つまみの。客付の方に手なりに置なり

一茶巾に二種あり。一は端縫あり。一は端縫なし。平点の茶巾は。端縫して。二つに折て用ふ。細き筒茶碗にては三つ折一の端縫なき茶巾は。貴人点に三つ折にして用ゆ。一度限りにて取捨る故なり

獨秘鑑曰

一水指共蓋にはふくだめ茶巾を用ゆ。水指塗蓋には絞りかけ定めなり。故は共蓋は古代の物なり。ふくため茶巾も古代なり

但塗蓋にても茶巾ふくため用る事は不苦唐物点以下樂夢齋今より之に從ふ

但し本文の故を以て塗蓋の茶巾は取て茶碗持添へ廻して湯を捨る共蓋の水指の茶巾は湯を捨てから茶巾を取て碗を拭くなり

愚按するに此の說士風爐には用ふ可らず金風爐には用るもよろし

弊帚記濃茶点茶碗仕込樣。樂只齋曰

一茶碗能洗て。ふかずに。しぼり茶巾を入れ。筅も能すゝぎて入れ。茶杓をかけて出るなりとあり。外云々略す

一塗蓋には。茶巾をしぼり茶巾にて置がよし。燒物蓋にはふくためたゝみて置が宜し。始め茶碗に仕込出るときは。しぼり茶巾にて入置。持出るなり。茶巾と云ふは。水もひたして。角をつまみ。引上さまに。茶巾平目に。細長く成やうに指さきにて。さつとしごき。四つに折て。眞中を二つに。ねぢたるやうに。指の跡を付け。茶碗へ仕込なり。ふくためるときは。右の通しぼり茶巾にてあるを。碗より取出して。こぼしの上にて。両手の指さきにて。能しぼりて我前へ持かへり。ねぢ戻し。角々を持ち。能持のべ。たゝみて置くなり。余は細かに筆し難し

○しぼり茶巾にて。仕込出るときは。筅をとうし仕廻ひ。茶入と置合てから。先つ茶巾を取て。建水の上にて。能くしぼり。眞中へ持來りふくためてたゝみ直し右手に茶巾持なから。其手を碗の外へ添へ。左手にて碗を取上けて。茶巾を持たる右手を右の膝に置。左手にて湯を捨碗を眞中へ持たるとき。しづくを留る心にて巾を碗の外へちよつと添へ。すくに中へ入て熟と拭ふなり

〔第四號〕

◉柄杓蓋置取扱の事

一爐の点茶に。柄杓蓋置の取扱は。四疊半左勝手薄茶点に有り

一風爐引柄杓の引やう。湯を汲み碗へあけたるなりにて。杓のかうを釜の上迄持行く間に自然あをのけるやうにして釜の上にて。熟とあをのけ。中指と食指のさきにのせ。柄の所は。食指と大指のまたにのせなから。杓の底前の角を。釜の口向ふて。縁にのせて。少しゆかめて。手計前へ引きぬくなり。是れを引柄杓と云ふ。但引溜る時。杓のゑさきと。指のはしきはにて。柄先きをかゝゑるきみ。有がよし人目に立程は悪し。置柄杓と云ふは。右の通。杓のかうを。釜の口にのせ柄を中指と。食指のさきにのせなから。柄の下から大指を右の方へくゝらせ。食指と同しやうにならへ。それなりにて。柄をかゝにて釜の口にのせ置なり

柄杓取やうのこと。杓釜の口にあるを。手をあをのけて。中指と食指のさきに柄のさきをちよつとのせ。右の方へ少しひねりさまに。柄を上へ。かゝにに上るやうにして。柄の裏を。二つの指さきにて。すらせ。節から。七八分前迄。指をさしくして。大指を柄の表へ。あてゝ持堅め。湯を汲むなり。又柄の節七八分前の所を。柄の右脇の方へ。食指の先を付。大指を柄の表へ。あてゝ中指無名指小指。三つの指さきに柄をのせ。上にある大指を。右へのけ。下へさけて。左りへくゝらせ。上へのせさまに。柄を持堅めて湯を汲もよし。湯を汲たる次手に水を汲は。杓持直すに不及。水を汲むなり。水を汲へきため。柄杓をこるときは。杓を右にてこり。左手をへて。持直し水を汲む事なり。爐風爐ともいく度も如斯

但爐引杓の事は後編に出す弊帚記巻の貳

一柄杓立に飾る。柄杓は眞の柄杓を用ゆるなり

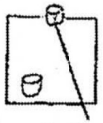
一柄杓湯返する事は。柄杓立と棚へ。飾り戻す丈の事

但沅古齋曰。柄杓湯返して。すぐ杓立に立る（湯返することは杓立るときの外の棚にてはせづことあり

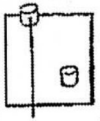
一柄杓を杓立に用ゆる時は。始中終杓を蓋置に引ここなし濃茶点るときは一度引事有り

一柄杓を建水に休めるときは。前后ともに杓のでうを。縁に掛置かよし（宗政四の巻にあり

一桐小卓等天井に杓蓋置二つ飾り爐風爐ともに



如圖（開發以來一等齋仰止齋比まて此如きか）又



（爐風爐ともに以后是れを好古齋用ふるか）

然るを故有て風爐には柄杓客付蓋置勝手付爐には柄杓勝手付蓋置客付に飾る隅棚の格式に據るなり

〔第五號〕　釜之取扱之事

◉弊帚記曰

一圍爐裡に釜居樣の事

輪口釜は。爐縁より。釜の口を高く居る事なり。高さ位は柄杓のかうをうつむけて。釜の內へ落し。月形の所を釜の口にかけ。柄の先の疊に付て。爐縁の上にて。柄杓の柄の下。縁の間に。指二つ重ねて入程。凡七八分透やうに居て。恰好よし。乍去釜の形に因り少々つゝの。高下は見合せ有事なり

一姥口の釜は。爐縁よりさげ居る。是れも柄杓を釜の中へ落し。月形を姥口へのせ。柄を爐縁へのせて。柄先をはねさせ。柄の本はつれの所と。疊の間。七八分程透樣に居るなり。尤も杓は。はね加減に氣を付け釜の大小に據はず恰好次第に高下を。見合るか。作意の第一なり

一釣釜透木釜は五德不入。後編に記

同濃茶の客の節

一替釜。勝手に仕かけ置かよし。尤も敷寄屋の五德に合たる釜を掛置事なり。是れは不思寄。怪我有時の用意のためなり。敷寄屋に。釣釜掛る時は。勝手に透木の釜川意すへし

弊帚記曰

一文字か地紋有釜遣樣の事

文字一方にある時は。文字の方を。前にして掛るなり。

文字両方にある時は。其要たる方。或は文字の。書始めの方を。前へ掛るなり。地紋も准之了簡して可用なり

爐風爐ともに同前なり

弊帚記曰

一釜の蓋取あけやうは眞向より少し計り。左の方を明るこゝ心得へし。

弊帚記曰

一釜を上け。膝と臂とをはなして。釜を持ちながら。左の方へ少しきて。釜敷の上へ置き。乘か不乘かを見込釜を上け定座へ寄る鍛をはつし圖の所に置き炭組圖第三圖如し

弊帚記曰

一袋棚にて。炭するこきは。釜は爐縁の角こ。棚の間に上置なり。（定座）乍去大釜なれは膝につかゝるゆゑ。左の方の跡壁際へ引去置く。

同

丸卓飾り。炭仕方常に替る事なし。釜上けたる時も。棚こ爐縁の角こ此間如法上置なり。

一釜に鍛かくる事は。右を懸け。左りをかくる。又はづすも同前なり

但右勝手の炭する時は。此反對こ心得可し

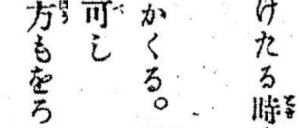
一風爐の鍛を。客付よりをろし。勝手の方もをろす

〔第六號〕

◉水指の蓋取樣幷置定座又片口持出水指へ水を差入る時其定座の事

一爐水指の蓋取樣。但爐風爐二種あり

はじきを取り。其のなりにて建水の上



左手にて指四本を。蓋の裏へあて。大指

此の如くあるを右にて蓋のにて蓋の左りこある所を。

所を向へして。前こある所を下へして。蓋を立て。しづくを落し。下へ成りを表へあて。持ち右こある

たる所を。右の手にて。向から前へなでてしづくを留め。其のなりにて。水

指の通にあたる。勝手の方の客の方へつまみは。横に成やかけてもよし。尤も蓋の表は壁に寄せ立かけ置く如斯。蓋の表をうに置く。又水指の左りの方へ持せ同前但し障子ふすま又は張付には持せかけるこゝ悪し丶。かべの腰張は不苦。これは爐の取扱ひなり。又風爐のときは蓋建水の上にて。しづくを落し。右手にて向から前へなぞ丶。しづくを留め其手にて丸印の所の蓋表を客付にして。持ち水指の腹に勝手付に爲持かけ置く

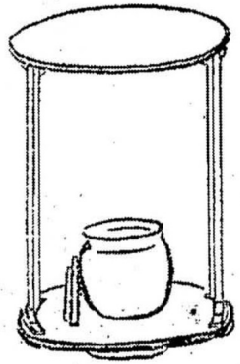
◉水指の蓋取置定座幷片口持出水指へ水をさし入る時

水指の定座

一平点水指の蓋表を客付にして水指勝手付の。腹に立掛け置く。壹圖如

一丸卓四方棚。都て二本柱の小棚は。蓋表を客付へして。水指の勝手付に。立掛置く。第貳圖の通り

一片口持出。水指へさし入るときは。水指居置の儘。蓋を取り水さし入る。又藥鑵を。片口の代用するときは。何棚にても水指疊へ下し。蓋は水指の勝手付。腹に立かけ置く下倣之

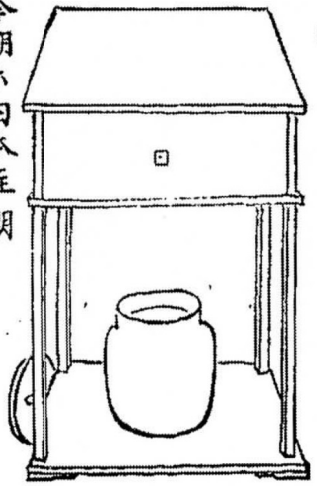


一江岑棚桐小卓等。四本柱の棚は。蓋表を。客付にして。棚の勝手付。前柱に勝手の方。外より立掛置く。第參圖の如し

一四本柱の棚。水指に水をさし入るときは。片口持出。水指の前に居直り片

水指蓋

第三圖



江岑棚ホ四本柱棚

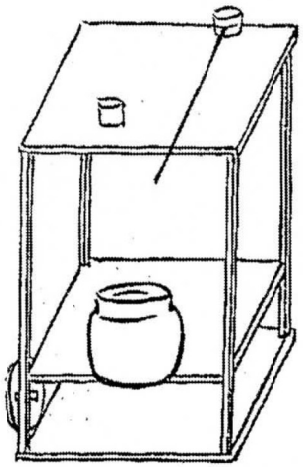
口を膝勝手付に假置し。水指を右左りと両手にてかゝへ。少々引出し其蓋右にて取り。左りへ持ち替へ棚勝手付前柱に圖の通り立掛置き水さし入るなり第四圖の通

一旅簞笥。幷紹鷗水指棚の類總て棚は水指の蓋表を客付にして。簞笥棚等の内。勝手付前の方。圖の所に立掛け置く第五圖の通なり

一又水指の脊高くして（柄杓通ひ難き時は）水指引出しあ

水指蓋

第四圖



牧蓋置風炉ノ左勝手飾

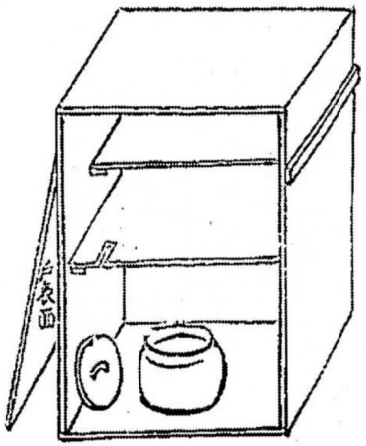
る。此時は蓋の表を。客付へして。簞笥の勝手付外ゟ其戸の立掛けある所との間に（第六圖の所に記）蓋半分の餘さし入て簞笥の方へ。立掛け置第六圖の通

一旅簞笥の。水指に水をさし入るときは。片口持出て水指の前に居直り。前振の通り。片口膝横に假置して。先つ簞笥の戸。法の通り明け。簞笥の勝手付に。第六圖の所に。立掛置。地板の上の。蓋置を取出し。六圖の所に假置し。水指少々引出し。其蓋を取り。簞笥の勝手付外より立掛置く第六圖の通り。片口を取り。前振の如く。水指に水をさし入る事。前に同樣。水指返し戻すこと初めの反對と心得へし

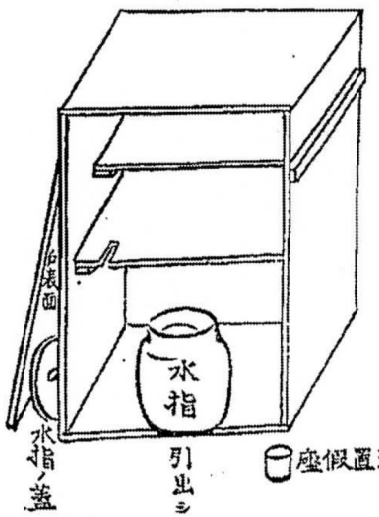
一紹鷗水指棚等は。旅簞笥に。戸のなき迄にて。別に（戸の取扱ひを省くゟ

水指蓋

第五圖



水指蓋　第六圖



て）替ることなし。第六圖を用ゆ

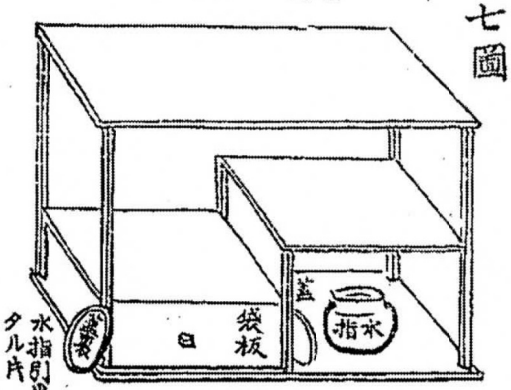
一袋棚これも。右同樣釜へ水をさし入るときは。水指の蓋は。袋の客付の方の板に。地板の上より。立掛置。又片口より。水指に水つぎ添るときは。水指少々引出し其蓋を取り。疊の上勝手の方より。蓋表を客付へ向置。又片口勝手の方へ。持ち入ること前例に同し

一紹鷗棚引拙棚等。袋ある棚。水指引出し。水指の蓋を取りたるとき。置所は勝手の方にて。疊から棚の柱へ寄せ掛け蓋半分程客の方へ。見ゆるように前へ引出し置くなり。片口より水つき添ること右に同し

一臺子四本柱貳本柱。長板の類。水指の蓋取たるとき。置所は。地板の上水指の腹勝手付に。蓋表を客付にして。持せ掛置。大蓋なれば向へ押出し水指に掛け置く又片口持出。追振の通水指へ水つぎ添るにも。大なる物故。水指其儘に置て水指添る也。水指蓋しめ。片口勝手へ。持入事追例の通。

但爐臺子四本柱の水指の蓋は臺子地板の上にて左の方前柱に寄せかけ置へし

水指蓋　第七圖



〔第七號〕

◉点茶の節。水指より釜へ。水さし入る取扱の事

一風爐は。点茶の湯汲前に。水一杓汲。釜へさし入る事

一爐は点茶して。碗客へ差出し置て後。水指の蓋取。水一杓汲。釜へさし添る事

一爐風爐とも。濃茶に至り候ては。点茶客へ差出。茶の加減を伺ひ。又末客に致りては。御相伴の挨拶も。相濟。定座へ戻り居り。后釜へ水一杓さし入る

一爐風爐とも。点茶終りて。釜へ水三杓汲入れて。水指の蓋しめる。是れを習の爲法。其餘釜へ水一杓づゝさし入ることは。釜の湯加減。火の加減により。隨意作廻の事

一水指より。釜へ水さす時の柄杓は。茶入茶筅の流し飾りある。向の方を通る。茶碗へ入る時は。直に前の方を通ふなり

四疊半座敷道具飾付点茶の内

茶入茶筅置所は。水指と爐縁の角との間を。三つわりにして。其眞中に茶入茶筅をならべ置を流し飾りと云ふなり。但置やうは。たとへは。両の頭を一文字と見て。茶入茶筅を。ならへたる所も。一文字と見て膝の一文字との間のむらなきやうに。かざるがよし。○爐縁の角より。少し前の通に置と。可心得。是は水指より。釜へ水さす。時柄杓より露落ても。茶入茶筅にかゝらざるためなり。釜へ水さす時は。二色かさりより。向の方を通る。茶碗へ入る時は。直に前の方を通ふなり○乍去。柄杓を茶入より向こ前こ。引わけ通すこ。急度目に立るは悪し。何こなく見ゆるやうに遣ふこと也可有工夫。水を汲釜へさす時柄杓のこう水指の口をはなれる時。釜の口迄。持行間に杓上り下りせぬやうに。水指の口より釜の口へ糸引たるこゝくに。片下り何となく。すつとかよはすがよし。茶碗へも同前。釜へ水をさして柄杓のかうを。

少しにしても。あをのける氣味あるは悪し。見苦きなり。打あけたるなりにて水指へ通はするがよく見事なり。茶碗へも同前。疊へ枸の雫落るを。用捨すれは見苦なり。釜の上にて枸をふり雫を落すこそ悪し。見くるしきなり。茶碗へすゝきの爲に。湯水を入る時柄枸に少し殘して。釜へ入る事甚だ悪し

〔第八號〕

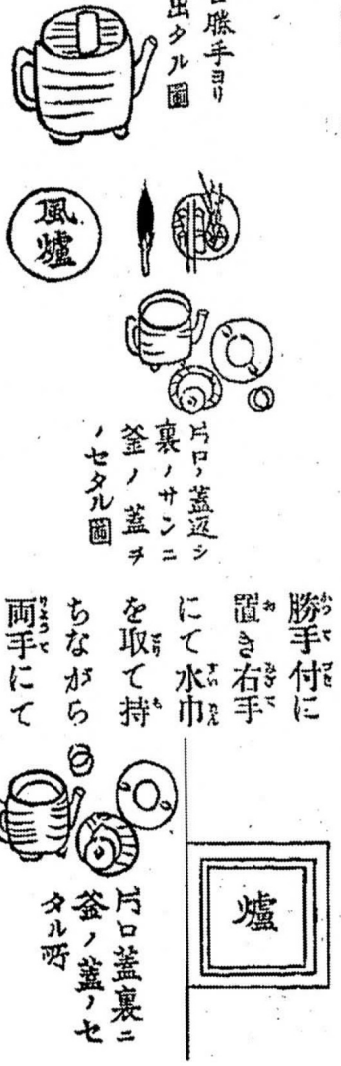
◉片口持出水指へ水をさし入る事

一片口持出。水指へ水をさし入る法。片口は木地も塗もあり（濃茶には杉木地を用ゆ）片口しめし。水をこし入れ。茶巾をしぼりふくだめて。蓋の上に置き片口の手を。左りに持ち口の通りの底を。右手にかゝへ持ち出し。水指前に居直り膝通勝手付にて。水指に向はして置く。夫より水指の蓋を取り（棚に寄て手順替る）○別記第六號に在り左手にて片口を取り。手を持ち。右手にて水巾を持ながら。片口をかゝへ。水をさす。片口の水暫くつぎ減したれはつぎ休み。片口一度廻して。水返しをして。又水をつぎ入るなり。江岑棚桐小卓抔。四本柱有る物は。水次ぎ難き故。少々水指を引出し。水を次ぐ。旅箪笥。紹鷗棚。抔せまき物故。是れも引出すなり。丸卓四方棚の類。貳本柱のもの故。其儘水を次くなり。臺子は四本柱にても大い成物故。其儘水を次ぐ。水さし仕廻。片口を下に置さまに。口をかゝへたる水巾をしたより。すぐに上へ。ぬぐふやうに上げ。露を取り片口の蓋の上へ戻し置。水指の蓋をしめ。引出したる水指は。元座へ戻し入て。片口勝手へ持入る。但片口の替りに棗鐘代用するときは棚の水指を。下にして。疊の上に置。水をさし入るなり

〔第九號〕

◉片口持出釜へ水差入る事

一釜へ水さすべき爲め。片口を取りに立ならは。灰器を持。勝手へ入り。片口能くしめして。水をこし入れ。蓋の上に水巾をしぼりふくだめて置く。片口の手を。左りに持ち口の通りの底を右手にかゝへ持出て其なりにて釜の際



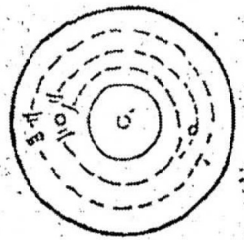
を取り。あをのけて。釜の底下へさし込やうにして疊に置き。水巾持ながら。釜の蓋を取り。あをのけたる片口の蓋裏の桟に。持せかけて置く。左手にて片口の手を持ち。右手に水巾持なから。片口をかゝへ。水をさすなり（片口の中に水返しあるに付始め水少々さし入れ水返しの上に殘りたる水を片口の中へ廻し戻し又水をさす都合両度にさし入る）水をさし仕廻。片口下に置さきに口をかゝへたる水巾を。下よりすぐに。上へなで上けて。露を取るなり

扱釜の蓋をして。水巾はあをのけたる。蓋へすぐに置き。其なりにて。片口の上へ蓋を。あをのけながらのせて。勝手へ持入るなり。座舗にて。水指へさすも。此格式なり。若し藥鑵を。代用して水をさし入るゝ時は。蓋置を持ち添へ出て。釜の蓋を乗せるなり。又蓋置棚に飾りある時は其蓋置を用ひるなり。藥鑵にては水返しなきに付。水は一度にさし入るゝなり。

〔第九號〕附屬

◉釜を水にて濕事

（釜を水にて濕すときは水巾をたゝみ濕して片口の上にのせて持ち出る事）



一前記の通り。釜へ水差入て下に置き。片口の露の上へ拭上け。其水巾にて釜の蓋をしめして。すぐ蓋。初の釜の肩も。圖の如く左鐶付際より向を右へふき廻り右鐶付際より手を左りへ戻し廻り。左鐶付際より。手前を右鐶付迄ふき

廻り。少々戻し。ふく氣味ありて。又左鍜付際より。向を右の方へふき戻し。左の鍜付より手前を。右の方へふき戻り。又左より向を。右へふき廻り。幾度も同斷（釜に應してふく普通五度ほどなり）水巾を片口の蓋あをのけたる上に乘せ。両手にて持ち。蓋片口にのせ勝手へ持ち入るなり

〔第拾號〕

◉茶入袋脫し方取扱

一平手前。濃茶爐風爐共。○第貳圖。其二の所にて。左手にて茶入を。上から押へるやうにして持ち。右の手の大指こ食指にて。結目をこき前の方へ成たる輪を。食指を上にし。大指を下にしてつまみ。前へ引さまに。手をひねり。仰て。食指。中指。無名指。此三つ指に。輪の内へ下から上へさし込やうにして。引留め。指をぬき。すぐに左右こもに。四つ指を延し。茶入の。両方からかゝへる樣にして。ひねり候へは。茶入如此なるを。右手にて。茶入の上にて。ほひを。食指と大指にて。打留の方。つがりのきわを押へて。左り

の食指と大指こ。二つにて打ち留の先をつまみ緒の中程迄。左りの方へ引出し。両手の指。三つ宛にて。向の方のひたを。眞中より両方へ引延し。前の方も同し通に。引延し。其儘にて。右手にて。茶入を上からつまみ。取上け打留の。向へ。成やうにして左手の内にのせ。底を持かため。右手にて袋の口を両方へ少し押し開き。向こ前のまちの通りなり。上から手を入れ。茶入を儘こ持ち。茶入を上へ。出すやうに見せて。袋を下へぬき取り。其手は左りの膝に置（茶入ぬきたる跡袋の口開きあるは見苦く手の内になし開かぬやうにすへし仕方あり細に記しかたし）茶入は前の下に置。袋の緒を引しめて。釘にかくる。但緒の打留こ。輪の所を。右手の大指こ食指にてつまみ引しめてかくるなり此時は。打留方を柱に付るやうにすべし。又袋のひたを能延し。輪を一つくるもよし。打留は下へさがるなり。又棚の上に置時は。袋の底を前にして。かべ付の方へよせて。上げ置なり棚も釘もなきこきは。爐にては水指と壁この間。かへの方へよせて左手にて疊の上に置く。風爐の時は右手

にて風爐と壁との間に置く。何れも其底を。前にして置なり。

茶入袋之心得

一極暑たりとも茶入袋なしに出す事は無之

〔第拾壹號〕

◉点茶圖解番號表

一第壹圖平点は。水指初追々持出。飾付ける圖を記し。又小卓棚類は其飾付の圖を寫し。点茶取崩の手順の圖を記し。其圖數多きときは○第壹圖の其壹其貳と號す

一第貳圖は。第壹號平点なれは。水指初め追々持出て。飾り付け。小卓棚等は。取崩し濟して。客へ一禮して。点茶に取掛る。境の所を記す

一第參圖は。点終り。釜へ水三杓汲入れ。水指の蓋しめる所の境を記す

但○第貳圖と○第參圖との。間の取扱ひを定例点茶法と號す。末第拾貳號に記す

一第四圖は。客の所望に寄り。茶入茶杓等客へ差出す圖

一第五圖は○第參圖を以て。飾り戻し点をして。始の第一圖と。同圖となるなり

〔第拾貳號〕

◉点茶定例法

薄茶は。四疊半左勝手。爐風爐とも薄茶点○第貳圖より○第參圖迄の間の取扱を云ふ

又濃茶点も同斷○其第貳圖より○第參圖迄の間を云ふ

〔第拾參號〕

◉道具棚へ飾戻仕舞取扱心得

一棗はふかす。其儘飾戻す

一茶碗は水すゝぎして。水を捨。碗の中能く。茶巾にてふき上げ。其巾しぼりふくだめて。碗へ入置く

一柄杓は。杓立並棚へ飾戻す時は。湯返するなり
但湯返することは當流監古齋傳此第四號にあり
一茶杓は。和巾（しぼりさばき）疊みて。茶杓を壹度拭清めて飾る○此第貳號にあり
一和巾は（しぼりさばき）疊みて。水指塗蓋なれは。蓋の上に手なりに置く。共蓋なれは。棗の蓋の上に飾り置く

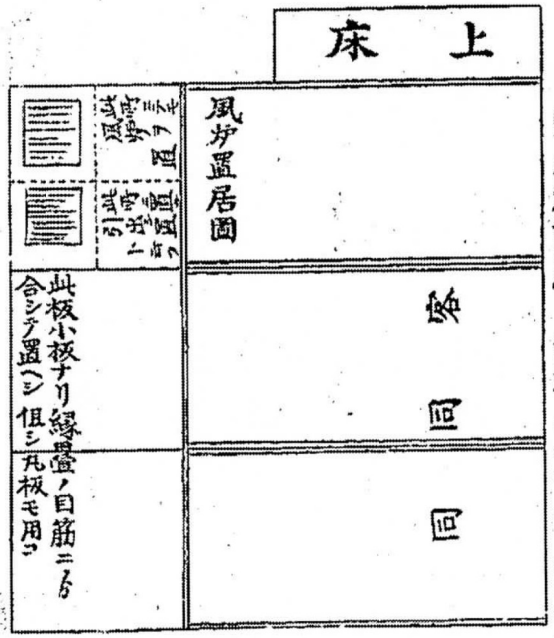
〔第拾四號〕

◉小角臺及貴人点取扱の事

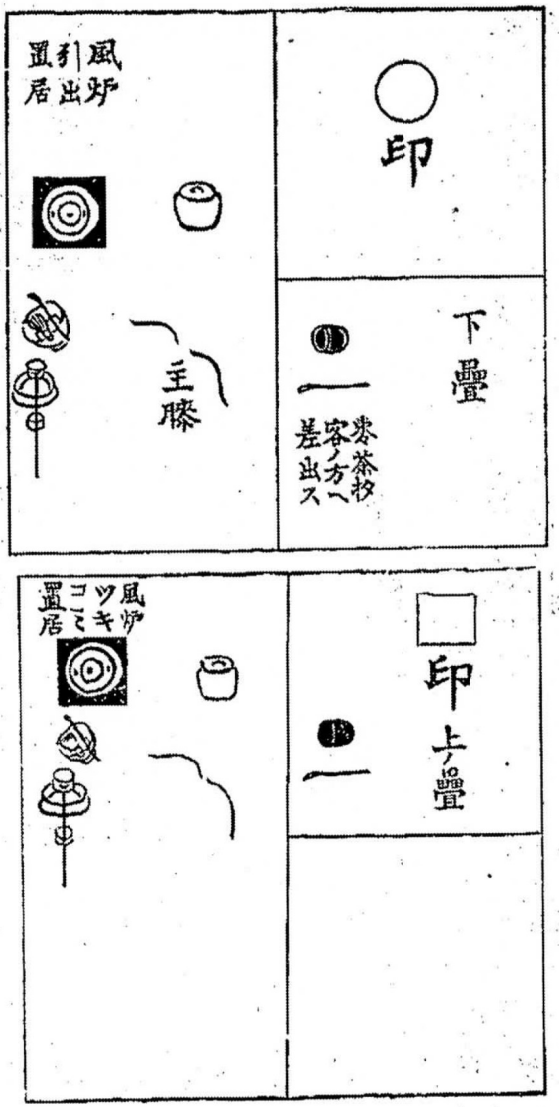
一小角臺は水に濕してすぐふき上げ用ゆる
一茶碗濃茶に用ひる時は。能く洗ひふき上げ。茶巾はしぼりふくだめ。茶筅もすゝぎ入れ茶杓も清めて碗に仕込み臺に載る時は。両手にて貴人あしらひ。臺を持上けるは左手にて其足の切目へ指四本（又は三本）入て。上より大指にて押へるやうにして持。右手にて天目碗抱へて。取扱ひ。点仕廻て碗臺に飾戻す時は。碗ふき上けず。碗の外の雫を茶巾にて一寸ぬぐひ。碗の中へ入れ臺に載置く

〔第拾五號〕

◉風爐置居る舗板の定座の圖但弊帚記に在り



一四疊半左勝手の圖（疊圖の如く敷なり大目点向切点ともに同し）小板を置に丸疊なれは向を小半間明て小半間目を小板の向にあて置。如圖置を風爐の引出し置と云。四疊半又は廣座舗にては引出し置か吉。大目なれは向の壁より五六寸程前へ引出し置なり。丸疊にて如此置事もあ



り

一風爐左勝手。点茶碗差出し方又客より諸品拝見を乞たるとき差出し方取扱之事

一四疊半敷左勝手風爐引出し置丸印圖の如し

但風爐置居圖は左勝手風爐薄茶点最初の圖に在り

一三疊舗以下の座舗にては風爐つきこみ置居角印の圖の如し

但薄茶碗出す所幷香合茶入茶杓又濃茶器をも出す所。上の疊に出すへし

右は翫古齋茶道聞書に在り

〔第拾六號〕

◉客より両器始袋等を見んとを乞ふ時及ひ茶碗和巾等客へ差出す取扱之事

一當流は。座舗の床有る方を上座として。客各々着座候得共。中立の后点茶の時に至りては。座舗の都合により。上客と末客の座。逆に入替り着座するともあり。未た定法を見ず。依て今主人点茶する所を中央として。其時上客の着座する所を上座と定め。末客の着座したる所を下座とし。左右の方を客付勝手付と改め。客より棗茶杓を見度旨乞たれは。上客の方へ棗を出し次の

方へ茶杓を並て差出す。又点茶して茶碗を上客の方へ出し。次の所へ和巾を並へて差出し。又茶入と茶杓袋も右に同し。皆これ弊帚記に見ゆ今ま樂夢齋之に從ふ

〔第十七號〕

◉中仕舞飾り戻の事

中仕舞飾戻は爐に向ひ蓋置左にてこり右へ持ち替へ定座に置右にて釜の蓋とり蓋置へ上げ其手にて茶巾をとり釜の蓋の上にのせ其手にて水指の蓋を取り左りへ移し建水の上にて露を切り左りにて水指の左りの腹へ例の通りに立掛け左りにて柄杓をこり右へ持替水を釜へ一杓さし加へ柄杓は直ちに釜に掛置但し中蓋の事は釜の蓋をして柄杓は蓋置へ引なり

松尾流茶儀指掌前編　終

明治四十三年十二月十五日印刷
明治四十三年十二月二十日發行
定價金七拾五錢

著作權所有

校閲者　成瀬日俊
名古屋市西區西管原町三十九番戸

著作者　小出平四郎
名古屋市西區玉屋町一丁目十五番地

發行者　小澤吉三郎
名古屋市東區宮町四丁目十二番地

印刷者　横山圓太郎
名古屋市東區宮町四丁目十二番地

印刷所　進文舍
〔電話九四六番〕

發行所　名古屋市西區玉屋町一丁目拾五番地　小澤百架堂
〔電話二四八一番〕